

第十六條 日本ト外國トノ間又ハ外國各港ノ間ヲ航行スル船舶カ外國ノ港ニ入港シ又ハ日本ニ到着シタルトキハ船長ハ二十四時間内ニ其港ノ管海官廳、若シ其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ航海日誌ヲ提出シテ其檢閲ヲ受クルコトヲ要ス
前項ノ規定ハ船舶カ入港ノ時ヨリ十二時間内ニ發航スル場合ニハ之ヲ適用セス

管海官廳ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命シ又ハ船員、旅客其他船中ニ在リタル者ヲ呼出タシテ訊問ヲ爲スコトヲ得

第十七條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

- 一 豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ
 - 二 人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ
 - 三 衝突其他ノ海難カ生シタルトキ
 - 四 船舶カ捕獲セラレタルトキ
 - 五 船中ニ於テ死亡シタル者アリタルトキ
- 船舶カ豫定セサル港ニ寄港シタルトキ又ハ前項第二號乃至第五號ニ掲ケタル事由カ碇泊中ニ生シタルトキハ船長ハ其港ノ管海官廳、若シ其港ニ

管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

前條第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 前條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テハ船長ハ報告書ヲ作り其認證ヲ申請スルコトヲ得

第十九條 船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ船長ハ人命、船舶及ヒ積荷ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且旅客、海員其他船中ニ在ル者ヲ去ラシメタル後

第二十條 船舶カ衝突シタルトキハ船長ハ互ニ人命及ヒ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且船舶ノ名稱、船籍港、發航港及ヒ到達港ヲ告クルコト

第二十一條 船長カ航海中救援ヲ求ムル船舶ヲ認メタルトキハ人命ヲ救フコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ此限ニ在ラス

第二十二條 海員カ船中ニ於テ死亡シタルトキハ船長ハ其船中ニ在ル遺産ヲ保管スルコトヲ要ス

第二十三條 外國ニ駐在スル日本ノ公使、領事又ハ貿易事務官カ法令ノ定

ムル所ニ依リ日本臣民ヲ日本ニ送還スヘキコトヲ命シタルトキハ船長ハ

○船員法

正當ノ理由アルニ非ラサレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
送還費用ノ償還ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條 船長ハ其指揮セントスル船舶ニ乗込ム前ニ其船員手帖ヲ管海官廳ニ提出シテ就職ノ認證ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ就職ノ認證ヲ得タル船長カ其職ヲ退キタルトキハ遲滯ナク退職ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十五條 船長カ死亡シタルトキ、船舶ヲ去リタルトキ又ハ之ヲ指揮スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ他人ヲ選任セサルトキハ運航ニ從事スル海員ハ其職掌ノ順位ニ從ヒテ船長ノ職務ヲ行フ

第四章 海員

第二十六條 海員ノ雇入若クハ雇止ヲ爲シ又ハ雇入契約ノ更新若クハ變更ヲ爲シタルトキハ管海官廳ニ海員名簿ヲ提出シテ公認ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條 管海官廳カ公認ヲ爲スニハ海員名簿ニ記載シタル事項ヲ當事者雙方ニ讀聞カセタル後之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス但海員ノ雇止ヲ爲シタル場合ニ於テ正當ノ理由アルトキハ當事者ノ一方カ出頭セサルトキト雖モ公認ヲ爲スコトヲ得

當事者カ印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルトキハ氏名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル若シ署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ氏名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル

前項ノ規定ニ依リ捺印セス又ハ氏名ヲ代署セシメ若クハ捺印シタル場合ニ於テハ海員名簿ニ其理由ヲ附記スルコトヲ要ス

第二十八條 當事者ハ正當ノ理由アル場合ニ限り代理人ヲシテ公認ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十九條 公認アリタルトキハ海員ハ遲滯ナク其船員手帖ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス

第三十條 海員ノ雇止ニ關シテ爭アルトキハ當事者ノ一方ハ管海官廳ニ其事由ヲ申立テ雇止ノ公認ヲ申請スルコトヲ得

管海官廳カ前項ノ申請ヲ正當ナリト認メタルトキハ當事者雙方ヲ呼出タシ海員名簿及ヒ船員手帖ヲ提出セシメテ雇止ノ公認ヲ爲スコトヲ要ス

當事者ノ一方カ出頭セサルトキハ管海官廳ハ相手方ノ申立テニ因リテ雇止ノ公認ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ海員名簿及ヒ船員手帖ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ニ於テハ管海官廳ハ海員名簿又ハ船員手帖ノ提出ヲ強制ス

ルコトヲ得

第三十一條 船長ハ海員ノ雇入期間中其船員手帖ヲ保管スルコトヲ要ス

第三十二條 海員カ雇入期間中脱船シタルトキハ船長ハ遲滞ナク管海官廳ニ其海員ノ船員手帖ヲ返還スルコトヲ要ス

第三十三條 海員ハ雇止アリタル場合ニ於テハ船長ニ對シ其職務ノ執行又ハ品行ニ關スル證明書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第三十四條 海員名簿カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ更ニ海員名簿ヲ作り之ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條及ヒ第二十八條ノ規定ハ海員名簿及ヒ船員手帖カ共ニ滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ公認ヲ申請スルトキハ此限ニ在ラス

第三十五條 海員カ雇入期間中第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リテ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請シタル場合ニ於テ其交付又ハ書換アリタルトキハ海員ハ遲滞ナク第二十九條ニ定メタル手續ヲ爲スコトヲ要ス

第五節 紀 律

第三十六條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ懲戒スルコトヲ得

一 海員カ上長ニ對シテ尊敬又ハ從順ノ道ヲ失ヒタルトキ

二 海員カ其職務ヲ怠リタルトキ

三 海員カ他ノ海員ノ職務執行ヲ妨ケタルトキ

四 海員カ喧爭シタルトキ

五 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ船舶ヲ去リタルトキ又ハ船長カ指定シタル時マテニ歸船セサリシトキ

六 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ點火又ハ焚火シタルトキ

七 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ端艇ヲ使用シタルトキ

八 海員カ食料又ハ飲料ヲ濫費シタルトキ

九 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ酒類ヲ所持スルトキ又ハ吸煙シタルトキ

十 海員カ酩酊シテ事ヲ省セサルトキ

第三十七條 懲戒ハ左ノ四種トス

一 監禁

二 上陸禁止

三 加役

四 減給

○船員法

第三十八條 監禁ハ三日以下トシ船中ノ一室ニ拘置ス

上陸禁止ハ七日以下トス此期間ニハ船舶ノ碇泊日數ノミヲ算入ス
加役ハ七日以下トシ常務時間外ニ於テ役務ニ服セシム但一日二時間ヲ超
ユルコトヲ得ス

減給ハ給料月額十分ノ一以下トス

第三十九條 前條第一項乃至第三項ノ期間ニハ初日ヲ算入ス

第四十條 懲戒ノ適用ハ行爲ノ輕重ニ從ヒ船長之ヲ定ム但二種以上ノ懲戒
ヲ併科スルコトヲ得ス

第四十一條 海員カ兇器、爆發若クハ發火シ易キ物、劇藥其他ノ危險物又
ハ酒類ヲ所持スルトキハ船長ニ於テ其物ヲ保管又ハ放棄スルコトヲ得

第四十二條 海員カ人身又ハ船舶ニ危害ヲ及ホスヘキ行爲ヲ爲サントスル
トキハ船長ハ必要ノ期間内其海員ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得

第四十三條 船長ハ必要アルトハ旅客其他船中ニ在ル者ニ對シテモ前二條
ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 海員カ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込マサルトキ又ハ
船長ノ許可ヲ得スシテ之ヲ去リタルトキハ船長ハ乗船ヲ強制スルコトヲ
得

第四十五條 船長ノ命令ニ服從セサル者アル場合ニ於テ必要ト認ムルトキ
ハ船長ハ海軍ノ艦船、地方官廳又ハ管海官廳ニ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六章 罰則

第四十六條 詐僞ノ所爲ヲ以テ船員手帖ノ交付ヲ受ケタル者ハ十五日以上

六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
詐僞ノ所爲ヲ以テ海員名簿ニ公認ヲ受ケ又ハ船員手帖ニ認證ヲ受ケルル
者亦同シ

第四十七條 第七條、第九條、第十條、第十二條、第二十九條、第三十二

條又ハ第三十五條ノ規定ニ反シ船員手帖ノ交付、訂正若クハ公認ノ認證
ヲ申請シ又ハ船員手帖ヲ返還スルコトヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以
下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 虛僞ノ海員名簿又ハ船員手帖ヲ行使シタル者ハ一月以上一年

以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス
公認ヲ受ケタル海員名簿又ハ認證ヲ受ケタル船員手帖ヲ増減、變換シテ
行使シタル者亦同シ

第四十九條 左ノ場合ニ於テハ船長ヲ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ
又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 船長カ正當ノ理由ナクシテ商法第五百六十二條第一項ニ掲ケタル書類ヲ船中ニ備ヘサルトキ又ハ之ヲ毀棄シタルトキ
 - 二 船長カ第十四條ノ規定ニ反シテ書類ノ提出ヲ拒ミタルトキ
 - 三 船長カ商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ掲ケタル書類ニ記載スベキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
 - 四 船長カ第十七條第一項又ハ第二項ノ場合ニ於テ虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキ
- 第五十條 左ノ場合ニ於テハ船長ヲ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 船長カ商法第五百六十一條ノ検査ヲ爲サスシテ發航ヲ爲シタルトキ
 - 二 船長カ船舶ヲ安全ニ碇泊セシメ且商法第五百六十三條ノ規定ニ從ヒ其職務ヲ委任セスシテ船舶ヲ去リタルトキ
 - 三 船長カ第十五條ノ規定ニ反シテ甲板ニ在ラサルトキ
 - 四 船長カ必要ナクシテ豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ
- 第五十一條 船長カ第十六條第一項、第十七條第一項、第二十二條又ハ第三十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 第五十二條 船長カ第十九條ノ規定ニ違反シタルトキハ二日以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス
- 第五十三條 船長カ第二十條ノ規定ニ反シテ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡ササルトキハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 船長カ第二十條ノ規定ニ反シテ告知ヲ爲ササルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第五十四條 船長カ第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ十一日以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第五十五條 船舶ニ急迫ノ危険アル場合ニ於テ海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ其船舶ヲ去リタルトキハ十一日以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス
- 第五十六條 第十九條又ハ第二十條ノ場合ニ於テ船長カ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ爲スニ當タリ海員カ上長ノ命令ニ服從セサルトキハ十一日以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第五十七條 船長カ第二十三條第一項ノ規定ニ反シテ送還ノ命令ヲ拒ミタルトキハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第五十八條 船舶所有者又ハ船長カ第二十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ

十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

船舶法第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第五十九條 船長カ第三十三條ニ定メタル證明書ヲ交付セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタル證明書ヲ交付シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第六十條 船長カ第三十四條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上二百以下ノ罰金ニ處ス

第六十一條 海員カ雇入手續ノ終ハリタル後正當ノ理由ナクシテ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込マサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 船長カ第五章ニ定メタル處分ヲ爲スニ當タリ海員ニ助力ヲ爲スヘキコトヲ命シタル場合ニ於テ海員カ其命令ニ服從セサルトキハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十三條 船員、旅客其他船中ニ在リタル者カ本法ノ規定ニ依リ管海官應ヨリ呼出ヲ受ケ又ハ書類ノ提出ヲ命セラレタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セザルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十四條 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ二十四時間以上船中ニ在ラサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

海員カ脱船シタルトキハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

海員カ外國ニ於テ前二項ノ罪ヲ犯シタルトキハ一等ヲ加フ

第六十五條 船長カ正當ノ理由ナクシテ船舶ヲ遺棄シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

船長カ外國ニ於テ正當ノ理由ナクシテ海員ヲ遺棄シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第六十六條 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ兇器、爆發又ハ發火シ易キ物、劇藥其他ノ危險物ヲ所持スルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 故ナク船體若クハ機關ノ要部ヲ毀損シ又ハ重要ナル屬具ヲ毀損若クハ放棄シタル者ハ十一日以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯シテ船舶ノ運航ヲ妨ケタルトキハ一等ヲ加ヘ船舶ヲ覆没シ又ハ人ヲ死ニ致シタルトキハ重懲役ニ處ス

第六十八條 船舶ノ運航ヲ妨クル目的ヲ以テ前條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ重懲役ニ處シ因テ船舶ヲ覆没シ又ハ人ヲ死ニ致シタルトキハ刑法第百

六十九條ノ例ニ依リテ處斷ス

第六十九條 海員カ上長ニ對シテ脅迫ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

刑法第三百二十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニハ之ヲ適用セス

第七十條 海員カ上長ニ對シテ毆打創傷ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第七十一條 船長カ旅客、海員其他船中ニ在ル者ニ對シテ其職權ヲ濫用シ又ハ虐待ヲ爲シタルトキハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニシ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ疾病、死傷ニ致シタルトキハ前條ノ例ニ依リテ處斷ス

第七十二條 海員カ相黨與シテ左ノ行爲ヲ爲シタルトキハ各號ノ區別ニ依リテ處斷シ首魁ハ一等ヲ加フ

一 職務ニ服セス又ハ上長ノ命令ニ服從セザルトキハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

二 脱船シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

三 第六十九條又ハ第七十條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本條ノ例ニ照シ

一等ヲ加フ

第七十三條 船員カ著シク其職務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損若クハ覆没シ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十四條 本章ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代ハリテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

附則

第七十五條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ關シテハ勅令ヲ以テ別ニ本法施行ノ期日ヲ定ムルコトヲ得

第七十六條 明治十二年第九號布告西洋形船海員雇入雇止規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但本法施行前ニ同規則ニ定メタル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス

第七十七條 船員ハ本法施行ノ日ヨリ六個月間ハ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要セス

前項ノ期間經過ノ後ハ船員ハ遲滞ナク船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

○船員法

第七十八條 從來ノ海員名簿ハ本法施行ノ日ヨリ六個月間ハ商法ニ定メタル海員名簿ト同一ノ效力ヲ有ス
 前項ノ期間内ニ公認アリタルトキハ其期間經過ノ後ト雖モ其後始メテ公認アルマテハ從來ノ海員名簿ハ仍ホ其效力ヲ有ス
 第七十九條 本法ノ規定ニ依リ管海官廳カ行フヘキ事務ニ付テハ主務大臣ハ市町村長、市制又市町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ戸長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ其事務ヲ行ハシムルコトヲ得
 第八十條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

◎船員法施行細則

明治三十二年公布
 明治四十三年迄數度改正

(省令)

第一章 總則

第一條 船員法又ハ本則ノ規定ニ依ル申請ハ特ニ明文ヲ掲クル場合ヲ除ク外書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
 第二條 代理人ニ依リテ前條ノ申請ヲ爲ストキハ代理人ハ其權限ヲ證スル書面ヲ管海官廳ニ差出スヘシ
 第三條 船員法及本則中最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ト稱スルハ最初ニ到著シタル管海官廳アル港ノ管海官廳ヲ謂フ

第四條 本則第二章乃至第四章ノ事務ハ管海官廳ニ於テ當事者ノ申請ニ依リ理由アリト認ムルトキハ休暇日ト雖モ之ヲ行フコトアルヘシ

第二章 船員手帖

第五條 船員法第三條第一項又ハ第六條ニ依リ船員手帖ノ交付ヲ申請セントスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ最寄管海官廳ニ差出スヘシ
 船員法第三條第二項但書ノ場合ヲ除ク外申請者ハ同項ニ掲クル事項ヲ證スル戸籍吏ノ書面其他ノ公正證書ヲ申請書ニ添附スヘシ但申請書ニ其證明ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス

第六條 未成年者ハ前條ノ規定ニ從フ外左ノ事項ヲ記載シ法定代理人ノ署名捺印シタル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

- 一 未成年者ノ氏名及本籍地
 - 二 船員ト爲ルコトヲ許シタル旨
 - 三 船員ト爲ルコトヲ許シタル年月日
 - 四 法定代理人ノ本籍地及住所
- 第七條 船員法第七條ニ依リ船員手帖ノ訂正ヲ申請セントスル者ハ船員手帖ヲ添ヘ同法第三條第二項但書ノ場合ヲ除ク外訂正ヲ要スル事項ヲ證スル戸籍吏ノ書面其他ノ公正證書ヲ最寄管海官廳ニ差出スヘシ

第八條 船員法第九條又ハ第十條ニ依リ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請セ
ントスル者ハ第十一號書式ノ申請書ヲ最寄管海官廳ニ差出シ且書換ヲ申
請スル場合ニハ船員手帖ヲ差出スヘシ

第五條第二項及第六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但船員法第十一
條但書ノ場合ハ此限ニアラス

海員雇入期間中第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニハ申請書ニ船長連署スルコト
ヲ要ス

第九條 船員法第十二條又ハ第三十二條ニ依リ船員手帖ヲ返還セントスル
者ハ其事由ヲ疎明シ最寄管海官廳ニ海員手帖ヲ差出スヘシ

第九條ノ二 雇入期間中行衛不明トナリタル海員ノ雇止ヲ爲シタル者ハ其
雇止公認ヲ申請シタル管海官廳ニ該海員ノ船員手帖ヲ差出スヘシ若シ之ヲ
差出スコト能ハサルトキハ其事由ヲ疎明スヘシ

他人ノ海員手帖ヲ保管スルモノ該船員手帖受有者ノ所在不分明ニシテ之
ヲ本人ニ還付スル能ハサルトキハ最寄管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ

前二項ノ規定ニ依リ船員手帖ヲ受領シタル管海官廳ハ受領ノ日ヨリ一箇
年内ニ本人又ハ代理人ヨリ交付ノ請求ナキトキハ之ヲ廢棄スヘシ

第十條 船員手帖餘白ナキニ至リタルトキハ船員ハ現ニ受有スル船員手帖

ヲ最寄管海官廳ノ檢閲ニ供シ更ニ其交付ヲ申請スヘシ

第十一條 本章ニ掲クル申請ハ日本ニ於ケル管海官廳ニ之ヲ爲スヘキモノ
トス

第十二條 船員手帖ノ様式ハ第二號書式ニ依ル
第三章 船長

第十三條 船長ハ海員名簿、屬具目錄、航海日誌又ハ旅客名簿ヲ船中ニ備
ヘタルトキ遲滞ナク書式ニ從ヒ必要ナル事項ヲ之ニ記載スヘシ

前項ニ依リ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ遲滞ナク之ヲ
訂正スヘシ

第十四條 左ノ場合ニ於テ船長ハ事實ノ發生後遲滞ナク書式ニ從ヒ航海日
誌ニ事實ノ顛末、發生ノ年月日、時場所其他關係ノ事項ヲ記載スヘシ

一 豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

二 人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ

三 衝突其他ノ海難ニ罹リタルトキ

四 豫定セサル港ニ寄港シタルトキ

五 船舶ニ急迫ノ危険アリタル爲メ船長ニ於テ船舶ヲ去リタルトキ

六 船長ニ於テ海員ヲ懲戒シタルトキ

○船員法施行細則

- 七 船員法第四十一條乃至第四十四條ニ依リテ處分ヲ爲シタルトキ
- 八 船員法第四十五條ニ依リテ援助ヲ求メタルトキ
- 九 船中ニ於テ犯罪アリタルトキ
- 十 船中ニ於テ出生アリタルトキ
- 十一 船中ニ於テ死亡アリタルトキ及死亡者ノ遺産ヲ處分シタルトキ
- 十二 前各號ニ掲クル場合ノ外船中ニ於テ異常ノ事變發生シタルトキ
- 第十五條 船長ハ旅客乗船シタルトキハ其乗船後、下船シタルトキハ其下船後遲滞ナク旅客名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載スヘシ
- 第十六條 本章ニ掲クル書類ヲ記載スルニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタルトキハ欄外ニ其旨及字數ヲ記載シ船長之ニ認印シ訂正又ハ削除シタル文字ハ之ヲ讀ミ得ヘキ様抹消スヘシ
- 第十三條第二項ニ依リ書類ヲ訂正シタルトキハ前項ノ規定ニ從フ外其行端ニ訂正ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ船長之ニ認印スヘシ
- 第十七條 管海官廳ニ於テ船員法第十六條第一項ニ依リ航海日誌ノ檢閲ヲ爲シタルトキハ之ニ檢閲ヲ爲シタル旨及檢閲ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ船長ニ還付ス
- 第十八條 船員法第十七條第一項又ハ第二項ノ報告ハ書面ヲ以テ之ヲ爲ス

コトヲ要ス

前項ノ書面及船員法第十八條ノ報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印スルコトヲ要ス

- 一 船舶ノ番號、種類及名稱
- 二 船籍港
- 三 船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
- 四 船長ノ氏名、住所並ニ海技免狀ノ種類及機關ニ關スル事項ニ付テハ機關長ノ氏名、住所並ニ海技免狀ノ種類
- 五 船舶ノ發航港並ニ到達港及報告スヘキ事實ノ發生シタル場所並ニ年月日時
- 六 報告スヘキ事實ノ顛末
- 第十九條 報告書ノ認證ハ報告書ニ認證ヲ爲シタル旨及認證ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ爲ス
- 第二十條 海員船中ニ於テ死亡シタルトキハ船長ハ遲滞ナク重立チタル海員二名以上ノ立會ヲ以テ其遺産ヲ取調ヘ遺産目錄ヲ作ルヘシ
- 遺産目錄ニハ左ノ事項ヲ記載シ船長之ニ署名捺印シ遺産ノ取調ニ立會ヒタル海員之ニ連署スルコトヲ要ス

○船員法施行細則

- 一 死亡シタル海員ノ氏名、本籍地、住所及死亡ノ年月日時
- 二 遺産ノ品名及各品ノ數量、若シ金錢ナルトキハ其金額
- 三 遺産目録ヲ作りタル年月日

第二十一條 船長ハ戶籍法ノ規定ニ依リ死亡ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ戶籍吏、公使又ハ領事ニ送付スル場合ニ於テハ其港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ遺産目録ヲ差出スヘシ

船中ニ死亡者アリタルモ前項ニ掲クル謄本ノ送付ヲ要セサルトキハ船長ハ遺産目録ヲ作りタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキ場合又ハ航行中ノヲ作りタル場合ニ在リテハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ遺産目録ヲ差出スヘシ

第二十二條 前條ニ依リ遺産目録ヲ受ケタルトキハ管海官廳ハ其管海官廳又ハ其指定スル管海官廳ニ遺産ヲ差出スヘキコトヲ船長ニ命スルコトヲ得

第二十二條ノ二 船員法第二十三條第一項ニ依リ日本臣民ノ送還スヘキコトヲ命セラレタル船長カ公使、領事又ハ貿易事務官ノ指定シタル港ニ到着シタルトキハ其港ニ於ケル警察署ニ送還ノ事由ヲ疎明シ被送還人ヲ引渡スヘシ

前項ニ依リ被送還人ヲ引渡シタル船長カ被送還者ヨリ送還費用ノ償還ヲ得サルトキハ被送還者ノ氏名出生年月日、出生地、身分、本籍地、住所扶養義務者ノ氏名、住所及送還ノ事實ヲ記載シタル書面ヲ作り之ヲ被送還者ヲ引渡シタル警察署ニ提出シテ其證明ヲ申請スルコトヲ得

船長カ明治三十三年勅令第四百十五號ノ規定ニヨリ臺灣總督府、北海道又府縣ニ送還費用ノ請求ヲ爲ス場合ニハ請求書ニ前項ノ書類ヲ添付スヘシ

第二十三條 船長就職又ハ退職ノ認證ヲ申請セントスルトキハ就職ノ場合ニハ第九號書式退職ノ場合ニハ第十號書式ノ申請書ニ就職又ハ退職及其年月日ヲ證スル書面ヲ添ヘテ船員手帖ヲ最寄管海官廳ニ提出スヘシ

就職ノ認證ヲ申請セントスル場合ニハ船長ハ前項ノ規定ニ從フ外其海技免狀ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供スヘシ

第二十四條 第十九條ノ規定ハ前條ノ認證ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四章 海員

第二十五條 海員雇入ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ雇入港ノ管海官廳、其港ニ管

- 二 海員死亡シタルトキ
- 三 海員雇入契約ヲ解除シタルトキ
- 四 海員雇入契約カ終了シタルトキ
- 五 雇入期間中ニ船舶カ船員法ノ適用ヲ受クルコトヲ要セサルニ至リタルトキ

第三十四條 海員雇止ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ前條ニ掲クル事實ノ發生シタル港ノ管海官廳其港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中其事實發生シタルトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一 第四號書式ノ申請書

二 被雇者ニ關シ記載ヲ爲シタル航海日誌

第三十五條 第二十六條乃至第二十八條及第三十條ノ規定ハ海員雇止ノ公認ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條ノ二 管海官廳アラサル港ニ於テ雇止ラレタル海員ハ船長ニ對シ左ノ事項ヲ記載シタル證明書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

一 雇入年月日

二 職務

三 雇止年月日

四 雇止事由

五 雇止地

前項ノ請求ヲ受ケタル船長ハ證明書ヲ作り署名捺印シテ之ヲ請求者ニ交付シ其後第三十四條及第三十五條ニ依リ該海員ノ雇止公認ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其公認アリタル管海官廳ノ名稱及年月日ヲ該海員ニ通知スヘシ

第一項ニ掲クル海員カ前項ノ證明書及雇止公認ノ通知ヲ受ケタルトキハ船員手帖ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ前項ノ證明書及通知書ヲ添ヘ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ提出シテ雇止公認ノ認證ヲ申請スヘシ

第三十六條 被雇者總員又ハ船員法第二十七條第一項但書ノ場合ニ在リテハ出頭シタル當事者總員署名捺印シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ海員雇止ノ公認ヲ爲シタル年月日並當事者ノ一方出頭セスシテ公認ヲ爲シタルトキハ其事由ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第三十四條第二號ノ書類ト共ニ之ヲ雇者ニ還付ス

第三十七條 船員法第三十條第一項ニ依リ雇止ノ公認ヲ申請スル者ハ其申立ヲ確ムヘキ證憑アルトキハ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

○船員法施行細則

海官廳ナキトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一 第三號書式ノ申請書

二 被雇者海技免狀ヲ有スルトキハ其免狀

第二十六條 海員名簿及前條第一號ノ書面ニ被雇者ノ氏名及之ニ關スル事項ヲ記載スルニハ左ノ順序ニ從フヘシ

第一 甲板部海員

第二 機關部海員

第三 事務部海員

同一ノ部ニ屬スル海員間ニ在リテハ上長ヲ先ニスヘシ

第二十七條 當事者代理人ヲシテ海員雇入ノ公認ヲ受ケシメントスルトキハ其理由ヲ記載シ且其權限ヲ證スル書面ヲ代理人ニ交付シ代理人ハ之ヲ管海官廳ニ差出スヘシ

第二十八條 海員雇入ノ公認ヲ爲スニ當リ管海官廳ニ於テ海員名簿ニ記載シタル事項ヲ當事者ニ讀聞カスニハ被雇者ニ付テハ第二十六條ノ順序ニ依リ之ヲ爲ス

當事者ヲシテ署名捺印セシムルニハ被雇者ヲ先ニシ被雇者ヲ後ニス被雇者間ニ在リテハ第二十六條ノ順序ニ依ル

第二十九條 被雇者總員署名捺印シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ海員雇入ノ公認ヲ爲シタル年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第二十五條第二號ノ書類ト共ニ之ヲ雇者ニ還付ス

第三十條 船員法第二十九條ニ依リ雇入ノ公認ノ認證ヲ申請セントスルトキハ海員ハ海員手帖ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ公認ヲ爲シタル管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

第三十一條 船員法第三十五條ニ依リ公認ノ認證ヲ申請セントスルトキハ海員ハ書式ニ從ヒ船員手帖ニ現在ノ契約條項其他ノ事項ヲ記載シ最寄管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ船長ハ現在ノ契約條項ヲ記載シタル海員名簿ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

第三十二條 船員法第六條ニ依リ船員手帖ノ交付ヲ申請シタル者其雇入期間中船員手帖ノ交付アルタルトキハ遲滯ナク前條第一項ノ手續ヲ爲シ公認ノ認證ヲ申請スヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條 左ノ場合ニ於テハ海員雇止ノ公認ヲ申請スヘシ

一 海員ノ雇入期間滿了シタルトキ

- 二 海員死亡シタルトキ
- 三 海員雇入契約ヲ解除シタルトキ
- 四 海員雇入契約カ終了シタルトキ
- 五 雇入期間中ニ船舶カ船員法ノ適用ヲ受クルコトヲ要セサルニ至リタルトキ

第三十四條 海員雇止ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ前條ニ掲クル事實ノ發生シタル港ノ管海官廳其港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中其事實發生シタルトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一 第四號書式ノ申請書

二 被雇者ニ關シ記載ヲ爲シタル航海日誌

第三十五條 第二十六條乃至第二十八條及第三十條ノ規定ハ海員雇止ノ公認ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條ノ二 管海官廳アラサル港ニ於テ雇止ラレタル海員ハ船長ニ對シ左ノ事項ヲ記載シタル證明書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

- 一 雇入年月日
- 二 職 務

三 雇止年月日

四 雇止事由

五 雇止地

前項ノ請求ヲ受ケタル船長ハ證明書ヲ作り署名捺印シテ之ヲ請求者ニ交付シ其後第三十四條及第三十五條ニ依リ該海員ノ雇止公認ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク其公認アリタル管海官廳ノ名稱及年月日ヲ該海員ニ通知スヘシ

第一項ニ掲クル海員カ前項ノ證明書及雇止公認ノ通知ヲ受ケタルトキハ船員手帖ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ前項ノ證明書及通知書ヲ添ヘ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ提出シテ雇止公認ノ認證ヲ申請スヘシ

第三十六條 被雇者總員又ハ船員法第二十七條第一項但書ノ場合ニ在リテハ出頭シタル當事者總員署名捺印シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ海員雇止ノ公認ヲ爲シタル年月日並當事者ノ一方出頭セスシテ公認ヲ爲シタルトキハ其事由ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第三十四條第二號ノ書類ト共ニ之ヲ雇者ニ還付ス

第三十七條 船員法第三十條第一項ニ依リ雇止ノ公認ヲ申請スル者ハ其申立ヲ確ムヘキ證憑アルトキハ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

○船員法施行細則

第三十八條 管海官廳ニ於テ船員法第三十條第二項ニ依リ當事者雙方ヲ呼出シタルトキハ當事者ノ爭ニ關シ各申立ヲ爲サシムヘシ此場合ニ於テ申請者ノ相手方ハ其申立ヲ確ムヘキ證據アルトキハ之ヲ提出スルコトヲ得

第三十九條 管海官廳ニ於テ前條ノ手續ヲ爲シタル後申請ヲ理由アリトスルトキハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項、船員法第三十條ニ依リ海員雇止ノ公認ヲ爲シタルコト及公認ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ雇者ニ還付ス

第四十條 海員雇入契約更新ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ更新ヲ爲シタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中更新ヲ爲シタルトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

- 一 第五號書式ノ申請書
- 二 第二十五條第二號ノ書類
- 三 第三十四條第二號ノ書類

第四十一條 海員雇入契約變更ノ公認ヲ申請セントスルトキハ雇者ハ海員名簿ニ書式ニ定ムル事項ヲ記載シ左ノ書類ヲ添ヘテ變更ヲ爲シタル港ノ管海官廳其港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中變更ヲ爲シタルトキハ其後

最初ニ到著シタル港ノ港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一 第六號書式ノ申請書

二 契約ノ變更被雇者ノ職務ニ係ル場合ニ於テ被雇者海技免狀ヲ有スルトキハ其免狀

第四十二條 第二十六條乃至第二十九條ノ規則ハ海員雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十條第二號及第三號ノ書類又ハ前條第二號ノ書類ハ更新又ハ變更ノ公認アリタルトキ之ヲ雇者ニ還付ス

第四十二條ノ二 海員雇入契約ノ更新若ハ變更ノ公認ノ認證ヲ申請セントスルトキハ海員ハ船員手帖ノ相當欄ニ更新又ハ變更ノ年月日、場所及其要旨ヲ記載シ公認ヲ爲シタル管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

第四十三條 海員雇入雇止又ハ雇入契約ノ更新若ハ變更ノ公認ノ認證ヲ申請シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿又ハ船長ノ證明書ニ依リ船員手帖ノ記載事項ヲ調査シ正當ト認ムルトキハ船員手帖ニ公認ノ認證年月日及第三十一條、第三十二條又ハ第三十五條ノ二ノ場合ニ在リテハ公認ノ認證ノ事由ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シ雇止ノ場合ニハ之ヲ海員ニ還付シ其他ノ場合ニハ之ヲ雇者ニ交付ス

第四十三條ノ二 船員カ船員手帖ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ法令ニ特別ノ規定ナキ場合ニ於テモ管海官廳ニ申請シテ船員手帖ニ原手帖ニ記載アリタル事項ニ關スル認證ヲ受クルコトヲ得

前項ノ申請ヲ爲スニハ認證ヲ受クヘキ事項ヲ船員手帖ニ記載シテ提出シ公認アリタル海員名簿、船長ニ於テ證明シタル海員名簿ノ謄本、毀損シタル船員手帖又ハ相當官廳ノ證明書ヲ管海官廳ノ檢閲ニ供スヘシ

第一項ノ規定ニ依リ認證ノ申請ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ前項ノ書類ニ依リ新手帖ノ記載事項ヲ調査シ正當ト認ルトキハ前條ノ手續ニ依リ且認證ノ事由ヲ記載シテ認證ヲ爲ス

第四十四條 船員法第三十四條第一項ニ依リ公認ヲ申請セントスルトキハ左ノ書類ヲ添へ船員名簿ヲ作りタル港ノ管海官廳、其港ニ管海官廳ナキトキ又ハ航行中ノ作リタルトキハ其後最初ニ到着シタル港ノ管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ

一 第七號書式ノ申請書

二 第二十五條第二號ノ書類

三 被雇者ノ船員手帖現存スルトキハ其手帖

前項ノ海員名簿ニハ現ニ雇入期間中ニ係ル海員ニ付テ書式ニ定ムル事項

及原管海官廳ニ海員名簿ヲ提出スル場合ニ在リテハ被雇者總員ノ氏名其他ノ場合ニ在リテハ前項ニ依リ提出スル船員手帖ヲ受有スル被雇者ノ氏名ヲ之ニ記載スヘシ

第二十六條ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條 第二十七條及第二十八條ノ規定ハ被雇者全部又ハ一部ノ船員手帖滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ前條ノ海員名簿ヲ提出スルトキハ此限ニアラス

第四十六條 船員法第三十四條第一項ノ申請ニ依リ公認ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ海員名簿ニ同項ノ公認ヲ爲シタルコト及公認ノ年月日ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ第四十四條第二號及第三號ノ書類ト共ニ之ヲ船長ニ還付ス

第四十七條 第十六條第一項ノ規定ハ認印及欄外ノ記載ニ關スル規定ヲ除ク外第二十五條第三十條第三十一條第三十二條第三十四條第三十五條第四十條第四十一條又ハ第四十四條第二項ニ依リ海員名簿又ハ船員手帖ニ記載ヲ爲スニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタル場合ニ之ヲ準用ス此場合ニハ管海官廳ニ於テ公認又ハ公認ノ認證ヲ爲スニ當リ之ヲ認印スルニアラサレハ文字ノ訂正挿入又ハ削除ハ其効ヲ有セス

第四十七條ノ二 管海官廳ハ年月日及管海官廳ノ名稱ヲ刻シタル印ヲ以テ
第十七條、第十九條、第二十四條、第二十九條、第三十六條、第三十九
條、第四十二條第一項、第四十三條、第四十三條ノ二第三項、第四十六
條ノ年月日ノ記載及捺印ニ代フルコトヲ得

第四十八條 公認及公認ノ認證ハ管海官廳ニ於テ當事者ノ申請ニ依リ理由
アリト認ムルトキハ管海官廳外ノ場所ニ於テ之ヲ行フコトアルヘシ

第五章 手数料

第四十九條 手数料ノ額左ノ如シ

- 一 船員手帖ノ交付又ハ書換 一部ニ付 二十錢
- 二 船員手帖ノ訂正 船員法第三條第二項ノ事項一箇ニ付 五錢
- 三 報告書ノ認證 一通ニ付 一圓
- 四 船長就職又ハ退職ノ認證 一件ニ付 二十錢
- 五 公認 被雇者一人ニ付 十錢
- 六 公認ノ認證 被雇者一人ニ付 五錢
- 外國ニ於テ手数料ヲ納付スヘキトキハ其額ハ左ノ規定ニ依ル 一件ニ付 五錢
- 一 報告書ノ認證 一通ニ付 二圓

二 船長就職又ハ退職ノ認證 一件ニ付 四十錢

三 公認 被雇者一人ニ付 二十錢

但船員法第三十四條ノ場合ニ於テハ 被雇者一人ニ付 十錢

四 公認ノ認證 一件ニ付 十錢

前二項ノ手数料ハ第四條又ハ前條ノ場合ニ於テハ前二項ニ定ムル所ノ二倍トス

第五十條 前條第一項第一號ノ手数料ハ第八號書式ノ手数料納付書ニ其

金額ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納付スヘシ

前條第一項第二號乃至第六號ノ手数料ハ逓信大臣ノ告示スル場所ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ、其他ノ場所ニ於テハ現金ヲ以テ之ヲ納付スヘシ
前二項ニ依リ貼用シタル印紙ハ管海官廳ニ於テ消印ヲ爲スヘキモノトス
但申請者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ

第六章 罰則

第五十一條 第十三條第二項第二十條第一項第二十一條第二十二條ノ二第
一項第三十一條第二項又ハ第三十二條ニ違反シタル者第二十二條ノ命令
ニ違反シテ管海官廳ニ遺産ヲ差出ササル者又ハ第三十五條第二項ニ定メ
タル證明書ノ交付又ハ公認ノ通知ヲ爲ササル者ハ二圓以上二十圓以下ノ

附則

第五十二條 本則ハ船員法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十三條 從來ノ海員名簿ヲ提出シテ海員雇入ノ公認ヲ申請セントスル

トキハ雇者ハ被雇者(海員)氏名、浦役人檢印及事故摘要ノ欄ヲ除ク外其各欄ニ相當ノ事項ヲ記載スヘシ

第五十四條 前條ノ場合ニ於テハ雇者ハ明治年月日雇主ト記載シタル下、被雇者ハ被雇者(海員)氏名ノ欄ニ署名捺印スヘシ

第五十五條 從來ノ海員名簿ヲ提出シテ海員雇止ノ公認ヲ申請セントスルトキハ本則施行前ニ雇入ノ公認ヲ受ケタル者ナルト否トヲ問ハス雇止ノ事由、場所及年月日ヲ之ニ記載スヘシ

第五十六條 前條ノ規定ハ從來ノ海員名簿ヲ提出シテ海員雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ヲ申請セントスル場合ニ之ヲ準用ス

第五十七條 前二條ノ場合ニ於テ當事者ヲシテ署名捺印セシムルニハ各條ノ記載ヲ爲シタル次行ニ之ヲ爲サシムヘシ

第五十八條 海員ノ雇止雇入契約ノ更新又ハ變更ノ公認ニ關シ第三十六條第三十九條第四十二條又ハ第四十六條ニ依リ管海官廳ニ於テ爲スヘキ記

載及捺印ハ前條ノ署名捺印ヲ爲シタル次行ニ之ヲ爲ス

第五十九條 船員法施行ノ日ヨリ六個月間ニ海員雇止ノ公認ヲ爲シタルト

キハ管海官廳ハ左ノ事項ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シタル書面ヲ海員ニ交付スヘシ

一 船舶ノ名稱、番號、積量、船籍港及船舶所有者ノ氏名又ハ名稱

二 海員ノ氏名及本籍地

三 雇入ノ公認アリタル年月日、場所、海員ノ從事シタル職務及給料

四 雇止ノ公認アリタル年月日、場所及雇止ノ事由

第六十條 從來ノ海員名簿ニシテ二葉以上ノ用紙ヲ綴合セルモノニハ管海官廳ニ於テ公認ヲ爲ストキ其各葉ニ契印スヘシ

第六十一條 第四章中海員名簿ニ關スル規定ハ前八條ニ於テ特ニ明文ヲ掲クル場合ヲ除ク外從來ノ海員名簿ニ付テ之ヲ準用ス

第六十二條 最後ノ雇止ノ公認アリタルコトヲ證スル海員雇止證書又ハ第五十九條ノ書面ハ船員法施行後六個月間ニ雇入ノ公認ヲ受クル場合及該

期間滿了後初メテ雇入ノ公認ヲ受クル場合ニ雇者ヨリ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ

前項ニ依リ提出シタル海員雇止證書又ハ第五十九條ノ書面ニハ管海官廳

ニ於テ雇入ノ公證ヲ爲シタルトキ其裏面ニ公認ノ年月日及船舶ノ名稱ヲ記載シ管海官廳ノ印ヲ捺シテ之ヲ雇者ニ還付スヘシ

第二號 船員手帖書式略ス

第一號書式(用紙美濃判)

船員手帖交付申請書

船員手帖ノ番號	氏名印
本籍地	出生年月日
身分	船員手帖交付年月日

(備考) 氏名ニハ片假名ヲ以テ傍訓ヲ附スヘシ
 身分欄ニハ月主家族ノ別家族ナルトキハ月主ノ氏名及月主トノ關係ヲ記載スヘシ
 船員手帖ノ番號及同交付年月日欄ハ管海官廳ニ於テ記載スルモノナルニ付申請人ハ何等記載ヲ要セス

第三號書式(用紙美濃判)

年月日

雇者 (氏名印)

(管海官廳名)

御中

海員雇入公認申請書

番號	船種船名	航路又ハ航路定限	總噸數	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
第 號	船 丸			
雇入年月日	明治 年 月 日	雇入地		
被雇者氏名	船員手帖ノ番號	職務	給料	雇入期間
第 號				

計	名	第	號

(備考) 海員名簿ニ飲食物又ハ其代料ニ關スル記事及特別契約條項ヲ記載シタルトキハ其寫ヲ添
 附スヘシ
 船員手帖ノ番號ノ欄ニハ船員手帖ヲ交付シタル管海官廳ノ所在地ヲ其番號ニ冠付シ之ヲ記載ス
 ヘシ例ヘハ東京ノ管海官廳ニテ交付シタル第一號ノ船員手帖ニハ東京第一號ト記載スルカ如シ
 第四號乃至第七號書式ニ付テモ亦同シ
 雇者氏名ノ肩書ニハ船舶所有者又ハ船長ト記載シ若代理人ナルトキハ其職名又ハ職業名ヲ記載
 スヘシ例ヘハ船長何某代理人運轉士何某ト記載スルカ如シ第四號乃至第七號書式ニ付テモ亦同
 シ

第四號書式(用紙美濃判)

年月日

雇者 (氏名印)

(管海官廳名) 御中

海員雇止公認申請書

番	號	船種	船名	雇止年月日	雇止地
第	號	船	丸	明治	年月日
雇入公認ノ年	月日	官廳名	被雇者氏名	船員手帖ノ番號	職務
				第	號
				第	號
				第	號
計	名				

第五號書式(用紙美濃判)

年月日

雇者 (氏名印)

(管海官廳名) 御中

海員雇入契約更新公認申請書

○船員法施行細則

番 號	船種 船名	更新年月日		更新地	期間満了ノ日
		第 一 次	第 二 次		
第 一 號	船 丸	明治 年 月 日			
第 二 號	被 雇 者 氏 名	船員手帖ノ番號	職 務	更新契約ノ期間	
第 三 號					
計 名		第 一 號	第 二 號		

第六號書式(用紙美濃判)

年月日

(管海官廳名)

御中

海員雇入契約變更公認申請書

雇者

(氏名印)

番 號	船種 船名	變更年月日		變更地
		第 一 次	第 二 次	
第 一 號	船 丸	明治 年 月 日		
第 二 號	被 雇 者 氏 名	船員手帖ノ番號	職 務	更新契約ノ期間
第 三 號				
計 名		第 一 號	第 二 號	

第七號書式(用紙美濃判)

年月日

(管海官廳名)

御中

海員名簿滅失(毀損)ニ付公認申請書

雇者

(氏名印)

○船員法施行規則

番 號	船 種	船 名	航路又ハ航路定限	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
第 一 號	船 丸			
第 二 號				
第 三 號				
第 四 號				
第 五 號				
計 名				

第八號書式

(備考) 船員手帖滅失又ハ毀損シタル場合ニハ當該被雇者ノ氏名ノ上ニ〇ヲ附スヘシ

手数料納付書

私儀 申請候ニ付右手数料金 圓 錢ニ相當スル收入印紙貼用納附候也

印紙

明治 年 月 日

(氏名印)

(管海官廳名)

御中

(備考) 船員手帖ノ訂正ヲ申請スル場合ニハ訂正事項何箇、報告書ノ認證ヲ申請スル場合ニハ報告書何通、公認ヲ申請スル場合ニハ被雇者何人ト印紙ノ下ニ記載スヘシ

第九號書式(用紙美濃判)

年 月 日

船 丸船長

(氏名印)

(管海官廳名)

御中

船長就職認證申請書

番 號	積 量	船種船名	積 量
船 籍 港	船舶所有者ノ氏名又ハ名稱	船 種 船 名	積 量
	船員手帖ノ番 號		
	第 一 號		
	第 二 號		
	第 三 號		
	第 四 號		
	第 五 號		
	第 六 號		
	第 七 號		
	第 八 號		
	第 九 號		
	第 十 號		

○船員法施行細則

一 航路又ハ航路
定限

就職年月日 明治 年 月 日

二百三十六

第十號書式(用紙美濃判)

年月日

(管海官廳名)

御中

船 丸船長 (氏名印)

船長退職認證申請書

香 號	船種・船名	船籍港	航路又ハ航路 定限	船所有者ノ 氏名又ハ名稱	船員手帖ノ香 號	就職認證ノ年 月日、官廳名	退職年月日	明治 年 月 日

第十一號書式(用紙美濃判)

船員手帖再交付(書換)申請書

船員手帖 ノ香號	本籍地	身 分	船員手帖 交付ノ年月日	氏 名 印	出 生 日	原手帖交付管海官廳名、香號、滅失(毀損)ノ年月日、場所及事由

○船員法施行細則

二百三十七

(備考) 氏名ニハ片假名ヲ以テ傍訓ヲ附スヘシ
 身分欄ニハ戸主家族ノ別家族ナルトキハ戸主ノ氏名及戸主トノ續柄ヲ記載スヘシ
 原手帖番號不明ノ場合ニ於テハ原手帖番號不明ト記載スヘシ又船員手帖滅失ノ事由ハ可成詳細
 ニ記載スルヲ要ス
 船員法施行細則第八條第三項ノ場合ニ在リテハ船員手帖滅失(毀損)ノ事由ヲ記載シタル次行ニ
 當該船長ハ「右相違ナキコトヲ證明ス」ト記載シ署名捺印スヘシ
 船員手帖ノ番號及同交付年月日欄ハ管海官廳ニ於テ記載スルモノナルニ付申請人ハ何等記載ヲ
 要セス

船員證明規則

明治三十年公布 (省令)

第一條 船員手帖ヲ受有シタル者カ之ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ左ニ掲
 クル事項ノ證明ヲ遞信省ニ申請スルコトヲ得

- 一 海雇入ノ公認
- 二 海員雇止ノ公認
- 三 海員雇入契約更新ノ公認

四 海員雇入契約變更ノ公認
 五 船長就職ノ認證(明治三十八年八月一
 日以後ノ認證ニ限ル)
 六 船長退職ノ認證(右ニ同シ)

前項ノ申請ヲ爲スニハ船員手帖ヲ交付シタル管海官廳ノ名稱、船員手帖
 ノ番號及證明ヲ受ケントスル事項ヲ記載シタル書面ヲ差出スヘシ
 但記載スヘキ事項不明ナルトキハ其旨ヲ記載スヘシ

第二條 前條ノ證明ヲ申請スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 海員雇入ノ公認 每一件 拾錢
- 二 海員雇止ノ公認 每一件 拾錢
- 三 海員雇入契約更新ノ公認 每一件 拾錢
- 四 同 契約變更ノ公認 每一件 拾錢
- 五 船長就職ノ認證 每一件 四拾錢
- 六 船長退職ノ認證 每一件 四拾錢

手数料ハ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼用シ消印ヲ爲サスシテ
 之ヲ納付スヘシ但申請者ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ナシ

第三條 第一條ノ證明ヲ申請スル者ハ手数料ノ外郵送料ニ相當スル郵便切
 手ヲ納付シテ證明書ノ送付ヲ請求スルコトヲ得

◎海員懲戒法

明治二十九年公布

(法律)

第一章 總則

- 一 海技免狀ヲ受有スル者其ノ職務ヲ行フニ當リ左ノ事項ニ該當スルトキハ海員審判所ノ裁決ヲ以テ懲戒ヲ加フヘシ
 - 一 正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶ヲ放棄シタルトキ
 - 二 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ自他ノ船舶ヲ問ハス之ニ損害ヲ加ヘ若ハ之ヲ沈没セシメタルトキ
 - 三 過失懈怠又ハ不當ノ所爲ニ因リ人ヲ殺傷シタルトキ
 - 四 海難ニ罹リ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ
 - 五 海難ニ罹リタル船舶アルコトヲ認メ正當ノ理由ナクシテ其ノ船舶又ハ船客乗組員ヲ救助スルノ方法ヲ盡ササルトキ
 - 六 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
 - 七 亂醉粗暴其ノ他ノ失行アリタルトキ
- 第二條 懲戒ハ左ノ三種トス
- 一 免狀行使ノ禁止

第二章 免狀行使ノ停止

三 譴責

第三條 前條懲戒ノ適用ハ所爲ノ輕重ニ從ヒ海員審判所之ヲ定ム

第四條 免狀行使ノ停止ハ一月以上三年以下トス

第五條 海員審判所ハ左ノ原因アルトキハ審判ヲ行ハス

一 確定裁決

二 時効

第一條各號ニ該當スルモノハ廢業ノ故ヲ以テ懲戒ヲ免ルコトヲ得ス

第六條 時効ノ期間ハ審判ヲ受クヘキ事件ノ生シタル日ヨリ五年トス

第七條 海員審判所ノ審判ニ關シ此ノ法律ニ規程ナキモノニ付テハ刑事訴訟法ノ規程ヲ準用ス

第二章 海員審判所ノ組織及管轄

第八條 海員審判所ハ地方海員審判所及高等海員審判所ノ二トス

第九條 地方海員審判所ハ船舶司檢所ニ置キ高等海員審判所ハ遞信省ニ置ク

海員審判所ニハ審判長、審判官、理事官及書記ヲ置ク

審判所長、審判官、理事官及書記ノ定員並其ノ任用ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條 地方海員審判所ノ審判ハ審判長及審判官ヲ併セテ三人高等海員審判所ノ審判ハ審判長及審判官ヲ併セテ五人ノ列席合議ヲ以テ之ヲ行フ

第十一條 地方海員審判所ノ管轄區域ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 審判ニ付スヘキ事件ノ管轄權ハ其ノ事件ノ生シタル船舶ノ定繫場ヲ管轄スル地方海員審判所ニ屬ス

第十三條 地方海員審判所ノ理事官又ハ被審人ハ其ノ事件ヲ他ノ地方海員審判所ニ移付スルノ申請ヲ爲スコトヲ得

第十四條 高等海員審判所ハ左ノ場合ニ於テ理事官又ハ被審人ノ申請書ニ

依リ何レノ海員審判所ニ於テ本件ヲ審判スルノ權アルヤヲ決定ス

一 權限アル地方海員審判所ニ於テ法律上ノ理由若ハ特別ノ事情ニ因リ

二 二以上ノ地方海員審判權ヲ有シ又ハ有セストノ確定裁決ヲ爲シタルトキ

第三章 審判前ノ手續

第十五條 船舶司檢官、同司檢官補、警察官吏、市町村長及浦役人ニ於テ

第十六條 領事官及貿易事務官帝國外ニ於テ前條ノ事實アリタルコトヲ認

第十七條 理事官審判ニ付スヘキ事實アリタルコトヲ認知シタルトキハ證

第十八條 理事官ハ職權ヲ以テ審判ノ開始ヲ地方海員審判所ニ申立ツヘシ

第十九條 地方海員審判所ハ理事官ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ審判ヲ開

第四章 地方海員審判所ノ審判

地方海員審判所ハ理事官ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ審判ヲ開

地方海員審判所ハ理事官ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ審判ヲ開

開始スヘキヤ否ヤヲ決定ス但シ職權ヲ以テスル場合ニ於テハ理事官ノ意見ヲ聽クヘシ

開始決定ハ理事官及被審人ニ之ヲ通知スヘシ

第二十條 地方海員審判所ニ於テ下調ノ必要ナリト決定スルトキハ審判所長ハ審判官ニ其ノ下調ヲ命スヘシ

第二十一條 下調ノ命ヲ受ケタル審判官ハ被審人ヲ呼出シテ之ヲ訊問スルコトヲ得

受命審判官ハ必要ナル證憑ヲ集取スヘシ

受命審判官ハ證人鑑定人ヲ呼出シ又ハ通事ヲ命シ若ハ臨檢ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 被審人若ハ證人正當ノ理由ナクシテ受命審判官ノ呼出ニ應セサルトキハ受命審判官ハ引致狀ヲ發シテ之ヲ引致セシムルコトヲ得

引致狀ハ理事官ノ命令ニ因リ拘引狀執行ノ手續ヲ準用シテ之ヲ執行ス

第二十三條 被審人逃走シ又ハ逃走ノ虞アルトキハ受命審判官ハ免狀行使ノ假停止ヲ爲シ若ハ之ヲ差押フルコトヲ得

第二十四條 被審人又ハ證人疾病其ノ他正當ノ事故アリテ呼出ニ應スルコト能ハサルコトヲ疏明スルトキハ受命審判官ハ其ノ所在ニ就テ之ヲ訊問

シ若ハ他ノ地方海員審判所ニ其ノ訊問ヲ囑託スルコトヲ得

第二十五條 受命審判官下調ヲ終リタルトキハ調書及一切ノ證憑ヲ審判所長ニ差出シ審判所長ハ直ニ之ヲ理事官ニ送付スヘシ

理事官ハ三日以内ニ意見ヲ付シ其ノ書類ヲ審判所長ニ還付スヘシ

第二十六條 地方海員審判所ハ下調ヲ十分ナリト思料スルトキハ審判ヲ繼續スルヤ否ヤヲ決定スヘシ

審判ヲ繼續スヘシト決定スルトキハ審判期日ヲ定メ被審人ヲ呼出スヘシ

審判ヲ繼續セスト決定スルトキハ被審人ヲ放免スヘシ

第二十七條 審判ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ地方海員審判所ノ決定ニ依リ其ノ公開ヲ停止ス

第二十八條 第二十一條乃至第二十四條ハ地方海員審判所ノ審判ノ場合ニモ亦之ヲ適用ス

第二十九條 開廷中秩序ノ維持ハ審判長ニ屬ス審判長ハ審判ヲ妨クル者又ハ不當ノ言語ヲ發スル者ヲ退廷セシムルコトヲ得

第三十條 被審人及證人ノ訊問ハ審判長之ヲ爲ス

審判官及理事官ハ審判長ニ告ケ被審人及證人ヲ訊問スルコトヲ得

第三十一條 理事官ハ審判ニ立會ヒ其ノ意見ヲ述フルコトヲ得

第三十二條 被審人ハ補佐人ヲ用ウルコトヲ得但シ地方海員審判所ノ認許シタル者ニ限ル

第三十三條 地方海員審判所ハ呼出ヲ受ケタル被審人審判期日ニ出頭セサルトキハ闕席裁決ヲ爲スヘシ但シ被審人ノ疾病其ノ他ノ故障ニ依リ審判ヲ行フコト能ハサルトキハ決定ヲ以テ其ノ審判ヲ延期又ハ中止スルコトヲ得

第三十四條 刑事裁判手續中ハ被審人ニ對シ審判ヲ開始スルコトヲ得ス被審人刑事訴追ヲ受ケタルトキハ其ノ事件ノ判決ヲ終ルマテ審判ヲ中止スヘシ

第三十五條 理事官及被審人ハ本案ノ裁決アルマテ何時ニテモ管轄違又ハ審判ヲ行フヘカラサルノ申立ヲ爲スコトヲ得

地方海員審判所ハ職權ヲ以テ管轄違又ハ審判ヲ行フヘカラサルノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 地方海員審判所ニ於テ前條ノ申立ヲ却下シタルトキハ本案ノ裁決ヲ待タス直ニ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得

第三十七條 裁決ニハ其ノ理由及證據ヲ明示スヘシ
第三十八條 裁決及裁決始末書ノ原本ハ審判ヲ爲シタル地方海員審判所之

ヲ保存スヘシ

第五章 高等海員審判所ノ審判

第三十九條 理事官及被審人ハ地方海員審判所ノ裁決ニ對シ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得

第四十條 控告ノ期間ハ裁決言渡アリタル日ヨリ七日トス
闕席裁決ニ對スル控告ノ期間ハ被審人自ラ裁決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ十四日トス

第四十一條 控告ヲ爲スニハ其ノ申立書ヲ原地方海員審判所ニ差出スヘシ
原地方海員審判所ハ直ニ該申立書及一件書類ヲ高等海員審判所ニ送付スヘシ

第四十二條 高等海員審判所ノ審判ニ付テハ地方海員審判所ノ審判ニ關スル規程ヲ適用ス

第四十三條 高等海員審判所ハ控告ヲ理由アリトスルトキハ原裁決ヲ取消シ更ニ裁決ヲ爲スヘシ
控告ヲ理由ナシトスルトキハ裁決ヲ以テ之ヲ棄却スヘシ

第六章 執行處分

第四十四條 懲戒ハ裁決確定ノ後之ヲ執行ス

○船員懲戒法

第四十五條 免狀行使ノ禁止ヲ言渡シタルトキハ其ノ審判ヲ爲シタル海員審判所ニ於テ免狀ヲ取上ケ遞信省ニ送付スヘシ
免狀行使ノ停止ヲ言渡シタルトキハ其ノ審判ヲ爲シタル海員審判所ニ於テ免狀ヲ取上ケ期限滿了ノ後之ヲ本人ニ還付スヘシ
免狀行使ノ禁止若ハ停止ヲ言渡サレタル者海員審判所ニ免狀ヲ差出ササルトキハ海員審判所ハ其ノ免狀ヲ無効ト爲シ官報ニ告示スヘシ

第七章 罰則

第四十六條 海員審判所又ハ受命審判官ヨリ證人トシテ呼出サレタル者及鑑定又ハ通事ノ爲呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス若ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ二圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十七條 證人トシテ海員審判所ニ呼出サレタル者偽證ヲ爲シタルトキ及鑑定又ハ通事ノ爲海員審判所ニ呼出サレタル者詐偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ偽證又ハ詐偽ノ鑑定通事ヲ爲サシメタル者亦同シ
前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ裁決言渡ニ至ラサル前ニ自首シタル

トキハ本刑ヲ免ス

附則

第四十八條 此ノ法律ハ明治三十年七月一日ヨリ施行ス

第四十九條 海員審判所ノ事務章程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 此ノ法律施行ノ際西洋形船舶長運轉手機關手免狀規則第十條ニ依リ審問中ノ事件ハ此ノ法律ニ依リ管轄權ヲ有スル地方海員審判所ノ管轄トス其ノ既ニ審問ノ判定ヲ受ケタルモノハ第五章ノ規程ニ依リ高等海員審判所ニ控告スルコトヲ得

船舶職員法

明治二十九年公布
明治三十八年改正 (法律)

第一條 日本船舶ニハ命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外此法律ノ規定ニ依リ船舶職員ヲ乗組マシムヘシ但船舶検査法第一條各號ニ掲クル船舶ハ此限リニ在ラス
船舶職員ト稱スルハ船長、一等運轉士、二等運轉士、機關長及一等機關士ヲ謂フ

第二條 海技免狀ヲ有スル者ニ在ラサレハ船舶職員タルコトヲ得ス
第三條 海技免狀ハ左ノ十二種トス

- 甲種船長
- 甲種一等運轉士
- 甲種二等運轉士
- 乙種船長
- 乙種一等運轉士
- 乙種二等運轉士
- 丙種船長
- 丙種運轉士
- 機關長

- 一等機關士
- 二等機關士
- 三等機關士

遞信大臣ハ海技免狀ノ効力ニ制限ヲ加ヘタルモノヲ授與スルコトヲ得
第四條 各船舶ニ乗組マシムヘキ船舶職員ノ定員及其ノ免狀ノ種類ハ第一號表ニ依ル

第一號表ニ定ムル免狀ハ命令ノ定ムル所ニ依リ他ノ種類ノ免狀ヲ以テ代用スルコトヲ得

第五條 海技免狀ハ遞信大臣ノ定ムル試験規程ニ依リ試験ヲ受ケ合格シ且海技免狀原簿ニ登録ヲ受ケタル者ニ授與ス
海軍艦船艇ニ乗組ミ運航若ハ機關運轉ニ從事シ又ハ商船學校全科卒業證書ヲ有シ遞信大臣ニ於テ試験規程ニ合格スト認ムル者ニハ試験ヲ用非スシテ相當ノ免狀ヲ授與スルコトヲ得

第六條 左ニ記載スル事項ニ該當スル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ス又船舶職員タルコトヲ得ス
一 公權ヲ剝奪セラレ復權セサル者及公權停止中ノ者
二 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者及身代限ノ處分ヲ受ケ

債務ノ辨償ヲ終ヘサル者
 三 瘋癲白痴者若ハ身體不具ニシテ執職ニ不適當ナル者
 四 海技免狀ノ行使ヲ禁止セラレタル者及其ノ行使停止中ノ者
 第七條 左ニ掲クル船舶ニ付テハ命令ヲ以テ其ノ職員ニ關シ別段ノ規程ヲ設クルコトヲ得

一 外國各港間ノミヲ航行スル船舶
 二 漁獵其他特殊ノ目的ニ專用スル船舶
 三 特殊ノ構造ヲ有スル船舶

第八條 此ノ法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ相當スル船舶職員ヲ乘組マシメサルトキハ船舶所有者、船舶共有ノ場合ニ於テハ船舶管理人、船舶賃貸借ノ場合ニ於テハ賃借人ヲ五百圓以下ノ罰金ニ處ス此ノ法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シテ船舶職員トナリタル者、海技免狀行使ノ假停止若ハ差押中其職務ヲ執リタルモノ又ハ海技免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者ノ罰亦前項ニ同シ
 第九條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用キス
 前條第一項ノ罰則ハ船舶所有者、船舶管理人又ハ賃借人カ法人ナルトキハ其ノ代表者、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ

適用ス但シ船舶ノ管理ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限リニアラス
 第九條ノ二 此法律又ハ此ノ法律ニ基キテ發スル命令ノ規定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ船舶検査法第十七條ニ掲クル外國船舶ニ準用スルコトヲ得

附 則

此法律施行前海員名簿ニ登録セラレタル者ハ海技免狀原簿ニ登録セラレタル者ト看做ス
 此ノ法律施行ノ際現在スル日本船舶ニハ命令ニ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外明治三十八年十二月三十一日迄從前ノ規定ニ依リテ船舶職員ヲ乘組マシムルコトヲ得

第壹號表

航路	船舶種類	總噸數	職員名稱	免狀種類	定員
遠	汽	五百噸未滿	船長 船運長 船轉長 船士	甲種 甲種 甲種 甲種	長 長 長 士
			船長 船運長 船轉長 船士	甲種 甲種 甲種 甲種	長 長 長 士

○船舶職員法

○船舶職員法

一石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニハ其ノ石數十石ヲ以テ總噸數一噸ノ割合ニ換算シ本表ヲ適用ス	路航水平		路 航 海 沿				路	
	船 汽		船 帆		船 汽		船	
	二百噸以上	二百噸未滿	二百噸以上	二百噸未滿	五百噸以上	五百噸未滿	二百噸未滿	五百噸未滿
	機船	機船	一船	船	壹機壹船	機壹船	機船	機船
關	關	等運轉	等運轉	等運轉	等運轉	等運轉	等運轉	
長	長	士長	長	士長	士長	長	長	
二種	乙種	丙種	丙種	貳種	乙種	乙種	甲種	
等	等	種運轉	種運轉	種運轉	種運轉	種運轉	種運轉	
士	士	士	士	士	士	士	士	

航 海 近			路 航 洋			
帆	船 汽		船 帆		船	
二百噸未滿	千噸以上	千噸未滿	貳百噸未滿	五百噸以上	五百噸未滿	貳百噸未滿
船	壹機貳壹船	壹機壹船	機壹船	貳壹船	壹船	壹船
等	等	等	等	等	等	等
機關運轉	機關運轉	機關運轉	機關運轉	機關運轉	機關運轉	機關運轉
長	士長	士長	士長	士長	士長	士長
丙種	壹機甲甲	貳壹乙乙	貳乙乙	甲甲甲	甲甲甲	壹機甲甲
運轉	種運轉	種運轉	種運轉	種運轉	種運轉	種運轉
士	士長	士長	士長	士長	士長	士長

船舶職員法施行細則

明治三十八年公布
大正元年十二月迄數度改正

(省令)

第一章 總則

第一條 船舶職員法第一號表ニ掲クル航路ノ區域ハ本則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外船舶検査法施行細則第四十九條乃至第五十二條ノ規定ニ依リ船舶ノ種別ハ船舶法施行細則第一條及第二條ノ規定ニ依ル

本則ニ於テ船舶所有者ト稱スルハ船舶管理人又ハ船舶賃借人ヲ包含ス

第二章 船舶職員

第二條 總噸數五百噸未滿ノ漁船ニ限リ日本ニ在テハ管海官廳外國ニ在テ

ハ日本ノ領事官若ハ貿易事務官ノ認可ヲ受ケ別表ニヨリ其職員ヲ乗組マシムルコトヲ得但本船乗組員以外ノ人員ヲ搭載シ又ハ本船ノ業務ニ必要ナル用具、食糧、漁獲物及其他化製品以外ノ貨物ヲ搭載スルトキハ此限

リニ在ラスニ
前項ノ認可ヲ受ケントスルトキハ船舶所有者ヨリ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル申請書ヲ當該官廳ニ差出スヘシ

- 一 船舶ノ種類、名稱及積量(總噸數)
- 二 業務ノ種類
- 三 航行スヘキ區域

四 漁獲免許證書 漁船検査證書 其他本船ノ業務ニ關スル證明書ヲ有スルトキハ其寫

本則ニ於テ漁船ト稱スルハ船舶検査法施行細則第二十六條第六項ノ船舶ヲ謂フ

第三條 補助機關ヲ備フル帆船ハ船舶職員法第一號表帆船ノ規定ニヨリ相當職員ヲ乗組マシムルノ外該船舶總噸數ノ二分ノ一ニ相當スル汽船ニ準シテ機關部職員ヲ乗組マシムヘシ

但シ近海航路ヲ航行スル總噸數百噸未滿ノモノニ限リ管海官廳ノ認可ヲ受ケ三等機關士免狀ヲ受有スル者ヲ機關長トシテ乗組マシムルコトヲ得

第四條 外國各港間ノミチヲ航行スル船舶ニシテ其航路近海航路、沿海航路又ハ平水航路ニ該當スルトキハ遞信大臣ノ指定ヲ受ケ其航船ノ種別ニ從ヒ船舶職員ヲ乗組マシムルコトヲ得

外國ノ湖川港内ハ平水航路トス
第五條 第二條及第三條ニ掲クルモノノ外船舶職員法第七條第二號及第三號ニ該當スル船舶ニ於テハ遞信大臣ノ認可ヲ受ケ同法第一號表ニ掲クル職員ヲ減シ又ハ他ノ海技免狀ヲ受有スル者ヲ以テ船舶職員ニ充ツルコトヲ得

第六條 前二條ニ依リ遞信大臣ノ指定又ハ認可ヲ受ケントスルトキハ船舶

所有者ヨリ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル申請書ヲ遞信大臣ニ差出シ指定書又ハ認可書ノ交付ヲ受クヘシ

一 船舶ノ種類、名稱、積量(總噸數)及速力

二 特殊ノ船舶ナルトキハ其構造

三 航行ノ目的(航行期間アルトキハ其期間ヲ合セ)

四 航行スヘキ區域及里程

五 乗組マシメントスル船舶職員ノ名稱及海技免狀ノ種類(第四條ニ依

ル指定申請ノ場合ニハ之ヲ要セス)

六 申請ノ事由

第七條 左ノ場合ニ於テハ船舶職員法第四條又ハ本則ニ定ムル船舶職員ノ

全部又ハ一部ヲ乗組マシメサルコトヲ得

一 外國ニ於テ所有權ヲ取得シタル船舶ヲ到達港マテ回航スルトキ

二 外國各港間ノミチ航行スル船舶ニ於テ船舶職員ニ欠員ヲ生シ補充ノ手續中ナルトキ

三 船舶検査法施行細則第三十二條又ハ第三十四條ニ依リ船舶ヲ回航セ

ントスルニ當リ旅客及貨物ヲ搭載セサルトキハ管海官廳ノ認可ヲ受

ケ近海航路以下ノ航路ニ限り沿海航路又ハ平水航路ニ相當スル船舶

職員ヲ乗組マシムルコトヲ得

四 平水航路又ハ沿海航路ニ該當スル外國各港間ノミチ航行スル船舶ニ

シテ當該外國政府ノ法規ニ依リ相當免狀ヲ受有スル者ヲ乗組マシメタルトキ

五 航行中船舶職員ニ欠員ヲ生シタルトキ

六 他船ニ引カレテ航行スルトキ

七 入渠、修繕又ハ其ノ他ノ事由ニヨリ船舶ヲ航行ノ用ニ供セサルトキ

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ船舶所有者又ハ船長ヨリ海技免狀

受有者ヲ雇入レ難キ事由ヲ具シ日本ノ領事官若クハ貿易事務官ノ認可ヲ

受ケテ相當ノ技能ヲ有スル者ヲ乗組マシメ又第七號ノ場合ニ於テハ日本

ニ在テハ管海官廳、外國ニ在テハ領事官若ハ貿易事務官ノ認可ヲ受クル

コトヲ要ス

船舶検査法施行細則第三十四條ニ依リ航路定限ヲ超エテ回航スル船舶旅
客及貨物ヲ搭載セサルトキハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ該船舶ノ航路定限ニ
相當スル船舶職員ヲ乗組マシムルコトヲ得

第三章 海技免狀

第八條 船舶職員法第三條第二項ニ依リ効力ニ制限ヲ加ヘ授與スル海技免

狀ハ左ノ如シ

一 甲種船 長 免 狀 汽船又ハ帆船ニ限り船舶職員ト爲スコトヲ得

- 二 甲種一等運轉士免狀
汽船又ハ帆船ニ限リ船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
 - 三 甲種二等運轉士免狀
汽船又ハ帆船ニ限リ船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
 - 四 乙種一等運轉士免狀
湖川港内ノミヲ航行スル汽船ニ限リ船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
 - 五 乙種二等運轉士免狀
湖川港内ノミヲ航行スル汽船ニ限リ船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
 - 六 三等機關士免狀
湖川港内ノミヲ航行スル汽船又ハ發動機船ニ限リ船舶職員ト爲ルコトヲ得ルモノ
- 前項ノ外各種運轉士免狀ハ効力ヲ漁船漁業汽船、又ハ漁業帆船ニ限リタルモノヲ授與スルコトアルヘシ
- 第九條 高等ノ免狀ハ下等ノ免狀ニ代用スルコトヲ得
- 甲種船長免狀ハ他ノ船長免狀及運轉士免狀ニ對シ、甲種一等運轉士免狀ハ他ノ運轉士免狀ニ對シ、甲種二等運轉士免狀ハ各乙種運轉士免狀及丙種運轉士免狀ニ對シ、乙種船長免狀ハ各乙種運轉士免狀ニ對シ、乙種一等運轉士免狀ハ乙種二等運轉士免狀ニ對シ、丙種船長免狀ハ丙種運轉士免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス
- 機關長免狀ハ各機關士免狀ニ對シ、一等機關士免狀ハ二等機關士免狀及二等機關士免狀ニ對シ、二等機關士免狀ハ三等機關士免狀ニ對シ各高等ノ免狀トス
- 同種免狀ニシテ効力ニ制限ヲ加ヘサルモノハ効力ニ制限ヲ加ヘタルモノニ對シ、効力ヲ汽船ニ限リタルモノハ効力ヲ漁業汽船ニ限リタルモノニ對シ、効力ヲ帆船ニ限リタルモノハ効力ヲ漁業帆船ニ限リタルモノニ對シ各高等ノ免狀トス

- 第十條 近海航路ヲ航行スル汽船ニ於テハ乙種船長免狀ヲ以テ各甲種運轉士免狀ニ、乙種一等運轉士免狀ヲ以テ甲種二等運轉士免狀ニ代用スルコトヲ得
- 近海航路ヲ航行スル帆船ニ於テハ丙種船長免狀ヲ以テ各甲種運轉士免狀ニ代用スルコトヲ得

第四章 登錄

第十一條 船舶職員法第五條第一項ニ依リ海技免狀ヲ受ケントスル者ハ船舶職員試験ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シ第一號書式ノ書面ヲ遞信省ニ送

出シテ登録シ申請スヘシ

第十二條 船舶職員法第五條第二項ニヨリ海技免狀ヲ受ケントスル者ハ船舶職員試験ヲ執行スル管海官廳ニ左ノ書類ヲ差出シ體格検査ヲ申請スヘシ

- 一 第二號書式ノ申請書
 - 二 戶籍ノ謄本若ハ抄本及船舶職員法第六條第一號及第二號ニ該當セサルコトノ證明書
 - 三 海軍艦船艇ニ乗組ミ運航若ハ機關運轉ニ從事シタル者ハ海上勤務ノ履歷書、最後任官ノ辭令書ノ寫
 - 四 商船學校全科卒業生ハ卒業證書ノ寫
 - 五 海技免狀ヲ受有スル者ハ該免狀ノ寫及該免狀受有後ノ乗船履歷書
- 前項第三號ノ履歷書ニ付テハ相當證明書、辭令書ノ寫又ハ卒業證書ノ寫ニ付テハ各原本、第五號ノ乗船履歷書ニ付テハ船舶職員試験規程第十三條ニ依ル證明書ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供スヘシ
- 體格検査ヲ受ケ合格シタル者ハ之ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シ第一號書式ノ書面ヲ遞信省ニ差出シテ登録ヲ申請スヘシ
- 第十三條 船舶職員法第五條第二項ニ依リ海技免狀ヲ受ケントスル者管海

官廳ニ於テ體格検査ヲ受クルコト能ハサルトキハ該官廳ノ定ムル體格検査例規ニ依リ相當醫師ノ検査ヲ受ケ其成績書ヲ添へ該官廳ニ於テ検査ヲ受クルコト能ハサル事由ヲ疎明シテ前條ノ體格検査ノ執行ニ代フルコトヲ申請スルコトヲ得

管海官廳ハ前項ノ申請ヲ正當ト認ムルトキハ體格検査成績書ニ依リ申請人ノ體格ヲ審査シ適當ト認ムルトキハ體格検査ニ合格シタルモノト看做スコトヲ得

第十四條 遞信省ニ於テ第十一條又ハ第十二條第三項ノ申請ヲ正當ト認ルトキハ左ノ事項ヲ海技免狀原簿ニ登録シ第三號書式ノ海技免狀ヲ申請人ニ授興ス

- 一 海技免狀ノ種類
 - 二 氏名
 - 三 本籍地及族稱(外國人ナルトキハ國籍)
 - 四 出生ノ年月日
 - 五 船舶職員試験又ハ體格検査ヲ行ヒタル管海官廳ノ名稱
 - 六 合格ノ年月日
- 第十五條 海技免狀ヲ受有スル者第十一條若ハ第十二條第三項ノ申請ヲ爲

シタル場合ニ於テ現ニ審判開始ノ決定ヲ受ケタル者ナルトキハ前條ノ手續ハ審判不繼續ノ決定又ハ確定裁決ヲ受クルマテ之ヲ停止ス
前項ノ確定裁決ニヨリ免狀行使ヲ停止セラレタルトキハ尙其執行處分ヲ終ルマテ登録ヲ停止シ又免狀行使ヲ禁止セラレタルトキハ登録ノ申請ハ之ヲ却下ス

第十六條 第十四條第二號又ハ第三號ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキハ當該免狀ヲ受有スル者ハ其實事アリタル日又ハ其實事ヲ知リタル日ヨリ三十日以内ニ第四號書式ノ書面ヲ遞信省ニ差出シテ變更ノ登録ヲ申請スヘシ
變更ノ登録ヲ申請スル者ハ登録事項ノ變更ニ關スル戸籍ノ謄本若ハ抄本外國ニ在テハ本國領事ノ證明書ヲ申請書ニ添付スヘシ

第十七條 遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ナリト認ルトキハ變更ノ登録ヲ爲シ必要ノ場合ニハ海技免狀ヲ書換之ヲ申請人ニ交付ス
申請人前項ノ免狀ヲ受クルトキハ之ト引換ニ舊免狀ヲ遞信省ニ返還スヘシ

第十八條 海技免狀ヲ受有スル者左ノ各號ニ該當スルトキハ其實事アリタル日又ハ其實事ヲ知リタル日ヨリ十日以内ニ其事由ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ抹消ノ登録ヲ申請スヘシ

- 一 公權ヲ剝奪セラレタルトキ
 - 二 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ
 - 三 船舶職員法第六條第三號ノ事項ニ該當シタルトキ
 - 四 免狀行使ノ禁止ヲ言渡サレ其裁決確定シタルトキ
 - 五 船舶職員試驗規程ノ規定ニ依リ合格無効トナリタルトキ
 - 六 廢業シタルトキ
- 海技免狀ヲ受有スル者失踪ノ宣告ヲ受ケ又ハ死亡シタルトキハ相續人又ハ現ニ該免狀ヲ保管スル者ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ
抹消ノ登録ヲ申請スル者ハ海技免狀ヲ申請書ニ添付シテ之ヲ遞信省ニ返還スヘシ若シ之ヲ返還スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ届出ツヘシ
- 第十九條 遞信省ハ左ノ場合ニ於テ抹消ノ登録ヲ爲ス
- 一 前項ノ申請ヲ受ケタルトキ
 - 二 抹消ノ登録ヲ申請スヘキ場合ニ於テ規定ノ期間ニ之ヲ爲ササルトキ
 - 二 詐僞ノ所爲ヲ以テ海技免狀ヲ受ケタルコト發覺シタルトキ
 - 四 海員審判所ニ於テ海技免狀ヲ無効トナシタルトキ
- 遞信省ハ前項第二號又ハ第三號ニ依リ抹消ノ登録ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ當該免狀ヲ受有スル者又ハ之ヲ保管スル者ニ通知ス

前項ノ通知ヲ受ケタルモノハ遲滯ナク該免狀ヲ遞信省ニ返還スヘシ

第二十條 海技免狀ヲ受有スル者高等免狀ニ對スル登録ヲ受ケタルトキハ
 下等免狀ニ對スル登録ハ遞信省ニ於テ之ヲ抹消ス但該高等免狀ノ効力ニ
 制限ヲ加ヘタルモノナルトキハ此限ニ在ラズ

効力ニ制限ヲ加ヘタル免狀ヲ受有スル者効力ニ制限ヲ加ヘサル同種ノ免
 狀ニ對スル登録ヲ受ケタルトキハ効力ニ制限ヲ加ヘタル免狀ニ對スル登
 録ハ遞信省ニ於テ之ヲ抹消ス

効力ニ制限ヲ加ヘタル免狀ヲ受有スル者其制限ヲ變更シタル同種ノ免狀
 ニ對スル登録ヲ受ケタルトキ亦前項ニ同シ

前三項ニ依リ抹消ノ登録ヲ爲サシメタルトキハ當該免狀ハ新ニ授與スル
 免狀ト引換ニ之ヲ遞信省ニ返還スヘシ

第二十一條 海技免狀ヲ受有スル者登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シ
 タルトキハ遲滯ナク第四號書式ノ書面ヲ遞信省ニ差出シテ登録ノ訂正ヲ
 申請スヘシ

登録ノ錯誤又ハ遺漏第十四條第二號乃至第四號ノ事項ニ係ルキハ前項ノ
 書面ニ戸籍ノ謄本若ハ抄本外國人ニ在テハ本國領事ノ證明書ヲ添付スヘ
 シ

遞信省ニ於テ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ訂正
 シ其旨ヲ當該免狀受有者ニ通知ス

第二十二條 前條第一項及第三項ノ規定ハ海技免狀ノ記載ニ錯誤又ハ遺漏
 アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 遞信省ニ於テ前二項ノ申請ヲ正當ト認ルトキハ登録ヲ訂正シ
 又ハ海技免狀ヲ書換ヘ之ヲ申請人ニ交付ス

第十七條第二項ノ規定ハ前條ノ免狀ヲ受クル場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條 海技免狀滅失又ハ毀損シタルトキハ當該免狀受有者ハ其事實
 アリタル日又ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日以内ニ第五號書式ノ書面ヲ
 遞信省ニ差出シテ再交付ヲ申請スヘシ

第二十五條 遞信省ニ於テ前條ノ申請ヲ正當ト認ルトキハ更ニ海技免狀ヲ
 申請人ニ交付ス

第十七條第二項ノ規定ハ海技免狀ノ毀損ニ依リ前項ノ免狀ヲ受クル場合
 ニ之ヲ準用ス

第二十六條 行政區劃ノ變更アリタルキハ海技免狀ヲ受有スル者ハ其事由
 ヲ記載シタル書面ヲ遞信省ニ差出シテ海技免狀ノ書換ヲ申請スルコトヲ
 得

第十六條第二項ノ規定及第十七條ノ規定ハ變更ノ登録ニ關スル規定ヲ除クノ外前項ノ申請アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第五章 手数料

第二十七條 本則ニ依リ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納付スヘシ

- 一 第十二條第一項ニ依リ體格検査ヲ申請スルトキ 貳拾錢
 - 二 第二十二條ニ依リ海技免狀ノ訂正ヲ申請スル場合ニ於テ記載事項ノ錯誤又ハ遺漏免狀受有者ノ過失ニ出テタルトキ 壹圓
 - 三 海技免狀ノ再交付ヲ申請スルトキ 壹圓
 - 四 前條第一項ニ依リ海技免狀ノ書換ヘテ申請スルトキ 壹圓
- 前項第二號乃至第四號ノ申請ヲ二件以上同時ニ爲ストキハ該申請ノ内一件ニ對スル手数料ヲ納付スルヲ以テ足ル
- 第十六條ニ依リ變更ノ登録ノ申請ヲ爲シ海技免狀ノ書換交付ヲ受クル場合ニ於テ同時ニ第一項第二號乃至第四號ノ申請ヲ爲ストキハ手数料ヲ納付スルコトヲ要セス
- 第二十八條 第十一條第十二條第一項第三項第十六條第一項第二十二條第二十四條又ハ第二十六條第一項ノ申請ヲ爲ス者ハ登録税又ハ手数料ニ相

當スル收入印紙ヲ貼用シタル納付書ヲ申請書ニ添付スヘシ
前項ニ依リ貼用シタル印紙ハ當該官廳ニ於テ消印スヘキモノトス但申請人ニ於テ自己ノ便宜上消印ナスハ妨ナシ

第六章 雜則

第二十九條 海技免狀ヲ受有スル者公權ヲ行フコトヲ停止セラレタルトキハ其裁判確定後遲滯ナク本人又ハ該免狀ヲ保管スル者ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添へ海技免狀ヲ遞信省ニ差出スヘシ

- 一 公權停止ノ理由
- 二 公權停止ノ期間
- 三 裁判ヲ言渡シタル裁判所ノ名稱

前項ニ依リ提出シタル海技免狀ハ公權停止ノ期間遞信省之ヲ保管シ期間滿了ノ後之ヲ還付ス

第三十條 第十六條第一項第十八條第十九條第二十條第二十一條第一項第二十二條第二十四條第二十六條第一項又ハ第二十九條第一項ニヨリ申請書又ハ海技免狀ヲ遞信省ニ差出スニハ最寄管海官廳ヲ經由スルヲ得

第三十一條 海技免狀ハ本則ノ規定ニヨリ之ヲ返還シタル場合ニハ返還ノトキヨリ、之ヲ返還セサル場合ニハ返還ノ事由發生ノトキヨリ、第十八條

第一項各號及第十九條第一項第二號第三號第四號ノ場合ニハ各號ノ事實發生シタルトキヨリ、滅失シタル場合ニハ滅失ノトキヨリ其効力ヲ失フ
 第三十二條 海技免狀ヲ受有スル者ハ當該官吏又ハ公吏ノ要求アルトキハ之ヲ其檢閲ニ供スヘシ

第七章 罰則

第三十三條 第十六條第十八條第二十一條第一項第二項第二十二條第二十四條第二十九條第一項第三十二條ニ違背シタル者又ハ本則ノ規定ニ依リ海技免狀ヲ返還スヘキ場合ニ之ヲ怠リタル者ハ貳圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第三十四條 本則ハ明治三十八年法律第六十九號施行ノ日ヨリ施行ス
 第三十五條 明治三十二年十月遞信省令第四十七號海技免狀取扱規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十六條 本則施行前ニ第十六條第十八條又ハ第二十四條ニ該當シ未タ其手續ヲ爲ササル者ハ本則施行ノ日ヨリ起算シ各條ニ記載スル期間ニ本則ヲ定ムル手續ヲ爲スヘシ本則施行前ニ第二十一條第一項第二項第二十條又ハ第二十九條第一項ニ該當スル者亦同シ

第七章ノ罰則ハ前項ニ違背シタル者ニモ亦之ヲ適用ス
 第三十七條 外國ノ湖川港内ノミヲ航行スル船舶ニハ當分ノ内日本ノ領事

官若ハ貿易事務官ノ認可ヲ受ケ相當ノ技能ヲ有スル者ヲ以テ船舶職員ニ充ツルコトヲ得
 第三十七條ノ二 第四條、第七條及第三十七條ノ規定ハ日本船舶カ朝鮮、臺灣若ハ樺太ノ各港間ノミヲ航行シ又ハ内地ト朝鮮、臺灣若ハ樺太トノ間ヲ航行スル場合ニ之ヲ準用ス
 第三十八條 明治三十八年法律第六十九號施行ノ際現在スル發動機船ハ明治三十八年十月一日ヨリ船舶職員法ニ依リテ職員ヲ乗組マシムヘシ

別表

航路	遠洋航路				船舶種類	總噸數	職員名稱	免狀種類	定員
	汽	船	帆	船					
近	汽	船	帆	船	汽	船	帆	船	汽
	二百噸未滿	二百噸未滿	二百噸未滿	二百噸未滿	機船	機船	機船	機船	機船
	五百噸未滿	五百噸未滿	五百噸未滿	五百噸未滿	船	船	船	船	船
	機船	船	帆	船	機船	機船	機船	機船	機船
	長	長	長	長	長	長	長	長	長
	甲種二等運轉士	甲種二等運轉士	甲種二等運轉士	甲種二等運轉士	甲種二等運轉士	甲種二等運轉士	甲種二等運轉士	甲種二等運轉士	甲種二等運轉士
	乙種二等運轉士	乙種二等運轉士	乙種二等運轉士	乙種二等運轉士	乙種二等運轉士	乙種二等運轉士	乙種二等運轉士	乙種二等運轉士	乙種二等運轉士
	三	三	三	三	三	三	三	三	三

海 航 路		船	
五百噸未滿	貳百噸未滿	機一船	機船
等	關	關	關
長士	長士	長士	長士
一乙種	一乙種	一乙種	一乙種
等	等	等	等
機	機	機	機
關	關	關	關
士	士	士	士

(第一號書式)

海技免狀原簿登録申請書

- 一 海技免狀ノ種類
 - 二 氏 名(假名ニテ傍訓スベシ)
 - 三 本籍^地及族稱
 - 四 出生ノ年月日
 - 五 船舶職員試験(体格検査)ヲ行ヒタル管海官廳ノ名稱
 - 六 合裕ノ年月日
- 右海技免狀原簿ニ登録ノ上海技免狀授與相成度船舶職員法施行細則第十一條(第十二條第三項)ニ依リ此段申請候也

申請人 氏 名

現住所

遞信大臣宛

(第二號書式)

體格検査申請書

船舶職員法第五條第二項ニ依リ
免狀授與申請致候間体格検査執行相成度依テ履歴書、証明書及戸籍謄本(抄本)相添此
段申請候也

年 月 日

申請人 氏 名

現住所

管海官廳宛

(第三號書式 免狀様式略ス
第四號書式)

海技免狀原簿變更(訂正)登録申請書

- 一 海技免狀ノ番號
- 二 海技免狀ノ種類
- 三 登録ノ年月日

○船舶職員法施行細則

四 氏 名 (假名ニテ傍訓スヘシ) 新(朱書)
 五 本籍地及族籍 舊(朱書)
 六 出生ノ年月日 新(朱書)
 右何年何月何日(變更、訂正ノ事由ヲ記載ス)ニ依リ前記朱書ノ通り變更ニ付變更登録
 (訂正)相成度戸籍簿本(抄本)並登録稅(手数料)相添此段申請候也

申請人 氏 名

現住所

遞信 大臣 宛

(第五號書式)

海技免狀再交付申請書

- 一 海技免狀ノ番號
- 二 海技免狀ノ種類
- 三 登録ノ年月日
- 四 氏 名(假名ニテ傍訓スヘシ)

五 本籍地及族籍
 六 出生ノ年月日

右何年何月何日(流失、遺失、紛失、毀損等ノ事由ヲ記載ス)ニ付再交付相成度手数料
 相添此段申請候也

年 月 日

申請人 氏 名

現住所

遞信 大臣 宛

勅令第三十一號

船舶職員法ハ日本ノ沿岸又ハ湖川港内ノミテ航行スル外國船舶ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ大正二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

船舶職員試驗規程

明治三十八年公布
明治四十三年改正(省令)

第一章 總 則

第一條 船舶職員試驗ハ左ノ三十一種トス
 甲種船長試驗

甲種一等運轉士試驗
 甲種二等運轉士試驗
 汽船甲種船長試驗
 汽船甲種一等運轉士試驗
 汽船甲種二等運轉士試驗
 帆船甲種船長試驗
 帆船甲種一等運轉士試驗
 帆船甲種二等運轉士試驗
 漁船甲種一等運轉士試驗
 漁船甲種二等運轉士試驗
 漁業汽船甲種一等運轉士試驗
 漁業汽船甲種二等運轉士試驗
 漁業帆船甲種一等運轉士試驗
 漁業帆船甲種二等運轉士試驗
 乙種船長試驗
 乙種一等運轉士試驗
 乙種二等運轉士試驗
 漁船乙種一等運轉士試驗
 漁船乙種二等運轉士試驗
 湖川港乙種一等運轉士試驗

湖川港乙種二等運轉士試驗

丙種船長試驗

丙種運轉士試驗

漁船丙種運轉士試驗

機關長試驗

一等機關士試驗

二等機關士試驗

三等機關士試驗

湖川港三等機關士試驗

發動機三等機關士試驗

船舶職員試驗ハ逕信大臣ノ指定スル管海官廳及期日ニ於テ之ヲ執

第二條

行ス 前項ノ外臨時試驗ヲ執行スル必要アルトキハ隨時其場所及期日ヲ告示ス

第二章 受験資格

第三條 年齡滿二十年以上ニシテ左ニ掲クル履歷ノ一ヲ有スル者ハ相當船

船職員試驗ヲ受クルコトヲ得

甲種船長試驗

一 汽船甲種船長試験ヲ受クルニ適合スル履歴及一年以上横帆装置ノ航洋帆船ニ乗組ミタル履歴ヲ有スルコト

二 帆船甲種船長試験ヲ受クルニ適合スル履歴、一年以上横帆装置ノ航洋帆船ニ乗組ミタル履歴及一年以上五百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミタル履歴ヲ有スルコト

甲種一等運轉士試験

一 汽船甲種一等運轉士試験ヲ受クルニ適合スル履歴及一年以上横帆装置ノ航洋帆船ニ乗組ミタル履歴ヲ有スルコト

二 帆船甲種一等運轉士試験ヲ受クルニ適合スル履歴、一年以上横帆装置ノ航洋帆船ニ乗組ミタル履歴及一年以上五百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミタル履歴ヲ有スルコト

甲種二等運轉士試験

四年以上遠洋航路若ハ近海航路ヲ航行スル船舶ニ乗組ミ其運航ニ從事シ其内少クモ一年ハ横帆装置ノ船舶ニ又一年ハ五百噸以上ノ汽船ニ在リタルコト

汽船甲種船長試験

一 甲種一等運轉士免狀又ハ乙種船長免狀ヲ有シ一年以上五百噸以上

ノ航洋汽船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

二 乙種船長免狀ヲ有シ一年以上二百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト

汽船甲種一等運轉士試験

一 甲種二等運轉士又ハ乙種一等運轉士免狀ヲ有シ一年以上五百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ二等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

二 乙種一等運轉士免狀ヲ有シ一年以上二百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

三 甲種二等運轉士免狀又ハ乙種一等運轉士免狀ヲ有シ二年以上千噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ三等運轉士トシテ執務シタルコト

汽船甲種二等運轉士試験

四年以上二百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ其運行ニ從事シタルコト

帆船甲種船長試験

一 甲種一等運轉士免狀ヲ有シ一年以上遠洋航路ヲ航行スル帆船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト

二 甲種一等運轉士免狀ヲ有シ一年以上二百噸以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

- 三 丙種船長免狀ヲ有シ一年以上二百噸以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト
- 四 丙種船長免狀ヲ有シ一年以上五百噸以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト
- 一 帆船甲種一等運轉士試験
- 一 甲種二等運轉士免狀ヲ有シ一年以上遠洋航路ヲ航行スル帆船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト
- 二 丙種運轉士免狀ヲ有シ一年以上二百噸若ハ二千石以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト
- 三 甲種二等運轉士免狀又ハ丙種運轉士免狀ヲ有シ一年以上三百噸以上若ハ三千石以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ二等運轉士ノ職ヲ執リタルコト
- 四 甲種二等運轉士免狀又ハ丙種運轉士免狀ヲ有シ二年以上千噸以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ三等運轉士トシテ執務シタルコト
- 帆船甲種二等運轉士試験
- 二 一年以上航洋帆船ニ乗組ミ其内少クモ一年ハ二百噸以上ノ遠洋航路若ハ近海航路ヲ航行スル帆船ニ乗組ミ其運行ニ従事シタルコト

- 二 丙種運轉士免狀ヲ有シ一年以上航洋帆船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト
- 一 帆船甲種一等運轉士試験
- 一 效力ヲ漁船ニ限ラレタル甲種二等運轉士免狀ヲ有シ一年以上百噸以上ノ漁船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リ若ハ二百噸以上ノ漁船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト
- 二 效力ヲ漁業汽船ニ限ラレタル甲種二等運轉士免狀有シ一年以上百噸以上ノ漁業汽船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リ且一年以上百噸以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ其運航ニ従事シタルコト
- 三 效力ヲ漁業帆船ニ限ラレタル甲種二等運轉士免狀ヲ有シ一年以上百噸以上ノ漁業帆船ニ乗組ミ船長ノ職執リ且一年以上百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ其運航ニ従事シタルコト
- 帆船甲種二等運轉士試験
- 四 一年以上航洋船舶ニ乗組ミ其運航ニ従事シ其内少クモ一年ハ百噸以上ノ漁業帆船ニ又一年ハ百噸以上ノ漁業汽船ニ乗組タルコト
- 漁業汽船甲種一等運轉士試験
- 一 効力ヲ漁業汽船ニ限レタル甲種二等運轉士免狀ヲ有シ一年以上百噸以上ノ漁業汽船ニ乗組ミ其運航ニ従事シタルコト

噸以上ノ漁業汽船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リ若ハ一年以上二百噸以上ノ漁業汽船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

二 効力ヲ漁業汽船ニ限ラレタル乙種一等運轉士免狀ヲ有シ一年以上百噸以上ノ漁業汽船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト

漁業汽船甲種二等運轉士試験

四年以上航洋船舶ニ乗組ミ其運航ニ従事シ其内少クモ一年ハ百噸以上ノ漁業汽船ニ乗組ミタルコト

漁業帆船甲種一等運轉士試験

一 効力ヲ漁業帆船ニ限ラレタル甲種二等運轉士免狀ヲ有シ一年以上遠洋航路ヲ航行スル漁業帆船又ハ百噸以上ノ近海航路若ハ沿海航路ヲ航行スル漁業帆船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リ又ハ一年以上二百噸以上ノ漁業帆船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

二 効力ヲ漁船ニ限ラレタル丙種運轉士免狀ヲ有シ二年以上百噸以上ノ漁業帆船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リ若ハ二年以上二百噸以上ノ漁業帆船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

漁業帆船甲種二等運轉士免狀

四年以上航洋帆船ニ乗組ミ其運航ニ従事シ其内少クモ一年ハ百噸以上

ノ漁船ニ乗組ミタルコト

乙種船長試験

一 乙種一等運轉士免狀ヲ有シ一年以上二百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

二 乙種一等運轉士免狀ヲ有シ一年以上百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト

三 乙種一等運轉士免狀ヲ有シ一年以上五百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ二等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

乙種一等運轉士試験

一 四年以上百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ其運航ニ従事シタルコト

二 乙種二等運轉士免狀ヲ有シ一年以上百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

三 乙種一等運轉士免狀ヲ有シ一年以上五十噸以上ノ汽船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト

乙種二等運轉士試験

三年以上汽船ニ乗組ミ其運航ニ従事シタルコト

漁船乙種一等運轉士試験

- 一 四年以上航洋船舶ニ乗組ミ其運航ニ從事シ其内少クモ一年ハ百噸以上ノ漁業ニ乗組ミタルコト
- 二 効力ヲ漁船ニ限ノレタル乙種二等運轉士免狀ヲ有シ一年以上五十噸以上ノ漁業汽船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リ若ハ一年以上二百噸以上ノ漁業汽船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト
漁業乙種二等運轉士試験
- 一 三年以上航洋船舶ニ乗組ミ其運航ニ從事シ其内少クモ一年ハ漁業汽船ニ乗組ミタルコト
- 二 四年以上航洋船舶ニ乗組ミ其運航ニ從事シ其内少クモ二年ハ補助機關ヲ備フル漁業帆船ニ乗組ミタルコト
- 三 効力ヲ漁船ニ限ラレタル丙種運轉士免狀ヲ有シ一年以上補助機關ヲ備フル漁業帆船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト
湖川港乙種一等運轉士試験
- 湖川港乙種二等運轉士免狀ヲ有シ一年以上免許ヲ受ケントスル湖川港内ニ在テ百噸以上ノ汽船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト
湖川港乙種二等運轉士試験
- 一年以上汽船ニ乗組ミ免許ヲ受ケントスル湖川港内ニ在テ其運航ニ從

事シタルコト

丙種船長試験

- 一 丙種運轉士免狀ヲ有シ一年以上二百噸以上若ハ二千石以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト
- 二 丙種運轉士免狀ヲ有シ一年以上百噸以上若ハ千石以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト
- 三 丙種運轉士免狀ヲ有シ二年以上三百噸若ハ三千石以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ二等運轉士ノ職ヲ執リタルコト
丙種運轉士試験
- 四年以上十五噸以上若ハ百五十石以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ其運航ニ從事シタルコト
漁船内種運轉士試験
- 一 三年以上航洋帆船ニ乗組ミ其運航ニ從事シ其内少クモ一年ハ漁船ニ乗組ミタルコト
- 二 三年以上沖合漁業ニ從事スル帆船ニ乗組ミ且一年以上航洋帆船ニ乗組ミ其運航ニ從事シタルコト
- 三 六年以上沖合漁業ニ從事スル帆船ニ乗組ミ其内少クモ三年ハ船頭

ノ職ヲ執リタルコト

機關長試験

- 一 一等機關士ノ免狀ヲ有シ一年以上五百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ
- 二 一等機關士ノ職ヲ執リタルコト
- 三 一等機關士ノ免狀ヲ有シ一年以上三百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ
機關長ノ職ヲ執リタルコト
- 四 一等機關士ノ免狀ヲ有シ一年以上千噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ
等機關士トシテ執務シタルコト
- 一 一等機關士試験
- 二 二年以上三百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關運轉ニ從事シタルコト
- 三 二等機關士ノ免狀ヲ有シ一年以上二百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ
一等機關士ノ職ヲ執リタルコト
- 四 二等機關士ノ免狀ヲ有シ一年以上五百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ
機關士トシテ執務シタルコト

二等機關士試験

- 一 三年以上百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關運轉ニ從事シタルコト
- 二 三等機關士ノ免狀ヲ有シ一年以上五十噸以上ノ汽船ニ乗組ミ機關
長ノ職ヲ執リタルコト
- 三 三等機關士試験
- 四 三年以上汽船ニ乗組ミ機關運轉ニ從事シタルコト

湖川港三等機關士試験

- 一 二年以上汽船ニ乗組ミ機關運轉ニ從事シタルコト
- 二 發動機船三等機關士試験

第四條

前條ニ掲クル船舶ノ噸數ハ總噸數ニシテ石數ハ積石數トス
 航洋船舶トハ沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル汽船及帆船、航洋汽船トハ
 沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル汽船、航洋帆船トハ沿海航路以上ノ航路
 ヲ航行スル帆船ヲ謂フ
 汽船甲種船長試験及汽船甲種一等運轉士試験ノ履歷ニ掲クル甲種一等運
 轉士免狀及甲種二等運轉士免狀ニハ效力ヲ汽船ニ限ラレタルモノヲ包含
 ス又帆船甲種船長試験及帆船甲種一等運轉士試験ノ履歷ニ掲クル甲種一

等運轉士免狀及甲種二等運轉士免狀ニハ效力ヲ帆船ニ限ラレタルモノヲ包含ス

機關長試験及各機關士試験ノ履歷中航洋汽船又ハ汽船ニハ發動機船ヲ包含セス

第五條 遞信大臣ノ允當ト認ムル外國政府ノ免狀ヲ有シテ執職シタル履歷

ハ日本政府ノ相當海技免狀ヲ有シテ執職シタルモノト看做ス

第六條 遞信大臣ノ允當ト認ムル機關工場ニ在テ汽機汽鐘ノ製造又ハ修繕ニ從事シタル期間ハ第三條ニ定ムル乘船期間ノ半數ニ達スルマテ乘船履歷ニ換算スルコトヲ得

第七條 補助機關ヲ備フル帆船ニ乗組ミタル者ノ履歷ハ甲板部員ニ在テハ帆船乗組ト看故シ機關部員ニ在テハ蒸氣機關ヲ備フルモノハ其乗組日數ノ四分ノ一ニ相當スル期間該船舶ノ總噸數ノ二分ノ一ニ相當スル汽船ニ乗組ミタルモノ、發動機ヲ備フルモノハ其乗組日數ノ二分ノ一ニ相當スル期間發動機船ニ乗組ミタルモノトシテ計算ス

第八條 船舶職員法施行細則第二條第四條及第五條ニ掲クル船舶ニ乗組ミタル履歷ハ遞信大臣ノ認定スル所ニ依リ第三條ニ定ムル履歷タル効力ヲ有ス

第九條 高等免狀ニ對スル試験ヲ受クルコトヲ得ル履歷ヲ有スル者ハ下等免狀ニ對スル試験ヲ受クルコトヲ得

高等ノ職ヲ執リタル履歷ハ下等ノ職ヲ執リタルモノトシテ換算若ハ通算スルコトヲ得

高等ノ免狀ヲ下等ノ免狀ニ代用シテ執職シタル履歷ハ該下等免狀ヲ有シテ執職シタルモノ、乙種若ハ丙種ノ免狀ヲ甲種免狀ニ代用シテ執職シタル履歷ハ該甲種免狀ヲ有シテ執職シタルモノト看做ス

同一ノ試験ニ對シテ二種以上ノ乘船履歷ヲ有スルトキハ其乘船期間ヲ通算シテ其内ノ一ニ該當スル期間ニ滿ツルトキハ相當履歷タル効力ヲ有ス但乘船年數ノ規定ヲ異ニスル種類ノ乘船期間ハ各規定年數ノ比例ニ依リ之ヲ其内ノ一ニ換算シテ通算スルモノトス

第十條 遞信大臣ノ允當ト認ムル學校ニ在テ航海科又ハ機關科ヲ卒業シタル者ハ其乘船期間第三條ノ規定ニ適合セサルモ同大臣ノ認定スル所ニ依リ相當試験ヲ受クルコトヲ得

前項ノ規定ハ遞信大臣ノ允當ト認ムル水産講習所又ハ水産學校ニ在テ漁撈科又ハ遠洋漁業科ヲ卒業シタル者及水産試驗場ニ於テ遠洋漁業ノ講習科ヲ修業シタル者ニ準用ス

○船舶職員試験規程

第十一條

- 一 左ニ掲クルモノハ第三條ニ定ムル履歷タル効力ヲ有セス
- 二 倉庫船又ハ繫留船ニ乗組タル履歷
- 三 年齡十五年前未滿ノトキノ履歷
- 四 明治十二年八月以前ノ履歷
- 五 主トシテ船舶ノ運航又ハ機關ノ運轉ニ從事セサル職務ノ履歷

第三章 受驗申請

第十二條

- 船舶職員試驗ヲ受ケントスル者ハ定期試驗ニ在テハ試驗期日十日
日前マデニ臨時試驗ニ在テハ試驗期日五日
前マデニ試驗ヲ行フ管海官廳
ニ左ノ書面ヲ差出スヘシ
- 一 第一號書式ノ申請書
 - 二 戶籍ノ謄本若ハ抄本
 - 三 船舶職員法第六條第一號及第二號ニ該當セサルコトノ證明書
 - 四 海技免狀ヲ有スル者ハ其寫
 - 五 學校、水産講習所又ハ水産試驗場ノ卒業證書又ハ修業證書ヲ有スル者ハ其寫
- 前項第二號ノ書類ハ外國人ニ在テハ日本ノ官公署又ハ本國領事ノ證明書
ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十三條

履歷ハ左ニ掲クル書類ヲ管海官廳ノ檢閲ニ供シテ之ヲ證明スヘシ

- 一 商船ニ乗組ミタル履歷ハ船員手帖又ハ之ニ準スヘキ證明書
- 二 海軍艦船艇又ハ官廳若ハ公署ノ所屬船ニ乗組ミタル履歷ハ當該官廳公署ノ辭令書、證明書若ハ當該官吏公吏ノ證明書
- 三 船舶ノ種類航路及職務ノ執行ニ關シテハ船舶所有者又ハ當該艦船艇長ノ證明書
- 四 學校、機關工場、水産講習所又ハ水産試驗場ニ在リタル履歷ハ當該學校、工場、水産講習所又ハ水産試驗場ノ卒業證書、證明書又ハ修業證書
- 五 海技免狀受有者ハ該免狀

第十四條

受驗申請人ハ手数料トシテ體格検査ニ付テハ貳拾錢學術試驗ニ付テハ左ノ金額ヲ納ムヘシ

- 甲 船舶長試驗
- 汽船甲種船長試驗
- 帆船甲種船長試驗
- 機關長試驗

五 圓

○船舶職員試驗規定

- 甲種一等運轉士試驗
- 汽船甲種一等運轉士試驗
- 帆船甲種一等運轉士試驗
- 漁船甲種一等運轉士試驗
- 漁業汽船甲種一等運轉士試驗
- 漁業帆船甲種一等運轉士試驗
- 乙種船長試驗
- 丙種船長試驗
- 一等機關士試驗
- 甲種二等運轉士試驗
- 汽船甲種二等運轉士試驗
- 帆船甲種二等運轉士試驗
- 漁船甲種二等運轉士試驗
- 漁業汽船甲種二等運轉士試驗
- 漁業帆船甲種二等運轉士試驗
- 乙種一等運轉士試驗
- 漁船乙種一等運轉士試驗

參 圓

貳 圓

壹 圓

- 湖川港乙種一等運轉士試驗
- 二等機關士試驗
- 乙種二等運轉士試驗
- 漁船乙種二等運轉士試驗
- 湖川港乙種二等運轉士試驗
- 丙種運轉士試驗
- 漁船丙種運轉士試驗
- 三等機關士試驗
- 湖川港三等機關士試驗
- 發動機船三等機關士試驗

第十五條 手數料ハ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ納付書ニ貼用シ體格検査手數料ハ受験申請書ト共ニ納メ學術試験手數料ハ學術試験開始ニ先チテ納ムヘシ

前項ニ依リ貼用シタル印紙ハ管海官廳ニ於テ消印スヘキモノトス但納付者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ケナシ

既納手數料ハ事故ノ如何ヲ問ハス之ヲ還付セス

第四章 試驗

○船舶職員試驗規定

第十六條 試験ハ體格検査及學術試験トス體格検査ニ合格シタル者ニアラサレハ學術試験ヲ受クルコトヲ得ス但體格検査ニ合格シ學術試験ニ合格セザリシ者體格検査ヲ受ケタル日ヨリ百日以内ニ於テ再ヒ同一ノ管海官應ニ試験ヲ申請シタルトキハ試験官吏ノ見込ニ依リ體格検査ヲ省略スルコトアルヘシ

學術試験ハ筆記試験及口述試験トス但湖川港乙種一等運轉士試験、湖川港乙種二等運轉士試験、湖川港三等機關士試験及發動機船三等機關士試験ニハ筆記試験ヲ行ハス
筆記試験ヲ受クヘキ者ハ之ニ合格スルニアラサレハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

學術試験ハ別記ノ科目ニ依リ之ヲ行フ

第十七條 試験ノ執行ニ關スル手續ハ管海官應ニ於テ之ヲ定ム

第十八條 試験官吏ニ於テ受験人ノ履歷若ハ身分ニ詐欺錯誤アルコト其他受験資格ナキコトヲ發見シタルトキ又ハ試験ヲ行フ管海官應ニ於テ定メタル試験ノ手續ニ違背シタルコトヲ認ムルトキハ何時ニテモ其試験ヲ停止スルコトヲ得

前項ニ依リ試験ヲ停止シタル場合又ハ試験終了後ニ於テ受験人ノ受験資

格ナキコトヲ發見シタルトキハ其試験ヲ無効トス

第十九條 受験人左ニ掲クル場合ニ於テハ其試験ハ成立セサルモノトス

- 一 指定ノ試験執行日ニ出場セサルトキ
- 二 試験ヲ終ハラスシテ退場シタルトキ
- 三 規定ノ時限ニ答ヲ終ラサルトキ
- 四 第十八條ノ規定ニ依リ試験ヲ停止セラレタルトキ

第二十條 受験人試験ニ合格シタルトキハ第二號書式ノ合格證書ヲ附與ス

第二十一條 試験合格證書ヲ附與シタル後受験當時受験人ノ受験資格ヲ有セザリシコトヲ發見シタルトキハ該合格證書ヲ無効トシ之ヲ還納セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ受験人カ合格證書ヲ還納セサルトキハ當該管海官應ハ其無効ナルコトヲ官報ニ公告スヘシ

第五章 試験停止

第二十二條 受験人試験ニ關シ不正ノ所爲アリタルトキハ管海官應ハ期限ヲ定メ試験ヲ受クルコトヲ許ササルコトアルヘシ

第二十三條 削除

附 則

○船舶職員試験規定

第二十四條 本規定ハ明治三十八年法律第六十九號施行ノ日ヨリ之ヲ行施

ス
第二十五條 明治三十年五月遞信省令第七號ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第二十六條 明治三十年五月遞信省令第七號海員試驗規程ニ定ムル受験履歷ニ適合スル履歷ヲ有スル者ハ本規定第三條ノ規定ニ拘ハラヌ明治三十八年十二月三十一日マテ相當試驗ヲ受クルコトヲ得

(別記)

試驗科目

甲種船長試驗

甲種一等運轉士試驗及甲種二等運轉士試驗ノ科目ヲ合セ

筆記

- 一 星ノ子午線經過時及子午線高度ノ推算法
- 二 星ノ高度ニ依リ緯度ノ算法
- 三 太陰子午線經過時ノ推算法
- 四 太陰子午線高度ニ依リ緯度ノ算法
- 五 子午線ニ近キ太陽高度ニ依リ緯度ノ算法

六 ナビール式自差表作成及用法

口述

- 一 羅針儀据附及矯正ノ方法
- 二 假舵及救命筏ノ製作及用法
- 三 運轉自由ヲ得サル船舶ノ取扱方法
- 四 船體傾倒及船體應急修繕ノ方法
- 五 前數號ノ外船長ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

甲種一等運轉士試驗

甲種二等運轉士試驗ノ科目ヲ合セ

筆記

- 一 太陽方位角ニ依リ羅針遠差ノ算法
- 二 時辰儀及太陽高度ニ依リ經度又ハ時辰儀遠差ノ算法
- 三 サムナー式算法
- 四 潮時算法
- 口述
- 一 下橋建設其他圓材ノ取扱
- 二 舵及汽船ノ暗車作用

○船舶職員試驗規定

- 三 帆船ノ荒天運用方法
- 四 汽船ノ荒天運用方法
- 五 航海中船具ノ破損其他不慮ノ事變ニ會シ之ヲ處理スル方法
- 六 海難ニ際シ人命及船舶ヲ救護スル方法
- 七 颶風ノ説明
- 八 前數號ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
甲種二等運轉士試驗筆記
- 一 普通作文
- 二 航海ニ關スル用語ノ説明
- 三 面體積量、比例及對數算法
- 四 航海日誌算法
- 五 緯線航行算法
- 六 マーケートル式又ハ中分緯度式ニ依リ經度緯度若ハ針路航程ノ算法
- 七 太陽子午線高度ニ依リ緯度ノ算法
- 八 太陽ノ出沒方位ニ依リ羅針違差ノ算法

- 九 羅針自差ノ算法
- 十 海圖ノ用法
- 一 船具ノ取附及脫除
- 二 桅樁及帆架ノ揚降
- 三 測程具、測深具ノ説明並用法
- 四 錨、錨鎖其他屬具ノ取扱
- 五 貨物積載法
- 六 帆ノ取扱
- 七 帆船ノ常時運用方法
- 八 汽船ノ常時運用方法
- 九 六分儀ノ用法及矯正法
- 十 羅針自差ノ測定方法
- 十一 海上衝突豫防法
- 十二 萬國船舶信號法
- 十三 前數號ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
- 汽船甲種船長試驗、汽船甲種一等運轉士試驗及汽船甲種二等運轉士試驗

○船舶職員試驗規程

ノ各科目ハ前ニ掲クル相當試験ノ科目中口述ニ於テ帆船ノ運用ニ關スル事項ヲ除クノ外總テ同一トス
 帆船甲種船長試験、帆船甲種一等運轉士試験及帆船甲種二等運轉士試験ノ各科目ハ前ニ掲クル相當試験ノ科目中口述ニ於テ汽船ノ運用ニ關スル事項ヲ除クノ外總テ同一トス
 漁船甲種一等運轉士試験ノ科目ハ甲種一等運轉士試験ノ科目ト漁業汽船甲種二等運轉士試験ノ科目ト汽船甲種二等運轉士試験ノ科目ト漁業帆船甲種一等運轉士試験ノ科目ト帆船甲種一等運轉士試験ノ科目ト總テ同一トス
 漁船甲種二等運轉士試験ハ汽船甲種二等運轉士試験ノ科目中、漁業汽船二等運轉士試験ハ帆船甲種二等運轉士試験科目中筆記ニ於テ第二號口述ニ於テ第五號ヲ除ク外總テ同一トス

乙種船長試験

乙種一等運轉士試験及乙種二等運轉士試験ノ科目ヲ合セ

- 一 太陽子午線高度ニ依リ緯度ノ算法
- 二 太陽出沒方位ニ依リ羅針違差ノ算法

三 潮時算法

口述

- 一 汽船ノ蛇及暗車作用
 - 二 汽船ノ荒天運用方法
 - 三 航海中船具ノ破損其他不慮ノ事變ニ會シ之ヲ處理スル方法
 - 四 海難ニ際シ人命及船舶ヲ救護スル方法
 - 五 六分儀ノ用法及矯正法
 - 六 颶風ノ説明
 - 七 前數號ノ外本分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
- 乙種一等運轉士試験
- 乙種二等運轉士試験ノ科目ヲ合セ

筆記

- 一 普通作文又ハ文章ノ解讀
 - 二 加減乗除應用及面積積量算法
 - 三 航海日誌算法
 - 四 羅針自差ノ算法
- 口述

○船船職員試験規定

- 一 錨、錨鎖其他屬具ノ取扱
 - 二 貨物積載法
 - 三 帆ノ取扱
 - 四 羅針自差ノ測定方法
 - 五 萬國船舶信號法
 - 六 前數號ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
- 乙種二等運轉士試驗
- 筆記
- 一 航海日誌ノ記載
 - 二 海圖ノ用法
- 口述
- 一 羅針儀ノ説明並用法
 - 二 測程具、測深具ノ説明並用法
 - 三 汽船ノ常時運用方法
 - 四 海上衝突豫防法
 - 五 前數號ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
- 漁船乙種一等運轉士試驗科目ハ乙種一等運轉士試驗ノ科目中筆記ニ於テ

第一號及第二號口述ニ於テ第二號ヲ除クノ外總テ同一トス

漁船乙種二等運轉士試驗ノ科目ハ乙種二等運轉士試驗科目中筆記ニ於テ

第一號ヲ除クノ外總テ同一トス

湖川港乙種一等運轉士試驗

口述

- 一 蛇及推進器ノ作用
 - 二 汽船運用方法
 - 三 船舶衝突豫防ノ方法
 - 四 船舶ノ航行スヘキ區域ノ地理
 - 五 前數號ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
- 湖川港乙種二等運轉士試驗ハ前ニ掲クル湖川港乙種一等運轉士試験ノ科目ニ依リ小汽船ノ運用方法ニ付テ試験スルモノトス
- 丙種船長試験
- 丙種運轉士試験ノ科目ヲ合セ
- 筆記
- 一 航海日誌算法
 - 二 太陽子午線高度ニ依リ緯度ノ算法

- 三 太陽ノ出沒方位ニ依リ羅針遠差ノ算法
- 四 潮時算法
- 五 羅針自差ノ算法
- 口 述
- 一 桅檣及帆架ノ揚降
- 二 帆船ノ荒天運用方法
- 三 航海中船具ノ破損其他不慮ノ事變ニ會シ之ヲ處理スル方法
- 四 海難ニ際シ人命及船舶ヲ救護スル方法
- 五 六分儀ノ用法及矯正法
- 六 羅針自差ノ測定方法
- 七 颶風ノ説明
- 八 前數號ノ外船長ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
- 丙種運轉士試驗
- 筆 記
- 一 航海日誌ノ記載
- 二 加減乗除應用及面體積量算法
- 三 海圖ノ用法

口 述

- 一 羅針儀ノ説明並用法
- 二 船具ノ取附及脫除
- 三 測程具、測深具ノ説明並用法
- 四 錨、錨鎖其他屬具ノ取扱
- 五 貨物積載法
- 六 帆ノ取扱
- 七 帆船ノ常時運用方法
- 八 海上衝突豫防法
- 九 萬國船舶信號法
- 十 前數號ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
- 漁船丙種運轉士試驗ノ科目ハ丙種運轉士科目中筆記ニ於テ第一號及第二號口述ニ於テ第五號ヲ除クノ外總テ同一トス

機關長試驗

- 合セ
- 一 等機關士試驗、二 等機關士試驗及三 等機關士試驗ノ科目ヲ
- 筆 記

二 汽機強力、汽鐘強力、螺旋螺距、溫度、蒸氣膨脹、圓材方材ノ應
力、開立應用問題、汽力圖等ニ關スル算法

二 汽機汽鐘局部ノ製圖

口述

- 一 熱及汽機汽鐘ニ於ケル熱ノ效力及害
 - 二 汽機汽鐘各部ニ要スル諸強力ノ説明
 - 三 汽機汽鐘材料ノ説明
 - 四 汽機各部ノ摩擦力ト推進力トノ關係
 - 五 蒸氣及其膨脹力使用ニ基キ各種汽機比較ノ大要
 - 六 滑瓣ノ動作、汽力器及汽力圖ノ説明
 - 七 汽機汽鐘ノ要部及炭量水量等ノ割合
 - 八 前數號ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
 - 一等機關士試驗
 - 二等機關士試驗
 - 三等機關士試驗
- 筆記
- 重量、炭費、速力、安全瓣、唧筒、馬力、開平應用問題等ニ關スル算法
- 口述

- 一 汽機汽鐘各部組成ノ理解
 - 二 各種ノ汽機汽鐘構造及利害ノ説明
 - 三 各種ノ滑瓣、働瓣機及推進器ノ説明
 - 四 車軸ノ中心及滑瓣位置ノ整調
 - 五 馬力ノ説明
 - 六 汽機汽鐘ニ屬スル諸器製造ノ理解
 - 七 前數號ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
 - 二等機關士試驗
 - 三等機關士試驗
- 筆記

- 二 普通作文又ハ文章ノ解讀
- 二 分數、小數、比例及面體積量算法
- 口述
- 一 汽機汽鐘組成ノ大要
- 二 汽機ノ毀損シ易キ部分及之ニ對スル注意
- 三 汽鐘ニ腐蝕燒損其他毀損ヲ來ス原因及其豫防方法
- 四 航行中及碇泊中汽機汽鐘ニ要スル注意

○船舶職員試驗規定

五 前數號ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
三等機關士試驗

筆記

一 機關日誌ノ記載

口述

一 汽機汽罐檢查ノ方法

二 汽機汽罐各部ノ効用

三 汽機汽罐ニ屬スル諸器ノ効用及用法

四 汽機汽罐ノ取扱及運轉方法

五 汽機汽罐ノ損所ヲ修繕スル方法

六 運轉中汽機汽罐ニ不慮ノ危害ヲ生シタルトキノ處置

七 前數號ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
湖川港三等機關士試驗

三等機關士試驗ノ科目中筆記試驗及口述試驗中第三號ヲ除ク
發動機船三等機關士試驗

口述

一 石油發動機ニ於ケル瓦斯ノ發生、點火ノ裝置及發動ノ理解

二 石油發動機ニ關スル諸辦ノ働作、燃燒室及吸錫ノ構造、緩急及以
轉ノ裝置

三 石油ノ種別、其貯藏及注入ノ裝置

四 摩擦部、瓦斯發生室、同燃燒室其他、働作部ニ對スル注意及一般
ノ取扱方

第一號書式受驗申請書 略ス

第二號書式合格證書 略ス



海上衝突豫防法

明治二十五年公布
明治三十九年改正 (法律)

總則

本法ハ海洋ト海洋接續ノ場所トヲ問ハス凡ソ航洋船ノ運航シ得ヘキ水上ニ於ケル船舶ニ適用ス

本法中汽船ト雖モ帆ヲ以テ運轉シ汽力ヲ用キサルトキハ帆船ト看做シ汽力ヲ用ウルトキハ帆ヲ用フルト用キサルトノ別ナク汽船ト看做スヘシ

本法中汽船トハ凡ソ機關ノ作用ニ因テ運轉スル船舶ヲ謂フ
本法中船舶航行中トハ碇泊若クハ繫留又ハ坐礁膠沙ニアラサル場合ヲ謂フ

船燈

本法中船燈ニ關シテ見得ルトハ晴天ノ暗夜ニ於テ認メ得ルヲ謂フ

第一條 船燈ニ關スル規定ハ天氣ノ如何ニ關セス日没ヨリ日出マテ必ス遵守スヘシ此ノ時間中ハ本法ニ定メタル船燈ノ外之ニ紛レ易キ燈ヲ掲クヘカラ

第二條 汽船ハ航行中必ス左ノ燈ヲ掲クヘシ

- 一 前橋若ハ其前面ニ於テ又ハ前橋ヲ具ヘサルトキハ本船ノ前方ニ於テ船体上二十尺ヨリ低カラサル所ニ若船幅二十尺ヲ超ユルトキハ其船

○海上衝突豫防法

幅ヨリ低カラサル所ニ亮明ノ白燈一個ヲ掲クヘシ然レトモ船体上四十尺以上ノ所ニ掲クルヲ要セス此燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鉞盤ノ二十點間ヲ照スヘク製造シ其射光ヲ左右舷外ヘ十點間ツ、即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ノ二點マテ及フヘキ様装置シ且少クモ五海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

二

右舷ニ綠燈ヲ掲クヘシ此燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鉞盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其射光ヲ船ノ正首ヨリ右舷正横後ノ二點マテ及フヘキ様装置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

三

左舷ニ紅燈ヲ掲クヘシ此燈ハ常ニ不同ナキ光ヲ發シテ鉞盤ノ十點間ヲ照スヘク製造シ其射光ヲ船ノ正首ヨリ左舷正横後ノ二點マテ及フヘキ様装置シ且少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノヲ用ウヘシ

四

本條第二項第三項ノ舷燈ニハ其燈ヨリ前ニ少クモ三尺突出シタル隔板ヲ其燈ノ内側ニ裝置シ右舷ノ綠光ハ左舷ニアル船ヨリ左舷ノ紅光ハ右舷ニアル船ヨリ見得サル様ニナスヘシ

五

汽船航行中ハ本條第一項ニ規定シタル白燈ノ外ニ同種ノ白燈一箇ヲ増掲スルヲ得但シ此場合ニ於テハ其兩燈ヲ龍骨線上前後ニ隔テ其前燈ヲ後燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ掲ケ其前後ノ距離ハ上下ノ距離ヨ

リモ多キヲ要ス

第三條

汽船他船ヲ引キテ航行スルトキハ兩舷燈ヲ掲クルノ外ニ白燈二個ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此白燈ハ第二條第一項ノ白燈ト同一ノ構造ニシテ且同一ノ場所ニ掲クルヲ要ス然レトモ二艘以上ヲ引キテ航行スルトキハ其引キタル船ノ船尾ト最後ニ引カル、船ノ船尾トノ距離六百尺以上ノ場合ニ於テハ右二個ノ白燈ヨリ上方若クハ下方六尺ノ所ニ尙同種ノ白燈一個ヲ増掲スヘシ

本條ノ引船ハ引カル、船舶ノ操舵目標トシテ烟突若ハ後檣ノ後面ヘ小形ノ白燈一箇ヲ掲クルヲ得但シ此白燈ハ本船正横ヨリ前面ニ見得サル様ニ爲スヲ要ス

第四條

事變ノ爲運轉自由ヲ得サル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項ニ規定シタル白燈ト同一ノ高サニ於テ最モ見得易キ所ニ(汽船ナレハ其ノ白燈ノ代リニ)二箇ノ紅燈ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ此紅燈ハ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺ノ黑球若ハ黑色ノ形象二個ヲ上下ニ少クモ六尺ヲ隔テ連掲スヘシ

海底電信線ノ布設又ハ引揚ニ從事スル船舶ハ夜間ニアリテハ第二條第一項

○海上衝突豫防法

ニ規定シタル白燈ノ位置ニ於テ（汽船ナレハ其白燈ノ代リニ）三個ノ燈ヲ上下少クモ六尺ツ、ヲ隔テ連掲スヘシ但シ此ノ燈三個ノ内上下ノ二個ハ紅色中央ノ一個ハ白色ニシテ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス又晝間ニアリテハ最モ見得易キ所ニ直徑二尺以上ノ形象三個ヲ上下ニ少クモ六尺ツ、ヲ隔テ連掲シ其上下ノ二個ハ紅色球形ヲ用キ中央ノ一個ハ白色豎菱形ヲ用ウヘシ

本條ノ船舶全ク運行セサルトキハ舷燈ヲ掲クヘカラス然レトモ運行スルトキハ必ス之ヲ掲クヘシ

本條規定ノ燈及形象ハ運轉自由ヲ得スシテ他船ノ航路ヲ避クル能ハサルノ信號ト認ムヘシ

本條ノ信號ハ難船信號ト混同スヘカラス難船信號ハ第三十一條ニ於テ之ヲ規定ス

第五條 航行中ノ帆船及他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ第二條第二項第三項ノ舷燈ノミヲ掲クヘシ決シテ同條第一項ノ白燈ヲ掲クヘカラス

第六條 小形船航行中天氣ノ模様ニ因リ綠紅ノ二舷燈ヲ掲置キ難キトキハ何時ニテモ使用シ得ヘキ樣點火シテ之ヲ手近カニ備ヘ置キ他船ノ我船ニ近寄リ來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見

定メテ其舷燈ヲ他船ヨリ最モ見得易キ樣各舷ニ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得ス且ツ成ルヘク各舷正横後ノ二點ヨリ後方ヘ見得サル樣ニ爲スヲ要ス

此綠紅ノ各燈ヲ間違ヒナク容易ニ取扱フ爲メ綠燈ハ綠色紅燈ハ紅色ニテ外面ヲ塗り且ツ適當ノ隔板ヲ備置クヘシ

第七條 總積量四十噸未滿ノ汽船總積量二十噸未滿ノ帆船及櫓權ヲ以テ運轉スル船航行中ハ必スシモ第二條第一項第二項第三項ニ規定シタル燈ヲ掲クルヲ要セス然レトモ若シ之ヲ掲ケサルトキハ必ス左ノ規定ニ依ルヘシ

一 四十噸未滿ノ汽船

甲 船ノ前部又ハ煙突若ハ其前面ニ於テ舷線九尺ヨリ低カラス且ツ最モ見得易キ所ニ第二條第一項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一個ヲ掲クヘシ

乙

第二條第二項第三項ニ規定シタル構造裝置ニシテ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ綠紅ノ二舷燈ヲ掲クルカ又ハ船首ヨリ各舷正横後ノ二點マテ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及スヘク製造シタル兩色燈一個ヲ掲クヘシ但シ此ノ燈ハ白燈ヨリ少クモ三尺下方ニ掲クルヲ要ス

二 汽艇ハ第一項甲ノ白燈ヲ舷縁上九尺ノ所ヨリ下方ニ掲クルヲ得然レトモ其白燈ハ乙ノ両色燈ヨリ高キヲ要ス

三 二十噸未満ノ帆船ハ帆ヲ用ウルト櫓權ヲ用ウルトニ拘ハラヌ一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用キタル燈籠一箇ヲ手近カニ備置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル様ニ爲スヲ要ス

四 櫓權ヲ以テ運轉スル船ハ櫓權ヲ用ウルト帆ヲ用ウルトニ拘ラス白色ノ燈籠一箇ヲ手近ニ備置キ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ臨時之ヲ表示スヘシ

本條ノ諸船ハ第四條第一項及第十一條末項ノ燈ヲ掲クルニ及ハス

第八條 水先船水先業務ノ爲メ其ノ營業所ニアルトキハ他船ニ要スル燈ヲ表示セス周回ヨリ見得ヘキ白燈一個ヲ檣頭ニ掲ケ且十五分時ヲ超エサル短時ノ間隙ヲ以テ閃火一個若ハ數箇ヲ發スヘシ
水先船ニハ點火シタル舷燈ヲ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄行クトキハ我船ノ進行スル方向ヲ示ス爲メ短時ノ間隙ヲ以テ之ヲ表示スヘシ但シ此ノ時綠光ハ左舷ヨリ紅光ハ右舷ヨリ見得サル様

ニ爲スヲ要ス

水先人ヲ要招スル船舶ヘ直付ケスヘキ水先船ハ白燈ヲ檣頭ニ掲クル代リニ隨時之ヲ表示シ又前項ノ舷燈ノ代リニ一面ハ綠色一面ハ紅色ノ玻璃ヲ用キタル燈籠一個ヲ手近カニ備置キ前項ノ規定ニ依リ之ヲ使用スルヲ得

免許水先人ノ業務ニ専用スル水先汽船水先業務ノ爲メ其營業所ニアリテ碇泊セサルトキハ第一項ノ規定ニ依リ水先船ニ要スル燈及閃火ノ外ニ檣頭ノ下方八尺ノ所ニ周回少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキ紅燈一個ヲ増掲シ且航行中ノ船舶ニ要スル舷燈ヲ掲クヘシ

前項ノ水先汽船水先業務ノ爲メ其營業所ニアリテ碇泊スルトキハ第一項ノ規定ニ依リ水先船ニ要スル燈及閃火ノ外ニ前項ノ規定ニヨリ紅燈ヲ増掲スヘシ但シ舷燈ヲ掲クヘカラス

水先船其營業所ニアルモ水先業務ニ從事セザルトキハ其ノ積量ニ相當スル他船ト同様ノ燈ヲ掲クヘシ

第九條 漁船ハ航行中特ニ本條ニ規定アル場合ヲ除ク外其積量ニ相當スル航行中ノ船舶ニ對シテ規定シタル燈ヲ掲クルカ又ハ之ヲ表示スヘシ

一 無甲板船即チ全部張詰メタル甲板ニ因リテ海水ノ浸入ヲ防カサル船
夜間漁業ニ從事スルニ當リ其放出スル漁具ノ端ト本船トノ水平上ノ

距離カ百五十尺以内ナルトキハ周回ヨリ見得ヘキ白燈一個ヲ掲クヘシ

無甲板船夜間漁業ニ従事スルニ當リ其放出スル漁具ノ端ト本船トノ水平上ノ距離カ百五十尺ヲ超ユルトキハ周回ヨリ見得ヘキ白燈一個ヲ掲ケ且我船ノ他船ニ近寄り行クトキ又ハ他船ノ我船ニ近寄り來ルトキハ其ノ白燈ノ下方ニ少クモ三尺ヲ隔テ且漁具ノ結著シタル方向ニ於テ水平上少クモ五尺ヲ隔テ白燈一個ヲ増表スヘシ

第一ニ規定シタル無甲板船ヲ除ク外流シ網ヲ用キテ漁業ニ従事スル船舶ハ網ノ全部又ハ一部水中ニ投下シアル間ハ最モ見得易キ所ニ白燈二個ヲ掲クヘシ此ノ兩燈ハ上下ノ距離六尺ヨリ少カラス十五尺ヨリ多カラス且龍骨線ニテ測リタル前後ノ距離五尺ヨリ少カラス十尺ヨリ多カラス様其一燈ヲ他燈ノ下方ニ裝置シ其下燈ハ網ノ方向ニ掲クヘシ此ノ兩燈ハ周回少クモ三海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

總積量二十噸未滿ノ帆走漁船ハ地中海及日本國並韓國ノ沿海ニ於テハ必スシモ兩燈中其ノ下燈ヲ掲クルヲ要セス然レトモ之ヲ掲ケサルトキハ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキ

二

三

少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一個ヲ同一ノ位置(網又ハ漁具ノ方向ニ於テ)ニ表示スヘシ

第一ニ規定シタル無甲板船ヲ除ク外延繩ヲ用キテ漁業ニ従事スルニ當リ延繩ヲ結著シ又ハ之ヲ曳入ル、船舶ニシテ碇泊セス又ハ第八ニ依リ停留セサルモノハ流シ網ヲ用キテ漁業ニ従事スル船舶ト同一ノ燈ヲ掲クヘシ其ノ延繩ヲ延ヘ又ハ曳繩ヲ用ウルモノハ其ノ船ノ種類ニ應シ航行中ノ汽船又ハ帆船ニ對シテ規定シタル燈ヲ掲クヘシ

總積量二十噸未滿ノ帆走漁船ハ地中海及日本國並韓國ノ沿海ニ於テハ必スシモ兩燈中其ノ下燈ヲ掲クルヲ要セス然レトモ之ヲ掲ケサルトキハ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一個ヲ同一ノ位置(釣繩ノ方向)ニ於テ表示スヘシ

打タセ網(總テ海底ニ漁具ヲ曳クモノヲ包含ス)ヲ用キテ漁業ニ従事スル船舶ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

甲 汽船ハ第二條第二項ニ規定シタル白燈ノ位置ニ三色ノ燈籠一個ヲ掲ケ尙其下方六尺ヨリ少カラス十二尺ヨリ多カラス所ニ白色ノ燈籠一個ヲ増掲スヘシ此ノ三色燈ハ船ノ正首ヨリ左右各二

正

四

○海上衝突豫防法

乙

點マテハ白色其レヨリ各舷正横後ノ二點マテ右舷ハ綠色左舷ハ紅色ノ射光ヲ及スヘク製造シ且裝置スルヲ要シ又白燈ハ常ニ不同ナク光明ノ光ヲ發シテ周回ヲ照スヘク製造シタルモノヲ要ス帆船ハ常ニ不同ナク光明ノ光ヲ發シテ周回ヲ照スヘク製造シタル白色ノ燈籠一個ヲ掲ケ且他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行クトキハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メ最モ見得易キ所ニ白色ノ閃火又ハ炬火一個ヲ表示スヘシ甲及乙ニ規定シタル諸燈ハ少クモ二海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス

五

桁網ヲ用非テ牡蠣採取ニ從事スル船舶其他桁網ヲ用非テ漁業ニ從事スル船舶ハ打タセ網ヲ用非テ漁業ニ從事スル船舶ト同一ノ燈ヲ掲ケ及之ヲ表示スヘシ

六

漁船ハ本條ニ規定シタル燈ヲ掲ケ及之ヲ表示スル外何時ニテモ閃火ヲ用非且漁業用ノ燈火ヲ用ウルヲ得

七

長サ百五十尺未満ノ漁船碇泊中ハ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキ白燈一個ヲ掲クヘシ
長サ百五十尺以上ノ漁船碇泊中ハ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得

八

ヘキ白燈一個ヲ掲ケ且第十一條ニ規定シタル白燈一個ヲ増掲スヘシ長サ百五十尺未満ナルト百五十尺以上ナルトヲ問ハス碇泊中ノ漁船漁網其他ノ漁具ヲ結著シタルトキハ他船ノ我船ニ近寄り來ルトキ碇泊燈ノ下方少クモ三尺ヲ隔テ且漁網其ノ他ノ漁具ノ方向ニ於テ水平上少クモ五尺ヲ隔テ白燈一個ヲ増表スヘシ

漁船漁業ニ從事中漁具ノ岩礁其ノ他障礙物ニ纏著シタル爲メ停留スルトキハ晝間ニアリテハ第十二條規定スル晝間信號ヲ引下シ夜間ニアリテハ碇泊船ト同一ノ燈ヲ表示シ又霧中降雪其ノ他暴雨中ハ碇泊船ニ對シテ規定シタル霧中信號ヲ爲スヘシ(第十五條第四項及末項參照)

九

霧中降雪其ノ他暴雨中流シ網、打タセ網、桁網又ハ延繩ヲ用キテ漁業ニ從事スル總積量二十噸以上ノ船舶ハ汽船ニアリテハ汽笛若ハ汽角帆船ニアリテハ號角ヲ用非一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ一聲ヲ發シ之ニ續キテ號鐘ヲ鳴ラスヘシ總積量二十噸未満ノ漁船ハ必スシモ此信號ヲ爲スヲ要セス然レトモ之ヲ爲サ、ルトキハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ適宜他ノ有効ナル音響信號ヲナスヘシ
網、延繩又ハ打タセ網ヲ用キテ漁業ニ從事スル船舶航行中晝間ニア

十

○海上衝突豫防法

リテハ最モ見得易キ所ニ籃其他ノ信號ヲ掲ケ近寄り來ル他船ニ其漁業中ナルコトヲ表示スヘシ若シ碇泊中ノ船舶漁具ヲ投下セルトキハ他船ノ近寄り來ルトキ同様ノ信號ヲ他船ノ航過シ得ル舷側ニ於テ表示スヘシ

本條ニ依リ特ニ規定シタル燈ヲ掲ケ又之ヲ表示スルヲ要スル船舶ハ第四號第一項及第十一條末項ノ燈ヲ掲クルニ及ハス

第十條 他船ニ追越サレントスル船舶ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈ヲ表示シ又ハ閃火ヲ發スヘシ

本條ニ從テ表示スヘキ白燈ハ豫メ船尾ニ掲置クヲ得然レドモ此燈ハ少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノニシテ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ鏡盤ノ十二點間ヲ照スヘク製造シ船ノ正後ヨリ左右ヘ六點間宛射光ノ及フヘキ様隔板ヲ裝置シ成ルヘク舷燈ト同一ノ高サニ掲クヘシ

第十一條 長サ百五十尺未滿ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船体上ヨリ二十尺ヲ越エサル所ニ白燈一個ヲ掲クヘシ此燈ハ常ニ不同ナキ亮明ノ光ヲ發シ周回少クモ一海里ノ距離ヨリ見得ヘキモノタルヲ要ス
長サ百五十尺以上ノ船舶碇泊中ハ前方ノ最モ見得易クシテ船體上二十尺以上四十尺以下ノ所ニ前項ノ白燈一箇ヲ掲ケ且船尾若ハ其最寄ニ於テ前方ノ

燈ヨリ少クモ十五尺下方ニ同種ノ白燈一個ヲ掲クヘシ

本條船舶ノ長サハ本船舶籍證書面ノ長サニ依ルヘシ

船路若ハ其最寄ニ於テ乗掲ケタル船舶ハ本條白燈ノ外尙第四條第一項ニ規定シタル紅燈二個ヲ掲クヘシ

第十二條 各船他船ノ注意ヲ喚起スル爲メ必要ナリト認ムルトキハ本法ニ規定シタル船燈ノ外ニ尙閃火ヲ發シ或ハ難船信號ト混同セサル爆裂信號ヲ發スルヲ得

第十三條 本法船燈ノ規定ハ二艘以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ護送セララル、船舶ニ増掲スル列位燈及信號燈ニ關シ各國政府ニ於テ特ニ制定シタル規則ノ施行ヲ妨ケス又船舶所有主ニ於テ其國政府ノ許可ヲ受ケ登簿公告ノ手續ヲ經テ私用スル識別信號ノ使用ヲ妨ケス

第十四條 漁船晝間帆ノミヲ以テ運轉スルモ其煙突ヲ引下ケサルトキハ前方ノ最モ見得易キ處ニ直徑二尺ノ黑球若クハ黑色形象一個ヲ掲クヘシ
霧中信號

第十五條 航行中ノ船舶ニ關シ本條ニ規定シタル信號ヲ爲スニハ左ノ信號器ヲ用ウヘシ
汽船ハ汽笛若クハ汽角

帆船又ハ他船ニ引カレテ運行スル船舶ハ霧中號角

本條中長聲トハ四秒乃至六秒時間ノ發聲ヲ謂フ
汽船ハ汽力其他之ニ代用スヘキモノニ因リ發聲スル適當ノ汽笛若クハ汽角
ヲ音響ノ妨害物ナキ所ニ裝置シ且號鐘及機關ノ作用ニヨリ發聲スル適當ノ
霧中號角ヲ備フヘシ又總積量二十噸以上ノ帆船ハ汽船同様ノ號鐘及號角ヲ
備フヘシ

霧中降雪其他暴雨中ハ晝夜ノ別ナク左ノ各項ニ規定シタル信號ヲ爲スヘシ

- 一 汽船航行中ハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲一發スヘシ
- 二 汽船航行中運轉ヲ止メテ速力ヲ有タサルトキハ二分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ長聲二發スヘシ但其二發ノ間隙ハ大約一秒時タルヲ要ス
- 三 帆船航行中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ右舷開ナレハ一聲ヲ發シ左舷開ナレハ二聲ヲ連發シ船ノ正横後ニ風ヲ受ケタルトキハ三聲ヲ連發スヘシ
- 四 船舶碇泊中ハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ大約五秒時間劇シク號鐘ヲ鳴ラスヘシ
- 五 他船ヲ引キテ運航スル船舶海底電信線布設若クハ引揚ニ從事スル船舶

船及航行中運轉自由ヲ得スシテ近寄り來ル他船ノ航路ヲ避ケ能ハサルカ又ハ本法ニ遵テ運轉シ能ハサル船舶ハ本條第一項及ヒ第三項ニ規定シタル信號ノ代リニ二分時間ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ三聲ヲ連發シ即チ長聲ヲ一發シタル後直ニ短聲ヲ二發スヘシ又他船ニ引カレテ運行スル船舶モ此信號ヲナスハ妨ケナシト雖モ他ノ信號ヲナスヘカラス

總積量二十噸未滿ノ帆船ハ必スシモ前數項ニ規定シタル信號ヲ爲ステ要セス然レドモ其信號ヲナサ、ルトキハ一分時ヨリ多カラサル間隙ヲ以テ適宜他ノ音響信號ヲ爲スヘシ

霧中速力

第十六條 霧中降雪其他暴雨中ハ各船現時ノ狀況ニ注意シ適度ノ速力ヲ以テ進行スヘシ

汽船其正横ヨリ前面ニ當リテ他船ノ霧中信號ヲ聞キ其所在ヲ定メ得サルトキハ成ルヘク機關ノ運轉ヲ止メ全ク衝突ノ虞ナキニ至ルマテ其運行ニ注意スヘシ

航方

衝突ノ危險ハ其現況ニヨリ我船ニ近寄り來ル他船ノ方位ヲ看守シテ之ヲ豫

知スルヲ得若シ其ノ方位儘カニ變更スルヲ認メサルトキハ危険アルモノト知ルヘシ

第十七條 二艘ノ帆船互ニ近寄リテ衝突ノ虞アルトキハ其一船ヨリ左ノ如ク他船ノ航路ヲ避クヘシ

一 一杯ニ開カサル船ハ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

二 左舷ニ一杯ニ開キタル船ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ

三 一杯ニ開カサル二艘ノ船、風ヲ受クル舷同シカラサルトキハ左舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

四 一杯ニ開カサル二艘ノ船、風ヲ受クル舷同シキトキハ風上ノ船ヨリ風下ノ船ノ航路ヲ避クヘシ

五 船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十八條 二艘ノ汽船正シク真向又ハ幾ント真向ニ行逢フテ衝突ノ虞アルトキハ兩船トモ針路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ行キ過クヘシ
本條ハ兩船正シク真向又ハ幾ント真向ニ行逢フテ衝突ノ虞アルトキニ限り適用スヘシ兩船各其針路ヲ保テテ互ニ替リ行クトキニハ適用スヘカラス
本條ヲ應用スヘキ場合ハ兩船共ニ正シク真向又ハ幾ント真向ニ行逢ヒタル

トキ即チ晝間ニアリテハ我船ノ檣ト他船ノ檣ト一直線又ハ幾ント一直線ニ見ユルトキ夜間ニアリテハ互ニ他船ノ兩舷燈ヲ見ルトキニ限ルヘシ

本條ハ晝間他船ノ我船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船ノ綠燈ニ對スルトキ又ハ夜間我船ノ紅燈他船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船ノ綠燈ニ對スルトキ又ハ我船ノ前面ニ綠燈ヲ見スシテ紅燈ヲ見或ハ紅燈ヲ見スシテ綠燈ヲ見ルトキ又ハ

綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他ノ位置ニ見ルトキハ適用スヘカラス
第十九條 二艘ノ汽船互ニ航路ヲ横切衝突ノ虞アルトキハ他船ヲ右舷ニ見ル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第二十條 帆船ト汽船ト互ニ近寄リ衝突ノ虞アルトキハ汽船ヨリ帆船ノ航路ヲ避クヘシ
第二十一條 本法航方ニ依リ二船ノ内一船ヨリ他船ノ航路ヲ避クルトキハ他船ニ於テ其ノ鍼路及速力ヲ保ツヘシ

但シ他船ニ於テ天氣密濛又ハ其他ノ事故ニヨリ航路ヲ避クル船ノ處置ノミニテハ衝突ヲ避ケ能ハサル程兩船接近シタルコトヲ認ムルトキハ自ラ亦タ臨機衝突ヲ避クルニ至當ノ處置ヲ爲スヘシ

第二十二條 本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クヘキ船ハ成ルヘク他船ノ前面ヲ横切ルヘカラス

第二十三條 本法航方ニ依リ他船ノ航路ヲ避クヘキ汽船ハ他船ニ近寄リタルトキ時宜ニ應シテ速力ヲ緩メ若ハ運轉ヲ止メ又ハ後退スヘシ

第二十四條 總テ他船ヲ追越ス船ハ本法航方中前數條ノ規定ニ拘ハラズ他船ノ航路ヲ避クヘシ
總テ他船ノ兩舷正横後ノ二點以外即チ夜間ニアリテ舷燈ヲ見雖キ位置ヨリ其船ヲ追越サントスル船舶ハ之ヲ追越船ト爲シ其ノ後兩船ノ位置ニ變更ヲ來スモ其追越船ヲ以テ本法ノ航路横切船トナサス故ニ其ノ船ハ他船ヲ全ク追越シ了ルマテ他船ノ航路ヲ避クヘキモノトス

第二十五條 汽船狹隘ノ水道ニ於テ無難ニ通航シ得ルトキハ其中流ノ右側即チ本船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スヘシ
第二十六條 航行中ノ帆船ハ綱或ハ繩ヲ用キテ漁業ニ従事スル帆船ノ航路ヲ避クヘシ但シ漁船ト雖モ猥ニ他船ノ通行スヘキ線路ヲ妨クヘカラス

第二十七條 本法ヲ履行スルニ當リ運航及衝突ニ關シ百般ノ危險ニ注意スルハ勿論若シ危險切迫シテ本法ヲ履行シ能ハサル特殊ノ場合ニ於テハ其危險ヲ避クル爲メ臨機ノ處置ヲ爲スコトニ注意スヘシ

航路信號

第二十八條 本條中短聲トハ大約一秒時間ノ發聲ヲ謂フ
航行中ノ汽船他船ニ近寄り鉞路ヲ變セントスルトキハ汽笛若クハ汽角ヲ以テ左ノ信號ヲ爲シ他船ニ我船ノ鉞路ヲ通知スヘシ

短聲一發我船針路ヲ右舷ニ取ル
短聲二發我船針路ヲ左舷ニ取ル
短聲三發全速力ニテ後退ス

懈怠ノ責

第二十九條 本法ハ點燈、信號又ハ見張ノ怠リ其他海員ノ常務又ハ臨機ノ處置ニ必要ナル注意ノ怠リヨリ生シタル結果ニ付船、船主、船長、海員ヲシテ其ノ責ヲ免レシメサルモノトス

特例

第三十條 本法地方長官ニ於テ規定シタル港、川其他内海ノ運航ニ關スル特別規則ノ施行ヲ妨ケス

難船信號

第三十一條 危難ニ罹リテ他船又ハ陸地ヨリ救助ヲ要スル船舶ハ左ノ信號ヲ同時又ハ別々ニ使用スヘシ

晝間信號

- 一 大約一分時ノ間隙ヲ以テ砲又ハ其他ノ爆裂發火信號ヲ一發ス
- 二 萬國船舶信號書ニ掲載スルNCノ信號ヲ表示ス
- 三 方形旗ノ上又ハ下ニ球若ハ之ニ類似ノモノヲ掲クル遠隔信號ヲ表示ス
- 四 尖端ヲ上ニシタル圓錐形ノ上又ハ下ニ球若ハ類似ノモノヲ揚クル遠距離信號ヲ表示ス
- 五 霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス
夜中信號
- 一 大約一分時ノ間隙ヲ以テ砲又ハ其他ノ爆裂發火信號ヲ一發ス
- 二 船上發焰 (タール桶油樽等ヲ燃燒スルノ類)
- 三 星火ヲ發スル榴彈火箭ヲ一次一發ツ、度々打揚ク
- 四 霧中信號器ヲ以テ間斷ナク音響ヲ發ス

附則

第三十二條 本法中船舶積量噸數ニ關シ日本形船ハ十石ヲ以テ一噸ニ通算ス
 第三十三條 本法ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス
 第三十四條 明治十三年七月第三十五號布告海上衝突豫防規則同十四年五月

第三十三號布告同規則追加同十八年八月第二十七號布告同規則改正追加本法施行ノ日ヨリ廢止ス

大阪府水路取締規則

明治四十三年公布

(府令)

三百三十二

第一章 通則

第一條

本則ニ於テ水路ト稱スルハ河川運河及港灣ヲ謂フ

第二條

水路ニ於テハ左ノ行爲ヲ禁ス
水制、測量標、量水標、檢潮標、檢潮器、水道取水塔、水管橋、瓦斯管橋、電纜橋及其保護杭ニ船筏ヲ繫留シ又ハ之ニ障害ヲ及ホスヘキ行爲ヲ爲スコト

三

他船ニ引曳セラル、船筏ノ操舵ヲ忽ニスルコト

二

「テントウ」船、劍先船、三十石船其ノ他之ニ類スル船舶若ハ長二十

四

尺以上ノ筏船ヲ船夫又ハ筏夫一人ニテ運航スルコト

五

船体不相當ト認ムヘキ重量物件ヲ搭載航行スルコト

六

船筏、竹木等ノ繫留ヲ忽ニスルコト

七

土砂、瓦石、石炭殻、塵芥、木炭等ヲ投棄スルコト

八

他ノ船筏等ニ爲口類ヲ鈎シテ運航スルコト

九

大阪市、堺市ニ在リテハ許可外場所ニ於テ游泳ヲ爲スコト
安治川筋、木津川筋及築港ニ於テハ本則ノ指定シタル場所外ニ船舶

第三條

十

ヲ碇泊スルコト
碇泊船舶ニ故ナク看守人ヲ置カサルコト但シ舢舨「テントウ」船其

十一

ノ他之ニ類スル小形船ハ此ノ限ニアラス
入津料取立所、渡船場、巡航船寄航場、汽船繫泊場、船渠、共同

十二

物揚場ノ附近ニ於テ船筏其ノ他ノ物件ヲ繫留スルコト

十三

水路ニ於テ左ノ事項ヲ爲サムトスルトキハ警察官署ノ許可ヲ受クヘ

一

假足場、日覆又ハ構臺ヲ設ケ其ノ他一時水路ヲ使用セムムスルトキ

二

神輿渡御又ハ川施餓鬼ノ類ヲ執行セムトスルトキ

三

積石數二百石以上總噸數二十噸以上ノ船舶ヲ上架又ハ進水セムトス

四

ルトキ
積石數百石以上總噸數十噸以上ノ船舶ヲ解船、修繕、休航、艤裝等

五

ノ爲五日以上繫留セムトスルトキ、筏ニ付亦同シ
多衆ヲ會シ端艇競漕ヲ爲サムトスルトキ

六

淀川筋天滿橋上流ニ於テ長六十尺幅六尺以上其ノ他大阪市内ノ河川

七

ニ於テ長四十五尺幅六尺以上ノ筏又ハ操縦自由ナラサル物件ヲ運航

八

セムトスルトキ

○大阪府水路取締規則

三百三十三

七 舟筏其他ノ物件ヲ連繫シテ運航シ又ハ之ヲ引曳セムトスルトキ

八 火藥類搭載船ヲ碇泊セムトスルトキ

第四條 水路使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ區域、期間及使用者ノ住所氏名ヲ記シタル目標ヲ其ノ賭易キ場所ニ建設スヘシ但シ一時使用ノモノハ此ノ限ニ在ラス

大阪市及其ノ接續町村ニ在リテハ前項ノ目標ニ當該官廳ノ檢印ヲ受クヘシ

第五條 運航中ニ非サル筏ニハ所有者若ハ占有者ノ住所氏名ヲ記シタル目標ヲ其ノ賭易キ箇所ニ掲クヘシ

第六條 船舶ノ航法ハ左ノ規定ニ遵フヘシ

一 航路及ヒ濇筋ニ於テハ其右側ヲ航行スヘシ

二 航路及濇筋ニ於テハ他船ト並航スヘカラス

三 航路及濇筋ニ於テ行達フトキハ互ニ右方ニ避クヘシ若シ之ニ依リ難キ場合ハ上リ船ニ於テ避讓スヘシ

四 航路及濇筋ヲ横切ラムトスル船舶ハ上リ船又ハ下リ船ニ對シ避讓スヘシ

五 汽艇、發動機艇、舢舨、端艇其他櫓櫂ヲ以テ航行スル船舶ハ汽船及帆船ニ對シ避讓スヘシ

六 航路ノ屈角、埠頭、棧橋又ハ碇泊船ニ接シ回航スルトキハ之ヲ右舷ニ見テ航行スルモノハ小廻リヲ爲シ左舷ニ見テ航行スルモノハ大廻リヲ爲スヘシ

第七條 前項ハ之ヲ筏ニ準用ス

第八條 汽笛、汽角又ハ號角ヲ吹鳴スヘカラス

第九條 汽船ハ他船ニ危害ヲ加ヘサル程度ノ速力ニ於テ進行シ特ニ總噸數四十噸以上ノモノ安治川筋第二區第三區木津川第二區内ニ於テハ舵効ヲ失セサル程度ニ於テ徐行スヘシ

第十條 航行中ハ見張ヲ嚴密ニシ若シ帆ヲ揚ケ又ハ積荷高キ等ノ爲前路ヲ見透シ難キトキハ船首ニ見張人ヲ置クヘシ

第十一條 船舶ハ碇ヲ船胸ニ垂下スヘカラス

第十二條 船舶航行中ハ投碇準備トシテ左舷碇ヲ水面以下ニ垂下シ置クヘシ

第十三條 總噸數百噸以上ノ汽船川筋ヲ航行中ハ必要ニ應シ速ニ投入シ得ル様中碇以上ノ碇ヲ船尾ニ準備シ置クヘシ

第十四條 積石數百石以上總噸數十噸以上ノ船舶川筋ニ於テ投碇シタルトキハ浮標ヲ設クヘシ

第十二條 船舶航行中ハ海上衝突豫防法第十條ニ規定セル白燈ヲ船尾ニ掲クヘシ但シ同法第七條乃至第九條ノ船舶ハ白色燈ヲ以テ之ヲ代用スルコトヲ得

海上衝突豫防法第七條第三號第四號ニ該當スル船舶航行中ハ同條第三號ニ規定セル燈火ヲ其ノ前方ニ掲クヘシ

第十三條 碇泊船ハ海上衝突豫防法第十一條ノ規定ニ依ル碇泊燈ヲ表出スヘシ但シ解船、テントウ船其ノ他小形ノ空船ハ航路ニ面シタルモノヲ除クノ外之ニ依ラサルコトヲ得

第十四條 川筋ニ於テ回轉中ノ積石數二百石以上總噸數二十噸以上ノ船舶ハ最モ睹易キ場所ニ晝間ハ萬國信號旗Rヲ夜間前橋ノ頂部ニ紅燈一個ヲ掲クベシ

第十五條 船舶ノ點燈、信號及航行ニ關シテハ前各條ノ外海上衝突豫防法ニ依ルベシ

第十六條 舟筏運航上障害若ハ危險ノ虞アル場所ニ膠砂、沈沒、顛覆シタル船舶其ノ他ノ物件ハ所有者又ハ占有者ニ於テ速ニ之ヲ除却スベシ
前項ノ除却ヲ終ル迄ハ相當ノ標識ヲ設クベシ

第十七條 船夫ハ年齢十八年以上ニシテ身体強壯ノ者タルヲ要ス

第十八條 警察官吏ニ於テ危害豫防又ハ交通上ニ關シ必要アリト認ムルトキハ臨時其ノ處置ニ付キ指示又ハ命令スルコトアルベシ

第十九條 大阪市、堺市及其接續町村ニ於テハ水路ニ臨ミタル屋根、物干窓、手摺等ニ濫褻其ノ他見苦敷物品ヲ懸ケ置クベカラズ

第二十條 本則ニ依ル願届ハ大阪市及其接續町村ニ在リテハ水上警察官署其ノ他ニ在リテハ沿岸地所轉警察官署ニ差出スベシ

第二章 大阪港

第二十一條 大阪港界内ヲ内港、外港ニ區別ス内港ハ築港内ノ海面

外港ハ開港々則ニ定メタル大阪港ノ區域内ヨリ築港内ヲ除キタル海面

第二十二條 内港ヲ左ノ二區ニ區別ス

第一區 築港關門口ヨリ内方ヨリ一千間ノ地點迄

第二區 第一區ヲ除キタル海面

第二十三條 内港ニ出入スル航路ハ關門口兩燈臺ヨリ眞方位北六十五度東、

南六十五度西ニ走ルニ並行線内トシ航路ノ延長ハ防波堤外ニ於テハ該燈臺

ヨリ五百間防波堤内ニ於テハ第一區境界線迄トス安治川筋ニ出入スル内港

ノ航路ハ別ニ之ヲ標示ス

第二十四條 内港第一區中關門口ヨリ航路ニ沿ヒ北側三百間以内ハ燃燒シ易

キ物件ヲ其ノ南側三百間以内ハ傳染病患者ヲ搭載スル船舶ノ碇泊所トシ殘餘ノ區域ハ帆船ノ假泊所トス
内港第二區ハ汽船及帆船ノ碇泊所トス但總噸數三百噸未滿ノ船舶ハ陸岸ニ接近シテ碇泊スベシ

第三章 安治川筋

第二十五條 安治川筋ノ區域ハ安治川口（櫻島運河入口ト天保山燈臺トヲ連絡シタル一線）ヨリ上流春日出橋、端建藏橋及船津橋迄ノ間トシ左ノ三區區別ス

第一區 官設鐵道線堀割口北岸ヨリ直角ニ南岸ニ引キタル一線ト安治川口迄ノ間

第二區 逆川中心ヨリ直角南岸ニ引キタル一線及春日出橋ト第一區境界線迄ノ間

第三區 端建藏橋及船津橋ヨリ第二區境界線迄ノ間

第二十六條 安治川筋ニ於ケル航路ハ濠筋ノ中央ヨリ左右ハ各十間トス

第二十七條 安治川筋第一區ハ空船、荷役未定船、休航船、修繕船及燃燒シ易キ物件ヲ搭載シタル船舶ノ碇泊所トス但シ棧橋ニ繫留スルモノ又ハ警察官吏ノ承認ヲ得タルモノハ此ノ限ニアラス

安治川筋第二區ハ前項以外ノ各種船舶ノ碇泊所トス

安治川筋第三區ハ航洋汽船及稅關ノ手數未濟貨物搭載船ノ碇泊所トス但シ曳船汽船汽艇及舢舨ハ元安治川橋上流北岸ニ碇泊スルコトヲ得

第二十八條 安治川筋ニ於テハ筏ヲ運航スベカラズ但シ警察官署ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 安治川筋第二區第三區ニ於テハ船舶ノ帆走ヲ爲スヘカラス但シ第二區ニ於テハ「テントウ」船、劍先船、其ノ他之ニ類スル小形船ハ此ノ限ニアラス

第四章 木津川筋

第三十條 木津川筋ノ區域ハ木津川口濠標ノ西端ヨリ上流日吉橋及千代崎橋迄ノ間トシ左ノ二區ニ區別ス

第一區 中口町南端ヨリ木津川口濠標ノ西端迄ノ間

第二區 第一區ニ屬セサル區域

第三十一條 木津川筋ニ於ケル航路ハ濠筋ノ中央ヨリ左右ハ各七間トス

第三十二條 木津川筋第一區ハ空船、荷役未定船、休航船、修繕船及燃燒シ易キ物件ヲ搭載シタル船舶ノ碇泊所トス但シ棧橋ニ繫留スルモノ又ハ警察官吏ノ承認ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

木津川筋第二區ハ前項以外ノ各修繕船ノ碇泊所トス

第三十三條 木津川筋第二區ニ於テハ船舶ノ帆走ヲ爲スヘカラス

第五章 罰則

第三十四條 第三條第八號、第六條、第八條及第九條ニ違背シタル者及第十條第一項ノ除却ヲ怠リタル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

第三十五條 第二條第一號乃至第七號、第九號乃至第十一號、第三條第一號乃至第七號第四條、第五條、第七條、第十條第一項、第二十八條、第二十九條第三十三條ニ違背シタル者ハ二十日以下ノ拘留又ハ十五圓以下ノ科料ニ處ス

第三十六條 第二條第八號、第十九條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

第三十七條 第三條ノ科料ニ關スル罰則ハ法人ニ在リテハ其ノ代表者、犯罪無能力者ニ在リテハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス

◎水難救護法

明治三十二年(法律) 公 布

第一章 遭難船舶

第一條 遭難船舶救護ノ事務ハ最初ニ事件ヲ認知シタル市町村長之ヲ行ス
第二條 遭難船舶アルコトヲ發見シタル者ハ遲滯ナク最近地ノ市町村長又ハ警察官吏ニ報告スヘシ警察官吏ニ於テ報告ニ接シタルトキハ市町村長ニ通知スヘシ

第三條 遭難船舶アルコトヲ認知シタルトキハ市町村長ハ直ニ現場ニ臨ミ救護ニ必要ナル處分ヲ爲スヘシ

第四條 警察官吏ハ救護ノ事務ニ關シ市町村長ヲ助ケ市町村長現場ニ在ラサルトキハ之ニ代リ其職務ヲ執行スヘシ

第五條 救護ハ船長ノ意ニ反シテ之ヲ爲スコトヲ得ス
前項ノ規定ハ市町村長ニ於テ船長ノ人命ヲ保護スル手段ヲ不充分ナリト認メ又ハ船長ニ惡意アリト認メタル場合ニハ之ヲ適用セス

第六條 市町村長ハ救護ノ爲人ヲ招集シ船舶車馬其ノ他ノ物件ヲ徵用シ又ハ他人ノ所有地ヲ使用スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ招集セラレタル者ハ市町村長ノ指揮ニ從ヒ救護ニ從事

スヘシ

第七條 市町村長ハ救護ニ際シ必要ナラスト認ムル者、妨害ヲ爲シタル者又ハ不正ノ行爲ヲ爲シタル者ヲ退去セシムルコトヲ得

市町村長ハ救護ニ際シ暴行ヲ爲シタル者ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得
市町村町前項ノ處分ヲ爲スニ當リ助力ヲ命セラレタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得

第八條 市町村長ハ救護ニ際シ遭難物件ヲ隠匿シタル者アリト認ムルトキハ其ノ物件ヲ搜索シ又ハ之ヲ差押フルコトヲ得

第九條 市町村長ハ遭難船舶其ノ他救上ケタル物件及前條ノ規定ニ依リ差押ヘタル物件ヲ保管スヘシ
前項ノ物件中ニ郵便物アルトキハ市町村長ハ遲滞ナク最近ノ郵便局ニ引渡スヘシ

第十條 船長ハ遭難後遲滞ナク船難報告書ヲ作り市町村長ニ差出スヘシ但シ船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ要セサル船舶又ハ湖川港灣ノミヲ限リ航行スル船舶ノ遭難ニ付テハ此ノ限ニアラス

市町村長ハ報告書ノ事實ヲ審査シ相當ト認ムルトキハ船長ノ請求ニ依リ認證ヲ與フヘシ

市町村長ハ報告書ノ事實ヲ審査スル爲船内書類ノ提出ヲ命シ又ハ船員、旅客其ノ他船中ニ在リタル者ヲ呼出シ訊問ヲ爲スコトヲ得

第十一條 市町村長ハ救上ケタル物件左ニ掲クル事項ノ一ニ該當スト認メタルトキハ之ヲ公賣シ其ノ代金ヲ保管スヘシ

- 一 物件久ニ耐ヘ難キコト又ハ著シク其ノ價格ヲ減スル虞アルコト
- 二 爆發物、容易ニ燃燒スヘキ物又ハ其ノ他ノ物件ニシテ保管上危険ノ虞アルコト
- 三 保管ノ費用其ノ物件ノ價格ニ超過シ又ハ其ノ價格ニ比シ不相當ナルコト

前項ノ規定ニ依リ公賣ヲ爲サントスル場合ニ於テ船長其ノ地ニ在ルトキハ市町村長ハ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ市町村長ノ相當ト認ムル擔保ヲ供シテ物件ノ引渡ヲ請求セサルトキハ公賣ニ付スヘキ旨ヲ船長ニ告知スヘシ
遭難船舶ノ所在地船籍港ナルトキハ前項ノ告知ハ船舶所有者ニ之ヲ爲スヘシ
船長又ハ船舶所有者ニ於テ第二項ノ規定ニ依リ物件ノ引渡ヲ請求シタルトキハ公賣ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 救護ニ關係シタル者ハ市町村長ヨリ救護費用ノ支給ヲ受クルトヲ得

前項ノ規定ハ左ニ掲クル者ニハ之ヲ適用セス

- 一 救護セラレタル船舶ノ所有者又ハ其ノ船舶ノ船員
- 二 故意、懈怠又ハ過失ニ因リ遭難ヲ惹起シタル者
- 三 第五條ノ規定ニ違反シテ救護シタル者
- 四 救護ニ際シ妨害ヲ爲シ又ハ不正ノ行爲ヲ爲シタル者
- 五 遭難物件ヲ持去リ又ハ其ノ引渡ヲ拒ミタル者

第十三條 左ニ掲クルモノヲ以テ救護費用トス

- 一 救護ニ關係シタル者ノ勞務ノ報酬
- 二 第六條ノ規定ニ依ル土地ノ使用又ハ物件ノ徵用ニ對スル補償
- 三 救上ケタル物件ノ運搬、保管又ハ公賣ニ要シタル費用

第十四條 救護費用ノ支給ヲ受ケントスル者ハ市町村長ノ指定スル期間内ニ其ノ金額ヲ申立ツヘシ

第十五條 救護費用ノ金額ハ命令ノ規定ニ依リ市町村長之ヲ定ム

市町村長ハ救護費用ノ金額ヲ船長ニ告知シ期間ヲ定メテ之ヲ納付セシム

遭難船舶ノ所在地船籍港ナルトキ又ハ船長在ラザルトキハ前項ノ告知ハ船舶所有者ニ之ヲ爲スヘシ

第十六條 船長又ハ船舶所有者ハ救護費用ヲ納付シテ市町村長ノ保管ニ係ル金錢其ノ他ノ物件ノ引渡ヲ受クヘシ

船長又ハ船舶所有者ニ於テ市町村長ノ相當ト認ムル擔保ヲ供スルトキハ前項ノ金錢其ノ他ノ物件ノ全部若ハ一部ノ引渡ヲ受クルコトヲ得

- 一 船員ノ所持品
- 二 船員及旅客ノ食料
- 三 運送賃ヲ支拂フコトナクシテ船中ニ携帯スル旅客ノ手荷物

第十七條 第二項ニ掲クル物件

市町村長ノ保管スル船舶又ハ積荷ヲ賣却シ抵當ト爲シ又ハ質入セントスルトキハ市町村長ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テ市町村長必要アリト認ムルトキハ之ニ立會フヘシ

市町村長ニ於テ第十一條又ハ前項ノ規定ニ依リ金錢ヲ保管スル場合ニ其ノ金錢救護費用ノ金額ニ達シタルトキハ直ニ其ノ金錢ヲ以テ救護費用ヲ支辨シ其ノ殘額ハ保管ニ係ル他ノ物件ト共ニ船長又ハ船舶所有者ニ引渡スヘシ

第十七條 船長又ハ船舶所有者ニ於テ市町村長ノ定メタル期間内ニ救護費用ヲ納付セサルトキハ市町村長ハ保管ノ物件又ハ擔保トシテ差出シタル物件ヲ公賣シ其ノ代金ヲ保管スヘシ

前項ノ規定ハ市町村長ニ於テ公賣ヲ爲スモ其ノ代金ヲ以テ公賣ノ費用ヲ償フニ足ラスト認メタル物件ニハ之ヲ適用セス

第十八條 市町村長ハ納付ヲ受ケタル金額又ハ其ノ保管ニ係ル金錢ヲ以テ救護費用ヲ支辨スヘシ

第十九條 救護其ノ效ヲ奏セサルトキハ救護費用ハ國庫ヨリ之ヲ支給ス船長又ハ船舶所有者救護費用ヲ納付セサル場合ニ於テ第十七條ニ定ムル手續ヲ爲シタル後市町村長ノ保管ニ係ル金錢ヲ以テ救護費用ヲ支辨スルニ足ラサルトキハ國庫ヨリ之ヲ補給シ殘餘アルトキハ船長又ハ船舶所有者ニ之ヲ還付ス

第二十條 本章ノ規定ハ市町村長ノ招集ヲ待タスシテ救護ニ從事シタル者

ニ亦之ヲ適用ス但シ市町村長ニ於テ救護ニ干與セサルトキハ此ノ限ニアラス

第二十一條 本章中船長ニ關スル規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニ亦之ヲ適用ス

第二十二條 第一條乃至第四條、第五條第一項、第六條乃至第九條、第十二條乃至第十四條、第十五條第一項第二項、第十八條、第十九條第一項、第二十條及第二十一條ノ規定ハ海軍艦船其ノ他官廳ノ所有スル船舶ニ亦之ヲ適用ス

第二十三條 本章ノ規定ハ條約ニ別段ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セス

第二章 漂流物及沈沒品

第二十四條 漂流物又ハ沈沒品ヲ拾得シタル者ハ遲滯ナク之ヲ市町村長ニ引渡スヘシ但シ其ノ物件ノ所有者分明ナル場合ニ於テハ拾得ノ日ヨリ七日以内ニ限り直ニ其ノ所有者ニ引渡スコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ拾得者ハ所有者ヨリ河川ニ漂流スル材木ニ在リテハ其ノ價格ノ十五分ノ一、其ノ他ノ漂流物ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ十分ノ一、沈沒品ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額以内ノ報酬ヲ受クルコトヲ得

第二十五條 市町村長ハ引渡ヲ受ケタル物件ヲ保管スヘシ

市町村長ハ前項ノ物件ヲ所有者ニ引渡スヘキコトヲ公告スヘシ但シ其ノ所有者知レタルトキハ公告スヘキ事項ヲ直ニ其ノ所有者ニ告知スヘシ此ノ場合ニ於テハ公告ヲ須キサルコトヲ得

第二十六條 第十一條第一項ノ規定ハ漂流物及沈没品ニ之ヲ準用ス

第二十七條 市町村長ニ於テ第二十五條ノ公告又ハ告知ヲ爲シタル日ヨリ一箇年以内ニ限り所有者ハ河川ニ漂流スル材木ニ在リテハ其ノ價格ノ十分ノ一、其ノ他ノ漂流物ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ十分ノ一、沈没品ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額竝公告、保管、公賣又ハ評價ニ要シタル費用ヲ市町村長ニ納付シテ物件ノ引渡ヲ受クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ市町村長ハ拾得者ニ河川ニ漂流スル材木ニ在リテハ其ノ價格ノ十分ノ一、其ノ他ノ漂流物ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ十分ノ一、沈没品ニ在リテハ其ノ物件ノ價格ノ三分ノ一ニ相當スル金額ヲ支給ス
物件ノ價格ハ市町村長之ヲ定ム但シ鑑定人ヲシテ之ヲ評價セシムルコトヲ得

第二十八條 前條ノ期間内ニ所有者物件ノ引渡ヲ請求セサルトキ又ハ物件

ノ引渡ヲ請求セサル意思ヲ表示シタルトキハ市町村長ハ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ受クヘキコトヲ取得者ニ告知スヘシ

取得者ハ前項ノ期間内ニ公告、保管、公賣又ハ評價ニ要シタル費用ヲ市町村長ニ納付シ物件ノ引渡ヲ受クルニ因リテ其ノ所有權ヲ取得ス

取得者ニ於テ前項ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ受ケサルトキハ市町村長ハ其ノ物件ヲ公賣シ其ノ代金ヨリ前項ノ費用ヲ控除スヘシ此ノ場合ニ於テ殘餘アルトキハ國庫ノ取得トシ不足アルトキハ國庫ヨリ之ヲ補給ス

第二十九條 警察官吏ニ於テ航路、錨地又ハ建造物ニ障害ヲ爲スト認メタル漂流物又ハ沈没品ヲ取除キタル場合ニ於テハ警察官吏ハ其ノ物件ヲ市

町村長ニ引渡スヘシ
前項ニ依リ市町村長ニ於テ引渡ヲ受ケタル物件ニ付テハ第十一條第一項

及第二十五條第二項ノ規定ヲ適用ス

第三十條 前條ニ依リ公告若クハ告知ヲ爲シタル日ヨリ一箇年以内ニ所有者物件ノ引渡ヲ請求シタルトキハ市町村長ハ所有者ヲシテ取除、保管及公告ニ要シタル費用ヲ納付セシメ之ニ其ノ物件ヲ引渡スヘシ
前項ノ期間内ニ物件ノ引渡ヲ請求スル者ナキトキハ市町村長ハ其ノ物

ヲ公賣シ其ノ代金ヲ以テ取除、保管、公告及公賣ニ要シタル費用ヲ支辨スヘシ此ノ場合ニ於テ殘餘アルトキハ國庫ノ取得トシ不足アルトキハ國庫ヨリ之ヲ補給ス

第三章 罰 則

第三十一條 遭難船舶救護ノ場合ニ於テ左ノ各號ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 正當ノ理由ナクシテ市町村長ノ招集ニ應セス又ハ物件ノ徵用若クハ土地ノ使用ヲ拒ミタル者

二 第六條第二項ノ規定ニ違反シタル者

三 第七條第三項ノ規定ニ違反シタル者

第三十二條 遭難船舶救護ノ場合ニ於テ妨害ヲ爲シタル者ハ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十三條 第十條第一項ノ手續ヲ爲スコトヲ怠リタル者ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 詐偽ノ所爲ヲ以テ船難報告書ニ認證ヲ受ケタル者ハ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條ノ一 刑法第三百八十五條及第三百八十七條ノ規定ハ沈沒品ニ

亦之ヲ適用ス

第三十五條ノ二 漂流ノ物件ニ對シ現存スル記號ヲ塗抹毀損シ若クハ新ニ

附記押捺シタル者ハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第三十六條 此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十七條 明治三年二月二十九日不用港場規則難船救助心得方條目、明治四年四月二

十二日外國船漂著ノ節取扱方、明治八年第六十六號布告及明治十年第五

十五號布告ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十八條 此ノ法律施行ノ際明治八年第六十六號布告ニ依リ處分中ノ事

件ニ付テハ其ノ處分ヲ終ルマテ該布告ノ規定ヲ適用ス

第三十九條 此ノ法律ニ於ケル市町村長ノ事務ハ東京市、京都市及大阪市

ニ於テハ區長之ヲ行ヒ市制町村制ヲ施行セル地ニ於テハ戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

◎ 水難救護法施行細則

明治三十二年公布(省令)

第一章 遭難船舶

第一條 水難救護法第十條ニ定メタル船難報告書ニハ左ノ事項ヲ記載シ船

水難救護法

長之ニ署名捺印スヘシ

- 一 船舶ノ種類及名稱
 - 二 總噸數又ハ積石數
 - 三 船籍港
 - 四 船舶所有者ノ氏名又ハ名稱
 - 五 發航港、寄航港、到達港及遭難ノ場所
 - 六 遭難及救護ノ顛末
 - 七 船舶ノ損害
 - 八 死傷者ノ氏名
 - 九 滅失若クハ毀損シタル積荷ノ種類、重量若クハ容積、其荷造ノ種類、箇數、記號及備船者若クハ荷送人ノ氏名若クハ名稱
- 第二條 船難報告書ヲ記載スルニ當リ文字ヲ訂正、挿入又ハ削除シタルトキハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ船長之ニ認印シ訂正又ハ削除シタル文字ハ之ヲ讀ミ得ヘキ様字體ヲ存スヘシ
- 第三條 船長船難報告書ニ認證ヲ受ケントスルトキハ該報告書二通ヲ差出スヘシ
- 第四條 市町村長船難報告書ニ記載シタル事實ヲ正當ナリト認メタルトキ

ハ其一通ノ末尾ニ記載事項ノ相違ナキコトヲ認證スル旨及年月日ヲ附記シ署名捺印ノ上船長ニ還付シ他ノ一通ハ當該役場ニ之ヲ保存スヘシ

第五條 市町村長ニ於テ水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ指定スル期間ハ救護ノ終リタル後直ニ救護人ヲ集メテ之ニ告知シ又ハ遲滞ナク一定ノ場所ニ之ヲ揭示スルモノトス

第六條 水難救護法第十四條第一項ノ規定ニ依リ救護費用ノ金額ヲ申立ツルニハ書面又ハ口頭ヲ以テ其金額及之ヲ算出シタル事由ヲ示スヘシ

第七條 市町村長ハ地方習慣上ノ賃錢ヲ基礎トシ各人ノ爲シタル勞務ノ種類、時間ノ長短、危險ノ程度及被害ノ大小ヲ斟酌シテ勞務ノ報酬ヲ定ムヘシ

地方習慣上ノ賃錢ハ市町村長ニ於テ豫メ之ヲ定メ當該地方長官ノ認可ヲ受ケ其金額ヲ定率ト爲スヘシ

市町村長ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ前項ノ定率ヲ變更スルコトヲ得

第八條 海軍艦船其他官廳ノ所有スル船舶ノ救護費用ヲ請求セントスルトキハ市町村長ハ救護費用計算書ヲ調製シ之ヲ其艦長又ハ船長ニ差出スヘシ

第九條 船長、船舶所有者其他利害關係人ハ救護費用ノ算定ニ關シ市町村

長ノ調製シタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第二章 漂流物及沈没品

第十條 水難救護法第二十四條第一項ノ市町村長トハ拾得地ノ市町村長ヲ謂ヒ航海中ニ拾得シタル場合ニ在リテハ其後最初ニ到著シタル地ノ市町村長ヲ謂フ

第十一條 水難救護法第二十五條第二項ニ定メタル公告ハ物件ノ品質及價格ニ準シ揭示又ハ新聞紙掲載其他市町村長ノ適當ト認ムル方法ニ依リ品名數量、拾得ノ日時及場所ヲ明示スヘシ

第十二條 水難救護法第二十七條第一項ノ規定ニ依リ所有者ニ於テ物件ノ引渡ヲ申請スルトキハ其物件ニ對スル自己ノ權利ヲ市町村長ニ説明スヘシ

第三章 公賣

第十三條 水難救護法第十一條第一項、第十七條第一項、第二十八條第三項及第三十條第二項ニ規定スル公賣ハ入札ノ方法ヲ以テ行フヘシ

第十四條 市町村長公賣ヲ爲サントスルトキハ豫メ左ノ事項ヲ公告スヘシ
一 物件ノ種類、數量及品質
二 公賣ノ場所及年月日時

公告ノ方法ニ付テハ第十一條ノ規定ニ依ル

第十五條 水難救護法第十七條第一項ノ規定ニ依リ公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ遭難船舶ノ船長又ハ所有者ハ公賣ニ立會フコトヲ得

附則

第十六條 本則ハ水難救護法施行ノ日ヨリ施行ス

第十七條 明治九年^{十二月}第百十七號達ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

◎海港檢疫法

明治三十二年公布
明治四十年改正 (法律)

第一條 海外諸港及臺灣ヨリ來ル船舶ニ對シテハ傳染病豫防ノ爲檢疫ヲ施行ス

檢疫ヲ施行スヘキ海港及傳染病ノ種類ハ内務大臣之ヲ指定ス

第二條 海外諸港及臺灣ヨリ檢疫ヲ施行スル港ニ來ル船舶ハ其ノ入港前ニ於テ此ノ法律ニ依リ檢疫ヲ受ケ許可證ヲ得タル後ニ非レハ其ノ港ニ入港シ陸地又ハ他船ト交通シ船客乗組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ船舶ニシテ入港後傳染病患者ヲ發生シタルトキハ檢疫官吏ノ指定

ニ從ヒ更ニ檢疫ヲ受ケ許可證ヲ得ルニ非レハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ船客乗組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 船長其ノ他ノ乗組員及船客ハ檢疫官吏ノ尋問ニ對シテ之ニ應答シ又船長其ノ他ノ乗組員ハ檢疫官吏ノ請求アルトキハ所定ノ式紙ニ事實ヲ記入シ其ノ氏名ヲ署シタル明告書ヲ差出スヘシ

船長ハ檢疫官吏ノ請求ニ應シテ航海日誌ヲ示シ且船内ノ各部ヲ開キ検査ヲ受クヘシ但シ船内ハ航海中船客又ハ乗組員ニテ占居シタルトキ又ハ他ノ事故ニ依リテ傳染病毒ニ汚染シタル疑アルトキニ限り其ノ検査ヲ受クヘシ

第四條 海外諸港及臺灣ヨリ檢疫ヲ施行スル港ニ來ル船舶ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ其ノ入港前ヨリ許可證ヲ得ルマテ檢疫信號ヲ掲クヘシ

- 一 現ニ傳染病患者若クハ死者アルモノ
 - 二 航海中傳染病患者若クハ死者アルモノ
 - 三 傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ若クハ傳染病毒ニ汚染シタル船舶ト交通シ其他傳染病毒ニ汚染シタル疑ヒアルモノ
- 第二條第二項ノ船舶ハ患者發見ノ時ヨリ許可證ヲ得ルマテ檢疫信號ヲ掲

クヘシ

檢疫信號ハ晝間ハ船舶ノ前橋頭ニ黃旗ヲ掲ケ夜間ハ同所ニ紅白ニ燈ヲ連掲スルモノトス

第五條 海外諸港及臺灣ヨリ檢疫ヲ施行セサル港ニ來ル船舶ニシテ第四條第一項ノ各號ノ一ニ該當スルモノ又ハ其ノ港内ニ碇泊中傳染病患者ヲ發シタルモノハ前條ノ規定ニ從ヒ檢疫信號ヲ掲ケ其ノ他ノ警察官吏ニ届出指揮ヲ待ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ警察官吏ノ命アルトキハ直ニ檢疫ヲ施行スル港ニ回航シテ檢疫ヲ受クヘシ

第一項ノ場合ニ於テ警察官吏ノ指揮アルマテハ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ船客乗組員ノ上陸、物件ノ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

警察官吏ニ於テ第一項ノ事實アリト認メ其旨ヲ告知シタル場合又前二項ニ同シ

第六條 檢疫官吏ハ第一條ノ船舶ニ對シ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 現ニ傳染病患者若クハ死者アルモノハ停船ヲ命シ患者死者ノ處分ヲ指示シ船舶其ノ他ノ消毒方法若ハ鼠族ノ驅除ヲ施行シ且必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル期間船客乗組員ヲ檢疫所又ハ船中

- ニ停留スルコト
- 二 航海中傳染病患者若クハ死者アリタルモノハ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト
- 三 傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經テ來航シ若クハ其ノ船舶ニ傳染病毒ノ汚染シタル疑アルモノハ必要アリト認ムルトキ第一號ノ規定ニ準シテ處分スルコト
- 四 停船中傳染病患者ヲ發生スルトキハ更ニ第一號ノ規定ニ依リ處分スルコト
- 五 傳染病ノ疑アル患者アルトキハ二日ヨリ多カラサル期間停船ヲ命スルコト
- 六 發航地若クハ寄航地ノ狀況又ハ船舶ノ狀態ニ依リ消毒方法又ハ鼠族ノ驅除ヲ施行スルコト
- 第七條 停船ヲ命セラレタル船舶ハ檢疫官吏ノ指示シタル場所ニ碇泊シ其ノ許可ヲ得ルニ非レハ他ニ移轉スルコトヲ得ス
- 第八條 檢疫所ニ移轉セシメラレタル船客乗組員ハ檢疫官吏ノ許可ヲ得ルニ非レハ本船其ノ他ト交通シ若ハ物件ヲ搬出スルコトヲ得ス
- 第九條 船舶及物件ノ消毒又ハ鼠族ノ驅除ハ檢疫官吏之ヲ施行シ船長其ノ

他ノ乗組員ハ其ノ施行上ニ關シ之ヲ補助スルノ義務アリ
前項ノ消毒又ハ鼠族驅除ニ關スル費用ハ船主船長若ハ其ノ代理人ヨリ徵收ス

第十條 檢疫所ニ移轉セシメラレタル者ノ食費及患者死者ニ關スル費用ハ其ノ乗組員ニ屬スルモノハ船長若ハ其ノ代理人ヨリ其ノ船客ニ屬スルモノハ本人ヨリ之ヲ徵收ス
本條及第九條第二項ノ費額及其ノ徵收ニ關シ必要ノ規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條ノ二 檢疫官吏ハ職務執行上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ船舶ニ乗組ムコトヲ得

第十一條 第二條第五條第七條第八條ノ規定ニ違背シタルモノハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 此ノ法律ノ執行ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨害シ又ハ檢疫官吏ノ尋問ニ對シテ答辨ヲ爲サス若ハ虛偽ノ事實ヲ答辨シ又ハ其ノ命令ニ從ハサル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
船長若ハ船長ノ職務ヲ行フ者前項ノ罪ヲ犯シ又ハ船客乗組員ノ之ヲ犯スヲ知テ制止セサルトキハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第十三條 内外國ノ軍艦ニシテ檢疫ヲ施行セル港ニ來航スルニ當リ第四條第一項各號ニ該當スル事實ナキトキハ其ノ艦長及醫官ヨリ書面ヲ以テ檢疫官吏ニ其ノ旨ヲ明告スヘシ

内外國ノ軍艦ニシテ第二條第二項第四條第一項各號ノ一ニ該當スル事實アルモノハ檢疫官吏ニ於テ其ノ艦ト陸地又ハ他船トノ交通乗組員ノ上陸物件ノ陸揚ヲ制限スルコトヲ得又同上ノ軍艦ニシテ第五條ノ規定ニ該當スル場合ハ其ノ地ノ警察官吏ニ於テ以上ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二條第二項及第五條ニ該當スル事實アルトキハ艦長及醫官ヨリ其ノ旨ヲ檢疫官吏又ハ警察官吏ニ通知スヘシ

前三項ノ外軍艦ニ對スル檢疫ハ檢疫官吏ニ於テ艦長ト協議シ此ノ法律ノ規定ニ準シテ執行スルモノトス

第十四條 此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 明治十二年第二十九号布告明治十五年第三十一号布告明治二十四年勅令第六十五號明治二十七年勅令第五十六號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

◎海港檢疫法施行規則

明治三十二年公布 明治三十七年迄數度改正(省令)

第一條 檢疫ヲ施行スル海港ハ横濱港、神戸港、長崎港、門司港、下ノ關港、若松港及口ノ津港ト其他ノ海港ニ於テ臨時ニ檢疫ヲ施行スルトキハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

下ノ關港若松港ニ來ル船舶ハ門司海港檢疫所ノ檢疫ヲ受クヘシ

横濱港ニ於テ檢疫ヲ受ケタル船舶ニシテ消毒ヲ要スルトキハ長濱ニ口ノ津港ニ於テ檢疫ヲ受ケタル船舶ニシテ消毒ヲ要スルトキハ女神ニ回航セシム

海港檢疫所ニ於テ消毒ヲ施行シ能ハサル場合ハ内務大臣ハ消毒ノ必要アル船舶ヲ他ノ海港檢疫所ニ回航セシムルコトヲ得

第二條 檢疫ヲ施行スル傳染病ハ虎列刺、痘瘡、猩紅熱、「ペスト」、黃熱トス其他ノ傳染病ニ對シ臨時檢疫ヲ施行スルトキハ告示ヲ以テ之ヲ指定ス

第三條 海港檢疫法第六條第一項第一號ノ停船期間ハ消毒法ノ施行ヲ了リタル時ヨリ起算シ「ペスト」ハ十日間、虎列刺、黃熱ハ五日間トス但同號三號ノ場合ニ於テハ傳染病流行地ヲ發シ又ハ其地ヲ經過シ若ハ傳染病毒ニ汚染シタリト疑フヘキ事實アリタル時ヨリ起算ス

帝國ノ海港檢疫所ニ於テ消毒又ハ停船ノ處分ヲ受ケ其後異狀ナキモノハ再ヒ停船又ハ消毒セララルコトナシ

傳染病施行地ハ其都度告示ヲ以テ之ヲ指定ス

第四條 海港檢疫法ニ依リテ交付スル許可證ハ其處分ノ如何ニ依リ第一號乃至第三號様式ニ據ル明告書ハ第四號様式ニ據ル

第五條 傳染病及其疑アル患者ハ海港檢疫所ノ隔離室ニ入ラシムルコトヲ得

第六條 海港檢疫所ノ停留所ニ移轉セシメタル船客又ハ乗組員ハ第三條第一項ノ期間之ヲ停留ス若其船客若ハ乗組員ニ傳染病ヲ發シタルトキハ其全部又ハ一部ノ人員ニ對シ更ニ第三條第一項ノ期間停留ヲ繼續ス但其船舶ニ及ホスコトナシ

第七條 死體ハ所定ノ場所ニ於テ火葬シ其遺骨ハ引受人又ハ船長若ハ其代理人ニ引渡スヘシ若引受人ナク船長若ハ其代理人在ラサルカ又ハ引受ヲ拒ムトキハ行旅病人及死亡人取扱法ニ依リ處分スヘシ

親族又ハ縁故アル者ヨリ死體引渡ヲ願出タルトキハ病毒傳播ノ虞ナシト認ムル場合ニ限リ之ヲ許可スルコトヲ得

第八條 海港檢疫法第五條ノ場合ニ於テハ警察官吏ハ最寄檢疫所ニ回航セ

シムヘシ但船長若ハ其代理人ノ申出アルトキハ本條第二項第三項ニ依リ處分スルコトヲ得

警察官吏若シ其船舶ノ檢疫ヲ施行スル海港ニ回航シ難シト認ムル場合又ハ相當ノ處置ヲ爲シ得ヘシト認ムル場合ニ於テハ最寄檢疫所ニ回航セシメス船長及其他ノ乗組員ヲシテ相當ノ消毒法ヲ施行セシムルコトヲ得此場合ニ於ケル費用ハ船主、船長又ハ其代理人ノ負擔トス

前項ノ場合ニ於テ患者ヲ隔離スルノ必要アリト認メタルトキハ本人又ハ船主、船長若ハ其代理人ヲシテ實費ヲ仕拂ハシメ所定ノ場所ニ收容スルコトヲ得

第九條 消毒費ハ左ノ區別ニ依リ徵收ス但内外國軍艦及帝國陸軍部隊ニ關スルモノハ此限ニアラス

登簿噸數百噸未滿	拾圓
同 百噸以上千噸未滿	貳拾圓
同 千噸以上二千噸未滿	參拾圓
同 二千噸以上一千噸未滿ヲ増ス毎ニ拾圓ヲ加フ	拾圓
積荷消毒費	一箇ニ付 錢

船客乘組員ノ衣服、手荷物、所特品ノ消毒費

一、二等船客及之ニ
 準スヘキ乗組員
 三人分ニ付 壹圓
 三人分ニ付 拾錢
 スヘキ乗組員

第十條 海港檢疫所ニ移轉セシメタル者ノ食費及患者死者ニ關スル費用、徵收額ハ地方長官之ヲ定ム

附則

第十一條 大和船漁船等ニ對シテハ此規則ヲ適用セス
 第一號樣式、第二號樣式、第三號樣式許可証ハ略ス
 第四號樣式

明告書

一、船籍	船種	船名
二、總噸數	登簿噸數	
三、船主又ハ其代理人		
四、發航地名	發航	月 日
五、寄港地名	發著	月 日

六、船客

一等船客	男	女	名
二等船客	男	女	名
三等船客	男	女	名
其他ノ船客	男	女	名
計	男	女	名

七、乘組員事務員以上ノ船員

水、火、夫、雜、役、夫 名 名

八、飲料水ヲ汲入レ若ハ食料ヲ積入レタル地名

九、積荷ノ種類及搭載セシ地名

十、積荷中襪、古綿等ノ有無若アラハ其搭載地名

十一、出向地

十二、航海中寄港中及現在船中ニ「ベスト」、虎列刺、黃熱、痘瘡、猩紅熱若ハ該病疑似症ノ有無

十三、航海中寄港中及現在船中ニ「ベスト」、虎列刺、黃熱、痘瘡、猩紅熱ノ外病者ノ有無若アラハ其病名

十四、航海中寄港中及現在船中ニ於テ死者ノ有無若アラハ其病名

十五、航海中寄港中「ベスト」、虎列刺、黃熱、痘瘡、猩紅熱アリタル船及疑ハシキ船トノ交通ノ有無

海港檢疫法施行細則

十六、他港ニ於テ検査消毒停船ノ有無
右之通相違無之候也

年月日

某海港疫疫所
御中
船長 某某
印

◎火藥類船舶運送及貯藏規則

明治四十(省令)
四年公布

第一條 船舶ニ依リ火藥類ヲ運送シ又ハ船舶ニ常用火藥類ヲ貯藏スルトキハ本規則ヲ遵守スヘシ

第二條 本規則ハ船舶ノ全部ヲ以テ軍事輸送ノ用ニ供スル場合ニハ之ヲ適用セズ

開港其他ノ港ニ於テ本規則ニ定ムル事項ト同一ノ事項ニ付特別ノ規定アル場合ニ於テハ其事ニ限リ本規則ヲ適用セズ

第三條 火藥類ノ荷送人カ銃砲火藥類取締法施行細則ノ規定ニ依リ當該官廳ノ運搬許可證ヲ受クヘキ場合ニ於テハ船長ハ其許可證ヲ檢閲シタル後ニ非サレハ之ヲ船積スルコトヲ得ス

第四條 火藥類ハ銃砲火藥類取締法施行細則ノ規定ニ依リ容器ニ收納スヘシ但シ軍衙ノ託送ニ係ルモノハ當該軍衙所定ノ容器ニ收納スルコトヲ得前項ノ火藥類ハ其容器又ハ包裝ノ頂部見易キ所ニ火藥、爆藥若ハ火工品ト明瞭ニ朱記シ又ハ朱記シタル標札ヲ附シ且轉帳スルコトヲ得サルモノニ在リテハ其旨ヲ標記スヘシ

第五條 湖川港内ニ於テ火藥類ノ船積若ハ陸揚ヲ爲シ又ハ火藥類ヲ積載スル船舶湖川港内ニ於テ航行碇泊若ハ擊留セントスルトキハ發航地、碇泊地又ハ擊留地ノ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第六條 銃砲火藥類取締法施行細則第十八條各號以外ノ火藥類ハ所轄警察官署ノ許可ヲ得タル場合ヲ除クノ外日没ヨリ日出迄ノ間ニ於テ船積、陸揚又ハ荷操ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 甲板ナキ船舶ニ於テ旅客ヲ運送スルトキハ火藥類ヲ船積スルコトヲ得ス

第八條 火藥類ハ旅客ノ上船又ハ下船ト同時ニ船積又ハ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 銃砲火藥類取締法施行細則ノ規定ニ依リ別棟ノ火藥類貯藏所ニ貯藏スヘキ火藥類ハ之ヲ同一ノ船艙ニ積載スルコトヲ得ス

第十條 火藥類ハ甲板ナキ船舶ニ在リテハ同時ニ之ヲ船積スルコトヲ得ス近シテ積載シ又ハ他ノ貨物ノ下ニ積載スルコトヲ得ス

第十一條 火藥類ハ動搖セサル様緊密ニ積載スヘシ

第十二條 火藥類ノ船積、陸揚又ハ荷操ヲ爲ストキハ之ヲ投下スルコトヲ得ス又激突ヲ豫防シ得ル様革帆布若ハ毛布ノ類ヲ以テ其經過スヘキ場所ヲ蔽ヒタル場合ヲ除クノ外之ヲ轉輾スルコトヲ得ス

第十三條 火藥類ハ機關室、蓄電池、發電機、料理場、石炭庫、油槽其他ノ熱氣アル場所ニ接近シテ積載スルコトヲ得ス

第十四條 火藥類ハ旅客室、船員室又ハ之ニ接近シタル場所ニ積載スルコトヲ得ス但旅客室ニ在リテハ旅客ヲ運送セサル場合ハ此限ニ在ラス

第十五條 火藥類ヲ積載スル場所ニ鐵釘其ノ他ノ鐵具アルトキハ木板、革、帆布若ハ毛布ノ類ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

第十六條 火藥類ヲ船艙ニ積載シタルトキハ艙口ヲ密閉シ覆布ヲ以テ之ヲ覆フヘシ

第十七條 火藥類ノ積卸ヲ爲ス場所又ハ火藥類ヲ積載シタル場所ニ於テハ安全燈ノ外燈火ヲ使用スルコトヲ得ス

第十八條 物品ヲ携帶シ又ハ喫煙スルコトヲ得ス

第十九條 銃砲火藥類取締法施行細則第二十八條ノ規定ニ依リ倉庫ニ貯藏スルコトヲ得ヘキ數量ヲ超過スル火藥類ヲ積載スル船舶湖川港内ニ於テ航行、碇泊又ハ繫留スルトキハ船舶検査規程ニ依リ信號旗及紅燈ヲ具フルモノニ在リテハ晝間ハBノ信號旗夜間ハ紅燈ヲ橋頭其他見易キ場所ニ掲ケ其他ノ船舶ニ在リテハ晝間ハ赤旗夜間ハ赤色安全燈ヲ見易キ場所ニ掲クヘシ但シ常用火藥類及第二十二條ニ揚クル火藥類ノミヲ積載スル場合ハ此限ニ在ラス

第二十條 船舶ニハ其ノ常用外ノ火藥類ヲ貯藏スルコトヲ得ス但シ銃砲火藥類取締法施行細則ノ規定ニ依リ繫留船若ハ倉庫船ニ貯藏スル場合ハ此限ニ在ラス

開港港則施行細則第五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ船舶ノ業務用トシテ積載スル火藥類ハ此ノ限ニ在ラス

船舶ノ常用火藥類ハ木製ノ箱ニ容レ且容易ニ取出シ得ヘキ安全ナル場所ニ之ヲ貯藏スヘシ

第二十一條 旅客ハ火藥類ヲ携帯シテ乗船スルコトヲ得ス但シ船長ノ許可ヲ得テ少量ノ銃用火藥類ヲ携帯スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條 銃用實包、銃用空包、爆管ヲ附シ火藥類ヲ裝填セサル藥莖、雷管（工業用雷管ヲ除ク）爆管、信管、門管、濕藥（箱内ノ火藥又ハ爆發ヲ爆發ノ危険ナキニ至ルマテ十分濕潤ノ上箱ヲ密閉シ該箱ノ上ノ上ニ濕藥ト明記シタルモノ）起爆劑ヲ附セサル「ヒクリン」散及之ヲ主トセル爆藥ニハ第七條、第八條、第十四條乃至第十六條及第十八條ノ規定ヲ適用セス

雷管ヲ附シ火藥類ヲ裝填セサル藥莖、緩燃導火線、信號燭管、星火ヲ發スル榴彈（十二箇以下ヲ木製容器ニ收納シ激突又ハ摩擦ヲ豫防シ得ル様各物品間ニ麻屑、紙屑等ノ類ヲ填充シタル場合）及火箭（六箇以下ヲ木製容器ニ收納シ激突又ハ摩擦ヲ豫防シ得ル様各物品間ニ麻屑紙屑等ノ類ヲ填充シタル場合ニハ前項ノ外第九條ノ規定ヲ適用セス

高知縣

長岡郡三里村長
幡多郡下田村長

安藝郡甲ノ浦村長

福岡縣

遠賀郡若松町長
三池郡大牟田町長
門司市長

福岡市長
三潯郡大川町長

佐賀縣

東松浦郡唐津町長
小城郡芦刈村長

西松浦西山代村長

熊本縣

宇土郡三角村長

沖繩縣

那覇區長

大分縣

北海郡佐賀ノ關町長

同郡東方村長

鹿兒島縣

大島郡名瀬村長
東臼杵郡細島町長
南那珂郡油津町長

宮崎郡赤江村長
兒湯郡美々津村長

宮崎縣

船舶検査執行地

(最近)

東京遞信管理局	〔武藏國東京〕	全 品川	下總國佐原
全 石巻出張所	陸前國石巻	常陸國湊	伊豆國下田
大阪遞信 誼局	攝津國大阪	全 鹽釜	
全 鳥羽出張所	〔丹後國舞鶴〕	攝津國津守	和泉國堺
全 伏木出張所	志摩國鳥羽	近江國大津	越前國敦賀
全 〔京〕知出張所	〔越中國伏木〕	紀伊國和歌山	全 新宮
横濱遞信管理局	全 〔土佐國高知〕	全 的矢	伊勢國大湊
全 浦賀出張所	武藏國横濱	全 東岩瀬	全 石田
全 半田出張所	〔尾張國半田〕	能登國七尾	全 浦戶
全 清水出張所	全 〔三谷〕	全 種崎	相模國真鶴
	駿河國清水	全 神奈川	三河國大濱
		全 横須賀	伊豆國松崎
		全 熱田	
		遠江國掛塚	

愛知縣	〔名古屋市長〕	寶飯郡三谷村長
静岡縣	〔知多郡常滑町長〕	盤田郡掛塚町長
宮城縣	賀茂郡下田町長	下閉伊郡鍛ヶ崎町長
巖手縣	宮城郡鹽釜町長	下北郡大湊村長
青森縣	上伊閉郡釜石町長	
山形縣	青森市長	
秋田縣	飽海郡酒田町長	山本郡能代町長
新潟縣	〔南秋田郡土崎町長〕	佐渡郡小木町長
富山縣	〔南秋田郡船川町長〕	上新川郡東岩瀬町長
福井縣	佐渡郡兩津町長	阪井郡三國町長
石川縣	〔下新川郡魚津町長〕	能美郡安宅町長
島根縣	〔石川郡上金石町長〕	周西郡西鄉村長
	〔下新川郡石田村長〕	
	〔鹿島郡七尾町長〕	
	〔石川郡上金石町長〕	
	〔遼摩郡温泉津町長〕	

鳥取縣

氣高郡賀露村長

知夫郡黒木村長

岡山縣

兒島郡下津井町長

廣島縣

廣島市長
豐田郡東野村長
吳市長
尾ノ道市長
御調郡三庄村長

豐田郡佐江崎村長
豐田郡御手洗町長
豐田郡大崎中野村長
御調郡土生村長

山口縣

大島郡久賀村長
熊毛郡摩里布村長
大島郡小松志佐村長
同郡和田村長

都濃郡德山村長
厚狹郡藤山村長
吉敷郡井關村長

和歌山縣

海草郡湊村長
東牟婁郡勝浦村長

西牟婁郡串本町長
東牟婁郡新宮町長

德島縣

名東郡齊津村長

板野郡撫養町長

香川縣

綾歌郡阪出町長

越智郡波止濱村長

愛媛縣

北宇和郡八幡町長
西宇和郡川ノ石村長

第二十三條 左ノ場合ニ於テハ船長ヲ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條、第四條三項、第五條第一項、第六條乃至第十一條第十二條

第二項、第十三條乃至十六條、第十八條、第十九條又ハ第二十條第一項

第三項ニ違背シタルトキ

二 第五條第二項ノ命令ニ違背シタルトキ

第二十四條 第四條第一項第二項、第十二條第一項第十七條若ハ第二十一

條ニ違背シ又ハ詐僞ノ所爲ヲ以テ第二十二條ノ適用ヲ受ケタルモノ亦前

條ニ同シ

附 則

本令ハ明治四十三年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年九月遞信省令第三十九號火藥類船舶運送及貯藏規程ハ之ヲ廢止ス

管海官廳ノ事務ヲ行フ市町村長等 (最近)

三百七十六

北海道	岩内郡岩内町長 室蘭郡室蘭町長 釧路郡釧路町長	宗谷郡雅内村長 根室郡根室町長
東京府	荏原郡品川町長	加佐郡舞鶴町長
京都府	與謝郡宮津町長	赤穂郡阪越村長
神奈川縣	三浦郡三崎町長	上縣郡佐須奈村長 西松浦郡山口村長 海上郡銚子町長
兵庫縣	三原郡福良町長 城崎郡港村長	志摩郡濱島村長
長崎縣	佐世保市長 下縣郡嚴原町長	
千葉縣	安房郡館山町長	
茨城縣	那珂郡湊村長	
三重縣	四日市市長	

神戸遞信管理局

全 境 出張所	攝津國神戸	全 兵庫	全 新在家
全 多度津出張所	伯耆國境	阿波國撫養	
長崎遞信管理局	讚岐國多度津	出雲國松江	
全 口ノ津出張所	肥前國長崎	備前國下津井	
全 鹿兒島出張所	全 網場	全 時津	全 茂木
札幌遞信管理局	肥前國口ノ津	全 唐津	全 佐世保
全 小樽出張所	全 大牟田	肥後國御領	全 筑後國若津
廣島遞信管理局	薩摩國鹿兒島	膽振國室蘭	全 筑後國鬼池
	渡島國函館	陸奥國青森	
	後志國小樽		
	備後國糸崎		
	全 安藝國宇品	全 尾ノ道	全 因ノ島
	全 生口島	全 能地	全 大崎上島
		全 高根島	全 吳
全 下ノ關出張所	長門國下ノ關	全 藤曲	全 彦島
	全 長府	全 宇部	全 周防國麻里
	全 豐前國門司	筑前國若松	

船舶職員試驗場所及期日

三百七十七

全三津濱出張所

〔全〕伊豫國三津濱
〔全〕興居島

新潟遞信管理局

越後國新潟

〔全〕高濱
〔全〕周防國屋代島
〔全〕松崎

〔全〕波止濱
〔全〕沼垂

船舶職員試驗場所及期日

東京遞信管理局
長崎遞信管理局

一月 三月 五月
七月 九月 十一月

大阪遞信管理局
札幌遞信管理局

二月 四月 六月
八月 十月 十二月

東京、長崎ハ奇ノ月、大阪札幌(函館ニテ)ハ偶ノ月ノ各十日トシ當日休暇日ナルトキハ順次之ヲ延期ス

治 治 同 同 大 大
四 四 四 四 正 正
十 十 十 十 二 二
年 年 年 年 年 年
八 八 六 六 三 三
月 月 月 月 月 月
一 一 一 一 一 一
日 日 日 日 日 日
再 再 訂 訂 訂 訂
發 發 正 正 正 正
行 行 三 三 三 三
刷 刷 版 版 版 版
行 行 發 發 發 發
刷 刷 行 行 行 行

(正價金參拾錢)



編纂者 吉田虎三郎
發行者 吉田利三郎
印刷者 岩井龜次郎

大阪市東區南本町四丁目御堂筋西

三宅莊藏

振替口座大阪六九 電話長東三六一六

大阪市西區松島勤工場正業館三階内

吉田書店

振替口座大阪一五六〇四番

大賣捌所

大正二年三月改正

海
事
書
目
錄

大阪 吉田文具店

中山智行著

航海術算法解說

正價貳圓 小包拾貳錢

算式及問題全二冊
大和綴四百七拾四頁
圖解

航海日誌推算	太陽子午線緯度	近午緯度法
自差測定 遠標方位	太陽出沒方位	星ノ經過時及推算高度
自差測定 互測方位	高潮時算	行星子午線經過時
緯線航法ノ一緯度	太陽方位角	月ノ子午線經過時
緯線航法ノ二經度	時辰儀經度	恒星子午線緯度
斜針路ノ一 方位距離	時辰儀遲速算法	極星緯度法
斜針路ノ二 經緯度	サムナ一法	太陰子午線緯度

前記航海術算法各五題乃至十題ノ算式及說明ハ納メテ此兩冊ノ内ニア
リ本書ニヨリテ前記算法ヲ修得シ得ラル、確信ヲ以テ諸君ニ提供ス内
容ハ敢テ贅セズ

航海術之部

- 松本安藏著 最新航海表 定價金參圓五拾錢 小包金貳拾四錢
- 海員接濟會發行 航海表 定價金參圓五拾錢 小包金貳拾四錢
- 千九百年練習用航海曆 定價金壹圓九拾錢 小包金拾貳錢
- 千九百十二年松本氏航海曆 定價金壹圓 郵稅金六錢
- 中山智行著 航海術算法解說 定價金貳圓 小包金拾貳錢
- 中山海士學館 航海術新問題集 定價金壹圓貳拾錢 小包金八錢

- 松本安藏著 航海術全二冊 各實價金貳圓壹拾錢 各郵稅金拾貳錢
- 松本安藏著 航海術第二試驗問題答案 定價金壹圓 郵稅金六錢
- 中山海士學館 航海ニ用語ノ說明 定價金參拾錢 郵稅金貳錢
- 中山海士學館編 海圖問題集 自差表付 定價金參拾錢 郵稅金貳錢
- 中山海士學館編 練習用海圖 郵稅共金拾八錢
- 羅針盤及信號旗 一枚金拾貳錢 郵稅金貳錢

甲種船長田中秀一著
●受驗者心得 定價金五拾錢
●中山著 郵稅金六錢
●十二時奇零對數表 一枚金五錢
郵稅金貳錢

運用術之部

中山海士學館編
●那氏練習用紙 定價金五錢
●自在練習用紙 郵稅金貳錢
●那氏船舶用紙 定價金五錢
●自差船舶用紙 郵稅金貳錢

松本安藏著
●訂正增補 商船運用問答 定價金貳圓五拾錢 郵稅拾八錢
●十三版

中山海士學館編
●中山運用術 第一集 合本 定價金五拾錢 郵稅金六錢
羅針儀、自差測定、測深具、測程具、貨物、錨鎖、汽船運用、同帆、板、信號、海圖說明

●同 第三集 定價金四拾五錢
船體、屬具、索具、圓材、ロロマスト、帆ノ扱、帆船運用
●真柄要人著 定價金四拾八拾錢
●丙種運用術獨學 郵稅金拾八錢
●野々村准言著 定價金九拾貳錢
●乙種運用術問答 郵稅金拾貳錢
●丙種

小堀正男共著
●航海術測器詳解 上卷 定價金九拾錢
●航海術測器詳解 下卷 郵稅金六錢
●航海術測器詳解 卷下 定價金九拾錢
郵稅金六錢
●航海術測器詳解 卷下 定價金九拾錢
郵稅金六錢
●航海術測器詳解 卷下 定價金九拾錢
郵稅金六錢

小野謙太郎著
●天象唱歌 二十四時 定價金拾五錢
●海上氣象學 定價金八拾貳錢
●海上氣象學 定價金八拾貳錢
●海上氣象學 定價金八拾貳錢
●海上氣象學 定價金八拾貳錢

農學士岡田武松著
●近世氣象學 定價金參拾七錢
●近世氣象學 定價金參拾七錢
●近世氣象學 定價金參拾七錢
●近世氣象學 定價金參拾七錢

理學士一月直藏著
●高等天文學 定價金參拾七錢
●高等天文學 定價金參拾七錢
●高等天文學 定價金參拾七錢
●高等天文學 定價金參拾七錢

中山海士學館著
●六分儀經線儀 定價金拾五錢
●中山海士學館著 郵稅金貳錢
●中山海士學館著 定價金拾五錢
●中山海士學館著 郵稅金貳錢

中山海士學館編
●暗車作用重貨物 定價金拾五錢
●中山海士學館編 郵稅金貳錢
●中山海士學館編 定價金拾五錢
●中山海士學館編 郵稅金貳錢

中山海士學館編
●海難處理 定價金拾五錢
●中山海士學館編 郵稅金貳錢
●中山海士學館編 定價金拾五錢
●中山海士學館編 郵稅金貳錢

中山海士學館編
●衝突豫防法 講義 定價金六拾錢
●衝突豫防法 問答 郵稅金四拾錢
●衝突豫防法 講義 定價金六拾錢
●衝突豫防法 問答 郵稅金四拾錢

●松本安藏著
●衛突 豫防 自驗練習力一卜
一組金四拾錢 小包金八錢

●運輸時報社
●海事法令類聚
定價金參圓五拾錢
小包金貳拾錢

●大正二年改正
●新海軍法令
定價金參拾錢
郵稅金四錢

●中山海士學館著
●海事法規ノ要項
定價金貳拾錢
郵稅金貳錢

●法學士鹽田環著
●船員論
定價金壹圓拾錢
郵稅金拾貳錢

●法學士秋野況著
●海運論
定價金貳拾八錢
郵稅金拾八錢

●法學士赤松梅吉著
●海上保險法
定價金參拾七錢
郵稅金八錢

●船舶論
定價金參拾七錢
郵稅金八錢

●窪川眞澄著
●增訂 海上運送
定價金四圓
郵稅金貳拾四錢

●星
●理學士須藤傳四郎著
定價金參拾七錢
郵稅金八錢

●吉宮三郎編
●英航海日誌書方
特價金五拾錢
郵稅金四錢

●中山海士學館編
●航海記事案內
定價金貳拾五錢
郵稅金貳錢

●海軍教授內藤信夫共著
●海軍教授川井田藤助
●英海語辭典
定價金壹圓六拾錢
郵稅金拾貳錢

雜書之部

●管船局編
●船名錄
定價金參圓七拾錢
郵稅金貳拾四錢

●航路標識管理所編
●航路標識便覽表
定價金壹圓貳拾錢
郵稅金拾貳錢

機關書之部

●清水増太郎著
●海陸火夫實用問答
定價金參拾錢
郵稅金四錢

●清水増太郎著
●機關學問答
定價金四拾五錢
郵稅金拾錢

●河本市松著
●諸機關名稱
定價金壹錢
郵稅金六錢

●馬場哲次郎校閱
●實用船舶機關士問答
定價金九拾錢
郵稅金拾貳錢

●清水増太郎著
●蒸汽機關地取扱法
定價金八拾錢
郵稅金拾錢

- 伊勢伊喜松著 增訂船舶用機開口述問答 定價金貳圓七十五錢 郵税金拾八錢
- 片山清吉著 船舶用機關學講義 定價金貳圓參拾錢 郵税金拾八錢
- 德田武作著 十版 蒸汽機關學 定價金貳圓七十五錢 郵税金拾八錢
- 伊勢伊喜松著 機關ノ虎 記事口述部 定價金壹圓八拾錢 郵税金拾貳錢
- 眞田令治著 バルブ及バルブギア 定價金壹圓五拾錢 郵税金八錢
- 島谷敏郎著 指壓器及指壓圖 定價金壹圓五拾錢 郵税金拾貳錢
- 島谷敏郎著 蒸汽タービン 定價金壹圓五拾錢 郵税金拾貳錢

- 前田庸一著 實用船舶機關術 定價金貳圓 小包金拾八錢
- 江浪常吉著 工業 蒸汽機關 定價金七拾五錢 郵税金八錢
- 電機學校編 蒸汽機罐及汽機 定價金壹圓五拾錢 郵税金拾貳錢
- 伊勢伊喜松著 機關算法問題集 定價金壹圓拾錢 郵税金八錢
- 伊勢伊喜松著 機關算法問題集解式 定價金七拾錢 郵税金八錢
- 片山清吉著 機關土 受驗用 機關算法講義 定價金壹圓參拾錢 郵税金拾貳錢
- 德田武作著 六版 增訂 機關算法問題集 定價金壹圓貳拾錢 郵税金拾貳錢

- 清水増太郎編(瓦斯石油キカン) 瓦斯及石油機關取扱法 定價金四拾五錢 郵税金六錢
- 淺川權八著 瓦斯ろんじん 定價金壹圓貳拾錢 郵税金拾貳錢
- 淺川博士著 石油ろんじん 定價金壹圓五拾錢 郵税金拾貳錢
- (機關學ノ種々設計向トシテ) 學士内丸最一著 蒸汽 罐 定價金壹圓七拾錢 郵税金拾貳錢
- 内丸最一著 蒸汽 機關 定價金貳圓 郵税金拾貳錢
- 工學博士斯波忠三著 蒸汽 機關 定價金貳圓拾錢 郵税金拾貳錢
- 内丸最一著 蒸汽タービン 定價金壹圓八拾錢 郵税金拾貳錢

- 内丸最一著 瓦斯及石油機關 定價金貳圓貳拾錢 郵税金拾貳錢
- 前澤初治著(ボケットブック) 實用 鐵工 便覽 定價金六拾八錢 郵税金八錢
- 今木七十郎著 訂正 今木 手工便覽 前編 全二冊 定價金壹圓四拾錢 郵税金拾貳錢
- 市川忠一著 機械工學便覽 定價金貳圓九拾錢 郵税金拾貳錢
- 宮城信五郎著(機械學工作機械) 機械學 全三冊 定價各壹圓七拾錢 郵税金各拾貳錢
- 池田辰衛著 上力學、材料強弱學、中、下、機械論 定價金貳圓拾錢 郵税金拾貳錢
- 實地工作術 定價金貳圓拾錢 郵税金拾貳錢

造船學之部

工學博士橫田成年著

●造 船 學

定價金貳
郵税金拾貳圓

加藤成一 高山真坪共著
●木船構造術

定價金壹圓拾五錢
郵税金八錢

武田甲子太郎著

●造船學講義 木船
定價金壹圓五拾錢
郵税金拾貳錢

製圖及用器畫之部

楊原熊藏 早川千太郎共編

●新撰幾何畫法 全二冊

定價各金貳拾錢
郵稅各金四錢

福田製圖學館編

●機械製圖の手引

定價金參拾錢
郵税金四錢

●同說 明 二冊

定價各金拾五錢
郵稅各金貳錢

久保田圭右著

●製圖者必携

定價金八拾貳錢
郵税金四錢

松尾哲太郎著

●新撰用器畫法 中學

定價金五拾錢
郵税金八錢

松尾哲太郎著

●近實用製圖便覽

定價金九拾五錢
郵税金八錢

●同用器畫解說

定價金五拾錢
郵税金八錢

文部省實業學務局編

●工業學校機械製圖教授要目

定價金四拾錢
郵税金八錢

片山清吉著

●機關長機械製圖帳 受驗用

定價金壹圓八五錢
郵税金拾貳錢

內丸最一 田中不二共著

●機械設計及製圖 全二冊

實價金貳圓五拾錢
郵税金拾貳錢

電氣學之部

荻原泰吉著

●最新電氣學

實價金參拾七錢
郵税金八錢

海軍機關中佐木村駿吉著

●電氣及磁氣

實價金參圓貳五錢
郵税金拾貳錢

若日田利助著

●電氣學 A B C

定價金貳
郵税金拾貳錢

伊藤奎二著

●電氣工學初步

實價金壹圓貳拾錢
郵税金拾貳錢

若日田利助著

●電氣及磁氣

定價金貳
郵税金拾貳錢

若日田利助著

●理論通俗電氣學 應用

實價金九拾五錢
郵税金拾貳錢

●電機學校編

●電氣磁氣

定價金貳圓五拾錢
郵税金拾貳錢

電氣學研究會編

●實用電氣學問答

實價金八拾錢
郵税金拾貳錢